

松谷松下2遺跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋藏文化財発掘調査報告書

2022

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

松谷松下2遺跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジと長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジとを結ぶ総延長約80kmに及ぶ自動車専用の地域高規格道路です。この事業は、群馬県の「はばたけ群馬・県土整備プラン」で示された「7つの交通軸構想」のうちの「吾妻軸」に属し、関越自動車道と上信越自動車道とを結ぶ新たな交通体系として、吾妻地域の活性化に寄与することが期待されています。この上信自動車道の8箇所の整備区間の一つである吾妻西バイパスは、吾妻郡東吾妻町大字厚田から大字松谷に至る約7kmの区間で、平成21年3月に整備区間に指定され、目下、事業完了を目指して本工事等が鋭意進められているところです。

吾妻郡東吾妻町大字松谷に所在する当遺跡は、事業対象地が埋蔵文化財包蔵地に含まれており、群馬県文化財保護課によって遺構の存在が確認されたため、群馬県県土整備部と群馬県文化財保護課との調整を経て、令和元年度に当事業団が発掘調査を実施しました。その結果、中・近世の掘立柱建物、堀、復旧坑、窯などの遺構が発見され、城砦と耕地の様相が明らかとなりました。

令和3年度に当事業団が整理事業を実施し、このたび、発掘調査の成果をまとめ、発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでには、群馬県県土整備部、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県地域創生部文化財保護課、群馬県教育委員会、東吾妻町教育委員会、地元関係者の方々などに多大なるご指導とご協力を賜りました。ここに篤く御礼を申し上げますとともに、本書が地域における歴史の解明に役立てられますことを願います、序といたします。

令和4年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

1. 本書は、「平成31年度上信自動車道吾妻西バイパス建設事業」に伴い発掘調査された松谷松下2遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡は、吾妻郡東吾妻町大字松谷字久々戸内132、163-3、164-1、164-2、164-4、165、166、内167、甲168、169、170、171、172、173、無番地Bに所在する。
3. 調査面積は、3,890m²である。
4. 事業主体は群馬県上信自動車道建設事務所である。
5. 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
6. 発掘調査の期間と体制は次のとおりである。

名　　称：平成31年度上信自動車道吾妻西バイパス建設事業

履行期間：令和元年9月1日～令和2年1月31日

調査期間：令和元年10月1日～令和元年11月30日

調査担当：山本直哉(調査研究員)、間庭　稔(専門調査役)

遺跡掘削工事請負：シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

地上測量委託　：株式会社測研

7. 整理事業の期間と体制は次のとおりである。

名　　称：令和2年度上信自動車道吾妻西バイパス建設事業

履行期間：令和3年3月31日～令和4年3月31日

整理期間：令和3年9月1日～令和4年1月31日

整理担当：高島英之(専門員(総括))

編集・本文執筆：高島英之(専門員(総括))

遺物観察　　：石器・石製品—岩崎泰一(専門調査役)

縄文・弥生土器—山口逸弘(専門調査役)

金属製品—板垣泰之(専門員(主任))

デジタル編集　：齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)

遺物写真撮影　：石器・石製品—岩崎泰一

縄文・弥生土器—山口逸弘(専門調査役)

土師器・須恵器—高島英之

金属器—板垣泰之

遺物保存処理　：板垣泰之・閔　邦一

8. 石材同定は飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。

9. 出土遺物および写真・図面等記録類は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

10. 発掘調査および報告書作成には、次の関係諸機関にご協力、ご助言をいただいた。

群馬県県土整備部、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、

東吾妻町教育委員会

凡　例

1. 本報告書に用いた遺構名称は、発掘調査時の名称を踏襲したが、整理作業の過程で変更したものもある。
2. 本報告書に用いた座標・方位は、すべて国家座標第IX系(世界測地系)による。主軸方位等の計算にもこれを用いた。
3. 本報告書の遺構図版縮尺は以下の通り。ただし、遺構によってはこの限りではない。
　　遺構平面図 煙1/200、復旧坑1/150、掘立柱建物・樋1/60、溝・堀1/160、土坑・ピット1/40
　　遺構断面図 煙1/50、溝・堀1/40。その他は平面図と同じ。
4. 本報告書の遺物図版縮尺は以下の通り。ただし、遺物によってはこの限りではない。
　　縄文土器・弥生土器1/4、土師器・須恵器・石器(石鐵以外)・石製品1/3、金属製品1/2、石器(石鐵)・錢貨1/1
5. 本報告書のスクリーントーン表現・記号は以下の通り。

平面図 ■ 燃土 ■■■■■ 炭化物 ■■■ 黒色土

断面図 ■■■ 搾乱

● 土器・土製品 ■ 鉄・金属製品・古銭 △ 骨

6. 本報告書における遺構等の略称は以下の通り。
　　掘立・掘立柱建物、土…土坑、P…ピット
7. 本報告書中の遺構断面図の標高値は、原則として断面図上に「L=○○m」のように表記した。
8. 本報告書における土層断面図及び遺物観察表に記した色調表現は、農林水産省水産技術事務局・財團法人日本色彩研究所色票監修1988『新版標準土色帳』によった。
9. 本報告書におけるテフラ(火山噴出物)の略号は以下の通り(テフラの名称は町田　洋・新井房夫1992『火山灰アトラス』東京大学出版会による)。
　　As-A…浅間 A、As-B…浅間 B、As-C…浅間 C、Hr~FA…榛名二ツ岳洪川、Hr~FP…榛名二ツ岳伊香保

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図・表・写真図版目次	
第1章 調査に至る経緯、方法と経過	1
第1節 上信自動車道吾妻西バイパスについて	1
第2節 調査に至る経緯	2
第3節 発掘調査の方法	4
1. 調査区と座標の設定	4
2. 発掘調査の方法	4
3. 遺構測量	6
4. 遺構写真撮影	6
第4節 発掘調査の経過	6
1. 1区の調査	8
2. 2区の調査	8
第5節 整理作業の経過と方法	9
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	11
第1節 地理的環境	11
第2節 歴史的環境	11
1. 旧石器時代	13
2. 縄文時代	13
3. 弥生時代	14
4. 古墳時代	14
5. 奈良・平安時代	15
6. 中世	17
7. 近世	17
第3節 基本土層	19
第3章 発見された遺構と遺物	22
第1節 1面から検出された遺構と遺物	22
1. 復旧坑	22
2. 煙	31
第2節 2面から検出された遺構と遺物	38
1. 掘立柱建物	41
2. 柵	46
3. 堀	50
4. 溝	53
5. 墓壙	55
6. 土坑	57
7. ピット	71
第3節 遺構出土遺物	76
1. 縄文土器	76
2. その他の遺物	76
第4節 旧石器確認調査	78
第4章 調査成果の整理とまとめ	81
第1節 1面から検出された復旧坑と烟	81
第2節 2面から検出された方形形状の区画とその内外の遺構	81
1. 方形区画内から検出された主な遺構	81
2. 方形区画域の外部から	
検出された主な遺構	82
遺物観察表	
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 上信自動車道計画路線図	1	第22図 1区2面2号掘立柱建物、3号櫛上断面図	45
第2図 道路の位置	2	第23図 1区2面1・2号櫛	48
第3図 上信自動車道吾妻西バイパスの路線と各道路位置図	3	第24図 1区2面1・2号櫛	51
第4図 調査区設定図	5	第25図 1区2面1号堆出上遺物	53
第5図 松谷松下遺跡(町調査)・松谷松下2遺跡の位置	7	第26図 1区2面方面区画間連遺構分布図	54
第6図 周辺地形分類図	12	第27図 1区2面1号講	55
第7図 周辺遺跡分布図	18	第28図 1区2面1・39号土坑、1号土坑出土上遺物	56
第8図 基本上層図	20	第29図 1区2面2~7号土坑	59
第9図 1・2区1面全体制図	23	第30図 1区2面8~14号土坑	61
第10図 2区全体図	25	第31図 1区2面15~22号土坑	63
第11図 1区1面1・2号復旧坑	26	第32図 1区2面23~26号土坑、25号土坑出土上遺物	65
第12図 1区1面3~18号復旧坑群	30	第33図 1区2面27~35号土坑	68
第13図 1区1面3~18号復旧坑群上断面図	31	第34図 1区2面36~38・40号土坑	70
第14図 1区1面1号壙の各層	32	第35図 1区2面1・2・6・8・10・12・22号ビット	71
第15図 1区1面1号壙	35	第36図 1区2面23~26・29・31~35・40~47号ビット	72
第16図 1区1面1号壙上断面図	37	第37図 1区2面48~65号ビット	73
第17図 1区1面1・2号トレンチ	38	第38図 1・2区遺構外出土上遺物	77
第18図 1・2区2面全体制図	39	第39図 1区旧石器確認トレンチ位置図	78
第19図 1区2面1号掘立柱建物	42	第40図 1区1~5号旧石器確認トレンチ上断面図	79
第20図 1区2面1号掘立柱建物上断面図	43	第41図 1区6号旧石器確認トレンチ上断面図	80
第21図 1区2面2号掘立柱建物、3号櫛	44		

表 目 次

第1表 上信自動車道吾妻西バイパス調査遺跡一覧	3	第4表 松谷松下2遺跡出土非銅製鐵文土器数量一覧	76
第2表 周辺遺跡一覧表	19	第5表 調査区、確認面ごとの調査区別道構検出量	80
第3表 松谷松下2遺跡ビット一覧表	74	第6表 遺物觀察表	85

写 真 目 次

PL. 1 1 1区1面調査区南半全景(北西から、右に吾妻川)	3	PL. 8 1 1区1面1号烟A~A'断面(北西から)	76
2 1区1面調査区北半全景(南東から)		2 1区1面1号烟A~A'断面(北西から)	
PL. 2 1 1区復旧坑・煙南半出土状況(北から)	19	3 1区1面1号烟3群半面1(南から)	
2 1区1面復旧坑・煙北半出土状況(北から)		4 1区1面1号烟4群半面4(南から)	
PL. 3 1 1区1面1・2号復旧坑全景(北から)	74	5 1区2面東側全景(北西から)	
2 1区1面3~13号復旧坑全景(東から)		PL. 9 1 1区2面1号掘立柱建物全景(北西から)	
PL. 4 1 1区1面13~18号復旧坑全景(北西から)		2 1区2面1号掘立柱建物P 1全景(北西から)	
2 1区1面1号復旧坑断面(北東から)		3 1区2面1号掘立柱建物P 1断面(北西から)	
3 1区2面2号復旧坑断面(北東から)		4 1区2面1号掘立柱建物 P 2全景(北西から)	
4 1区1面3~13号復旧坑断面(北から)		5 1区2面1号掘立柱建物 P 2断面(西から)	
5 1区1面3号復旧坑断面(東から)		6 1区2面1号掘立柱建物 P 3全景(西から)	
PL. 5 1 1区1面4号復旧坑断面(東から)		7 1区2面1号掘立柱建物 P 3断面(北西から)	
2 1区1面5号復旧坑断面(東から)		PL. 10 1 1区2面1号掘立柱建物 P 4全景(北西から)	
3 1区1面6号復旧坑断面(東から)		2 1区2面1号掘立柱建物 P 4断面(北西から)	
4 1区1面7号復旧坑断面(東から)		3 1区2面1号掘立柱建物 P 5全景(南東から)	
5 1区1面8号復旧坑断面(東から)		4 1区2面1号掘立柱建物 P 5断面(南東から)	
6 1区1面9号復旧坑断面(東から)		5 1区2面1号掘立柱建物 P 6全景(南東から)	
7 1区1面10号復旧坑断面(東から)		6 1区2面1号掘立柱建物 P 7全景(南東から)	
8 1区1面11号復旧坑断面(東から)		7 1区2面2号掘立柱建物、3号櫛全景(北西から)	
PL. 6 1 1区1面12号復旧坑断面(東から)		PL. 11 1 1区2面2号掘立柱建物 P 1全景(南から)	
2 1区1面13~18号復旧坑断面(南東から)		2 1区2面2号掘立柱建物 P 1断面(南西から)	
3 1区1面13号復旧坑断面(南東から)		3 1区2面2号掘立柱建物 P 2全景(南西から)	
4 1区1面14号復旧坑断面(南東から)		4 1区2面2号掘立柱建物 P 2断面(南西から)	
5 1区1面15号復旧坑断面(南東から)		5 1区2面2号掘立柱建物 P 3全景(南西から)	
6 1区1面16号復旧坑断面(南東から)		6 1区2面2号掘立柱建物 P 3断面(南西から)	
7 1区1面17号復旧坑断面(南東から)		7 1区2面2号掘立柱建物 P 4全景(南から)	
8 1区1面18号復旧坑断面(南東から)		8 1区2面2号掘立柱建物 P 4断面(南から)	
PL. 7 1 1区1面1号烟南半全景(南東から)		9 1区2面2号掘立柱建物 P 5全景(南から)	
2 1区1面1号烟北半全景(南東から)		10 1区2面2号掘立柱建物 P 5断面(南から)	

11	1区2面2号掘立柱建物P 6全景(北から)	3	1区2面13号上坑全景(北西から)
12	1区2面2号掘立柱建物T 7全景(南から)	4	1区2面13号上坑断面(北西から)
13	1区2面2号掘立柱建物T 7断面(南から)	5	1区2面14号上坑全景(南西から)
14	1区2面2号掘立柱建物T 8全景(南から)	6	1区2面14号上坑断面(南西から)
15	1区2面2号掘立柱建物T 8断面(南から)	7	1区2面15号上坑全景(北から)
PL. 12	1 1区2面3号櫛P 9全景(西から) 2 1区2面3号櫛P 10全景(西から) 3 1区2面3号櫛P 11全景(西から) 4 1区2面3号櫛P 12全景(西から) 5 1区2面3号櫛P 13全景(西から) 6 1区2面1・2号櫛全景(北から)	8	1区2面15号上坑断面(南から)
PL. 13	1 1区2面1号櫛P 1全景(北から) 2 1区2面1号櫛P 2全景(南西から) 3 1区2面1号櫛P 2断面(南西から) 4 1区2面1号櫛P 3全景(西から) 5 1区2面1号櫛P 3断面(南から) 6 1区2面1号櫛P 4全景(西から) 7 1区2面2号櫛P 5全景(南から) 8 1区2面2号櫛P 6全景(南から) 9 1区2面2号櫛P 7全景(南西から) 10 1区2面2号櫛P 8全景(西から) 11 1区2面2号櫛P 9全景(南西から)	PL. 21	1 1区2面16号上坑全景(北西から) 2 1区2面17号上坑全景(南西から) 3 1区2面18号上坑全景(南から) 4 1区2面18号上坑断面(南から) 5 1区2面19号上坑全景(南西から) 6 1区2面19号上坑断面(南西から) 7 1区2面20号上坑全景(西から) 8 1区2面20号上坑断面(南西から)
PL. 14	1 1区2面1・2号掘全景(西から) 2 1区2面1・2号掘南半全景(南西から) 3 1区2面1・2号掘北半全景(北東から)	PL. 22	1 1区2面21号上坑全景(西から) 2 1区2面21号上坑断面(西から) 3 1区2面22号上坑全景(西から) 4 1区2面22号上坑断面(西から) 5 1区2面23号上坑全景(南西から) 6 1区2面23号上坑断面(南西から) 7 1区2面24号上坑全景(南西から) 8 1区2面24号上坑断面(南西から)
PL. 15	1 1区2面1・2号掘東端全景(東から) 2 1区2面1号掘A-A'断面(西から) 3 1区2面2号掘B-B'断面(西から) 4 1区2面1・2号掘C-C'断面(南西から) 5 1区2面1号掘C-C'断面(南西から) 6 1区2面2号掘C-C'断面(南西から) 7 1区2面1・2号掘D-D'断面(南から) 8 1区2面1号掘D-D'断面(南から)	PL. 23	1 1区2面25号上坑全景(南西から) 2 1区2面25号上坑断面(北東から) 3 1区2面26号上坑全景(南から) 4 1区2面26号上坑断面(南西から) 5 1区2面27号上坑全景(南西から) 6 1区2面27号上坑断面(南西から) 7 1区2面28号上坑全景(南から) 8 1区2面28号上坑断面(南から)
PL. 16	1 1区2面2号掘D-D'断面(南から) 2 1区2面1・2号掘作業状況(南から) 3 1区2面1号溝全景(南東から) 4 1区2面1号溝全景(北西から) 5 1区2面1号溝断面(北西から) 6 1区2面1号上坑裸出状況(南から) 7 1区2面1号上坑人骨出状況(南東から)	PL. 24	1 1区2面29号上坑全景(西から) 2 1区2面29号上坑断面(西から) 3 1区2面30号上坑全景(西から) 4 1区2面30号上坑断面(西から) 5 1区2面31号上坑全景(南西から) 6 1区2面31号上坑断面(南西から) 7 1区2面32号上坑全景(南から) 8 1区2面32号上坑断面(南から)
PL. 17	1 1区2面1号土坑全景(南西から) 2 1区2面39号土坑化物輸出状況(北東から) 3 1区2面39号土坑全景(北東から) 4 1区2面39号土坑断面(西から) 5 1区2面39号土坑作業状況(東から) 6 1区2面2号土坑全景(南から) 7 1区2面3号土坑全景(南から) 8 1区2面3号土坑断面(北東から)	PL. 25	1 1区2面33号上坑全景(西から) 2 1区2面33号上坑断面(北西から) 3 1区2面34号上坑全景(北西から) 4 1区2面34号上坑断面(北西から) 5 1区2面35号上坑全景(北西から) 6 1区2面35号上坑断面(北西から) 7 1区2面36号上坑全景(南西から) 8 1区2面36号上坑断面(南西から)
PL. 18	1 1区2面4号土坑全景(南西から) 2 1区2面4号土坑断面(南西から) 3 1区2面5号土坑全景(北から) 4 1区2面5号土坑断面(北から) 5 1区2面6号土坑全景(南から) 6 1区2面6号土坑断面(南西から) 7 1区2面7号土坑全景(南から) 8 1区2面7号土坑断面(西から)	PL. 26	1 1区2面37号上坑全景(南西から) 2 1区2面37号上坑断面(南西から) 3 1区2面38号上坑全景(南から) 4 1区2面38号上坑断面(南から) 5 1区2面40号上坑全景(南西から) 6 1区2面40号上坑断面(南西から) 7 1区2面40号上坑全景(南西から)
PL. 19	1 1区2面8号土坑全景(東から) 2 1区2面8号土坑断面(西から) 3 1区2面9号土坑全景(西から) 4 1区2面9号土坑断面(西から) 5 1区2面10号土坑全景(南から) 6 1区2面10号土坑断面(北から) 7 1区2面11号土坑全景(西から) 8 1区2面11号土坑断面(西から)	PL. 27	1 1区2面1号ピット全景(北から) 2 1区2面1号ピット断面(北東から) 3 1区2面2号ピット全景(南から) 4 1区2面2号ピット断面(南から) 5 1区2面6号ピット全景(西から) 6 1区2面8号ピット全景(南西から) 7 1区2面10号ピット全景(南西から) 8 1区2面10号ピット断面(南から) 9 1区2面12号ピット全景(南から) 10 1区2面12号ピット断面(南西から) 11 1区2面22号ピット全景(南から) 12 1区2面22号ピット断面(南から) 13 1区2面23号ピット全景(西から)
PL. 20	1 1区2面12号土坑全景(東から) 2 1区2面12号土坑断面(西から)		

PL. 28	14	1区2面25号ピット断面(南東から)	PL. 31	1	1区2面55号ピット全景(北から)
	15	1区2面24号ピット全景(南から)		2	1区2面55号ピット断面(南西から)
PL. 28	1	1区2面24号ピット断面(南西から)		3	1区2面56号ピット全景(南西から)
	2	1区2面25号ピット全景(南から)		4	1区2面56号ピット断面(南西から)
	3	1区2面25号ピット断面(南から)		5	1区2面57号ピット全景(南から)
	4	1区2面26号ピット全景(西から)		6	1区2面57号ピット断面(南西から)
	5	1区2面26号ピット断面(南から)		7	1区2面58号ピット全景(南西から)
	6	1区2面26号ピット全景(北から)		8	1区2面58号ピット断面(南西から)
	7	1区2面29号ピット断面(北西から)		9	1区2面59号ピット全景(北東から)
	8	1区2面31号ピット全景(南から)		10	1区2面59号ピット断面(北東から)
	9	1区2面31号ピット断面(南西から)		11	1区2面60号ピット全景(南西から)
	10	1区2面32号ピット全景(南西から)		12	1区2面60号ピット断面(南西から)
	11	1区2面32号ピット断面(南西から)		13	1区2面61号ピット全景(南西から)
	12	1区2面33号ピット全景(南西から)		14	1区2面61号ピット断面(南西から)
	13	1区2面33号ピット断面(南西から)		15	1区2面62号ピット全景(西から)
	14	1区2面34号ピット全景(西から)	PL. 32	1	1区2面62号ピット断面(北西から)
	15	1区2面33号ピット全景(西から)		2	1区2面63号ピット全景(南西から)
PL. 29	1	1区2面40号ピット全景(南西から)		3	1区2面63号ピット断面(南西から)
	2	1区2面40号ピット断面(南西から)		4	1区2面64号ピット全景(南西から)
	3	1区2面41号ピット全景(南西から)		5	1区2面64号ピット断面(南西から)
	4	1区2面41号ピット断面(南西から)		6	1区2面65号ピット全景(南西から)
	5	1区2面42号ピット全景(南西から)		7	1区2面65号ピット断面(南西から)
	6	1区2面42号ピット断面(南西から)		8	1区1面1号トレンチ全景(西から)
	7	1区2面43号ピット全景(南西から)		9	1区1面1号トレンチ断面(南西から)
	8	1区2面43号ピット断面(南西から)	PL. 33	1	1区1面2号トレンチ全景(西から)
	9	1区2面44号ピット全景(南西から)		2	1区1面2号トレンチ断面(北から)
	10	1区2面44号ピット断面(南西から)		3	1区2面1号旧石器確認トレンチ全景(北から)
	11	1区2面45号ピット全景(南西から)		4	1区2面1号旧石器確認トレンチ断面(西から)
	12	1区2面45号ピット断面(南西から)		5	1区2面2号旧石器確認トレンチ全景(北から)
	13	1区2面46号ピット全景(南西から)		6	1区2面2号旧石器確認トレンチ断面(西から)
	14	1区2面46号ピット断面(南西から)		7	1区2面3号旧石器確認トレンチ全景(西から)
	15	1区2面47号ピット全景(南西から)		8	1区2面3号旧石器確認トレンチ断面(西から)
PL. 30	1	1区2面47号ピット断面(南西から)	PL. 34	1	1区2面4号旧石器確認トレンチ全景(北から)
	2	1区2面47号ピット全景(南西から)		2	1区2面4号旧石器確認トレンチ断面(西から)
	3	1区2面48号ピット断面(南西から)		3	1区2面5号旧石器確認トレンチ全景(北から)
	4	1区2面49号ピット全景(南西から)		4	1区2面5号旧石器確認トレンチ断面(西から)
	5	1区2面49号ピット断面(南西から)		5	1区2面6号旧石器確認トレンチ全景(北から)
	6	1区2面50号ピット全景(南西から)		6	1区2面6号旧石器確認トレンチ断面(西から)
	7	1区2面50号ピット断面(南西から)		7	1区2面3号旧石器確認トレンチ作業状況(南西から)
	8	1区2面51号ピット全景(西から)	PL. 35	1	2区調査区全景(北西から)
	9	1区2面51号ピット断面(西から)		2	2区調査区南壁A-A'断面東側(西から)
	10	1区2面52号ピット全景(南西から)		3	2区調査区南壁A-A'断面西側(西から)
	11	1区2面52号ピット断面(北から)		4	1区基本土層(南東から)
	12	1区2面53号ピット全景(南西から)		5	2区基本土層(北東から)
	13	1区2面53号ピット断面(南西から)	PL. 36	1	1区2面1号溝、1・25号土坑出土遺物
	14	1区2面54号ピット全景(北西から)		PL. 37	1・2区造構外出土遺物
	15	1区2面54号ピット断面(北西から)			

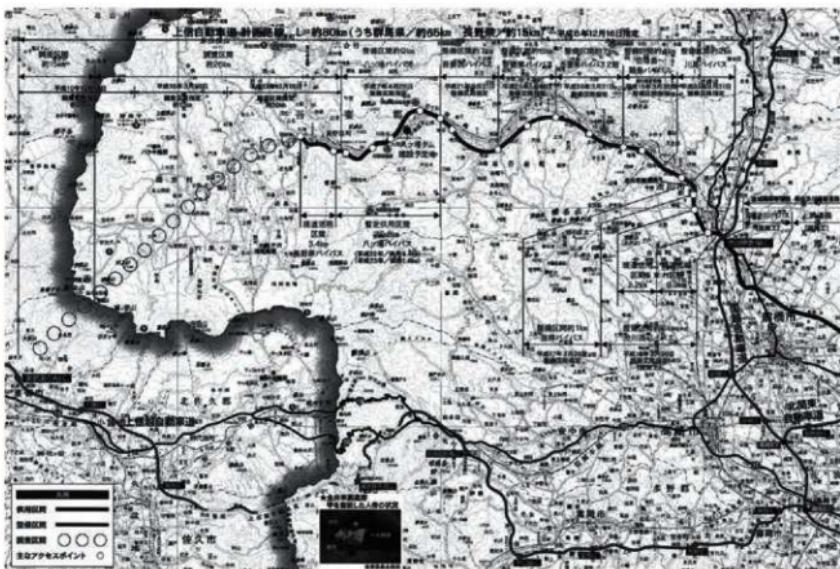
第1章 調査に至る経緯、方法と経過

第1節 上信自動車道 吾妻西バイパスについて

上信自動車道(国道145・353号バイパス)は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジを起点に、長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジへと至る総延長約80km(群馬県約65km、長野県約15km)の地域高規格道路として、平成6年12月16日に計画路線の指定を受けた。この道路は、群馬県の「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」における「吾妻軸」として位置づけられ、関越自動車道と上信越自動車道を連携し、吾妻地域の活性化支援に大きく寄与することが期待され、起点となる関越自動車道渋川伊香保インターチェンジの東側に続く前橋渋川バイパスや上武道路を含めた地域高規格道路「熊谷渋川連絡道路」とともに、本県の広域的ネットワークを形成する重要路線である。

この上信自動車道は、起点から県境までを渋川西バイパス(国施工区間約5km)、金井バイパス(約1km)、川島バイパス(約2km)、祖母島～箱島バイパス(約6km)、吾妻東バイパス(約6km)、吾妻西バイパス(約7km)、八ッ場バイパス(約9km)の各整備区間と、さらに調査区間(約26km)とに分かれている。この中には、既に現道活用や暫定供用されている区間もある。

吾妻西バイパスは、国道145号バイパスの一部となる整備区間の一つで、東吾妻町大字厚田(吾妻東バイパスとの接続地点)から東吾妻町大字松谷(供用が開始されている八ッ場バイパスとの接続地点)までの区間であり、途中には吾妻川を渡る橋梁も含まれる。また、この整備区間は東吾妻町大字厚田、三島、岩下、松谷に位置し、特に三島地区は吾妻川を挟んだ対岸に標高802.6mの奇岩・怪岩に覆われた岩櫃山を望み、さらには四戸古墳群(町指定史跡 昭和47年指定)や唐堀遺跡(昭和155(1980)



第1図 上信自動車道計画路線図(群馬県HP「上信自動車道」を加工 <http://www.pref.gunma.jp/contents/100010158.pdf>)

年調査、縄文時代晚期)、三島根小屋城(中世城郭)といった埋蔵文化財が所在することでも知られている地区である。

第2節 調査に至る経緯

吾妻西バイパスは、平成21(2009)年3月31日に整備区間の指定を受け、その後に路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が進められた。

発掘調査は平成25(2013)年8月からの厚田中村遺跡、同年9月からの四戸遺跡の順で着手され、その後、各遺跡の発掘調査が断続的に進められていった。平成27(2015)年度からは事業主体が群馬県上信自動車道建設事務所となっている。

本遺跡の発掘調査は、群馬県上信自動車道建設事務所(以下、県上信道事務所という)と群馬県文化財保護課(以下、県文化財保護課)との協議を踏まえ、県文化財保護課による試掘・確認調査と調整を経て実施が決定された。その経緯は以下の通りである。

工事対象箇所は、縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世の遺跡である松谷松下2遺跡、東吾妻町遺跡番号0116として東吾妻町の遺跡台帳に登録されている埋蔵文化財包蔵地内に所在している。

工事に係る本遺跡における埋蔵文化財の取り扱いについては、まず群馬県県土整備部建設企画課は上信自動車道吾妻西バイパス道路建設事業歩道整備事業に関して、平成30(2018)年5月7日付建企第66-2にて平成30年度以降の公共開発関連計画一覧表を提出した。県文化財保護課は平成30年6月1日付の文財30004-27にて判定を通知し、調整が開始された。

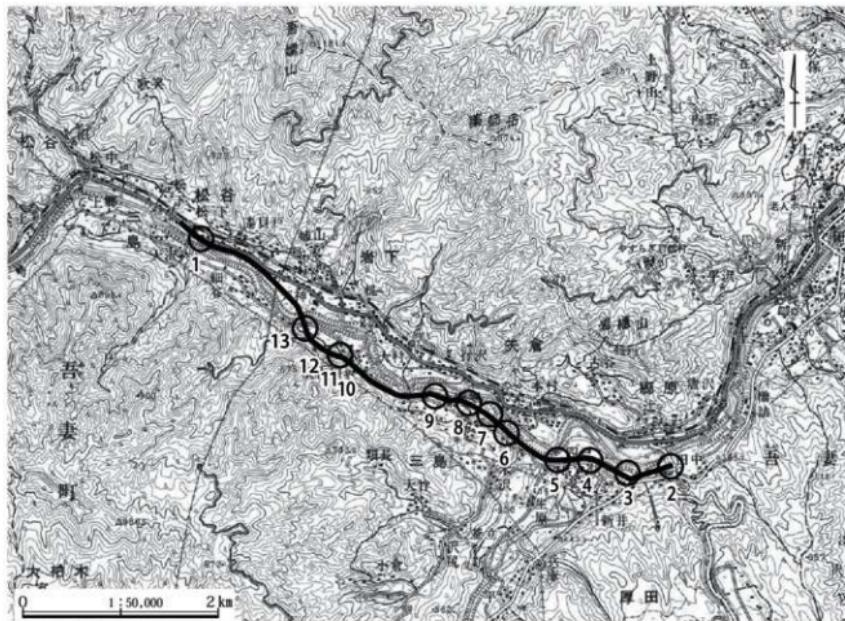


第2図 遺跡の位置(国土地理院1/200,000地勢図「長野」平成24年5月1日を加工)

次いで、平成31(2019)年1月10日に民間掘削が実施された際に県文化財保護課は現地確認を行い、文財第30004-62にて群馬県上信自動車道建設事務所に判定内容の変更を通知した。

群馬県知事山本一太は、令和元(2019)年8月6日付け

上建32200-6号にて、東吾妻町教育委員会(以下、町教委という)に当該地の文化財保護法第94条の通知を提出。令和元年8月6日付け東吾社第64号にて、町教委は県に当該地の文化財保護法第94条(以下、法94条という)に基づく通知を進達した。



第3図 上信自動車道吾妻西バイパスの路線と各遺跡位置図(国土地理院1/50000「草津」「中之条」を加工)

第1表 上信自動車道吾妻西バイパス調査遺跡一覧(令和3年3月末段階)

遺跡名	調査年度						
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31・令和元年度
1 松谷松下遺跡							○
2 厚田中村遺跡	○	○		○			
3 新井遺跡		○	○	○		○	
4 四戸の古墳群						○	
5 四戸遺跡・四戸の古墳群	○	○	○	○		○	
6 万木沢B遺跡					○		
7 唐堀B遺跡		○	○				
8 唐堀遺跡			○	○	○	○	
9 唐堀C遺跡				○			
10 稲小屋遺跡			○				
11 稲小屋B遺跡				○			
12 稲小屋城跡				○		○	○
13 稲谷E遺跡			○				

上信自動車道(国道145号吾妻西バイパス)道路建設事業に關しては、まず、平成29(2017)年5月19日付け上建第32200-2号にて、当該地における埋蔵文化財について県上信道事務所長より試掘依頼がなされ、県文化財保護課は同年7月12~14日に試掘・確認調査を実施し、工事対象箇所における埋蔵文化財の包蔵を確認し、同年7月20日付け文財第706-31号にて、当該地の一部において発掘調査が必要である旨を県上信道事務所長宛に回答した。

県上信道事務所長は、翌平成30(2018)年4月2日付け上建第32200-5号にて県文化財保護課に対し、前回の確認調査対象地以外における埋蔵文化財試掘・確認調査を依頼。県文化財保護課は同年6月4・5日試掘・確認調査を実施して、今回の確認調査対象範囲においても埋蔵文化財の包蔵を確認し、同年6月5日付け文財第706-26号にて、当該地の一部は発掘調査が必要であることを県上信道事務所長宛に回答した。

県文化財保護課は、翌平成31(2019)年1月30日付け文財第730-32号にて、試掘・確認調査結果を基に発掘調査必要地点を包蔵地に追加した。

群馬県知事大澤正明は同年3月6日付け上建第32200-23号にて、東吾妻町教委に94条の通知を提出、同年3月6日付け東吾教第376号にて、東吾妻町教委は県に法94条による通知を進達した。

さらに、令和元(2019)年9月2日付け上建32200-8号にて、群馬県知事山本一太は、東吾妻町教委に東吾妻町大字松谷字久々戸164-1、163-3における法94条による通知を提出。同年9月2日付け東吾社第84号にて、東吾妻町教委は、県に当該地における法94条に基づく通知を進達した。工事を実施するに当たっては、現状における遺跡の保存が困難であることから、やむを得ず発掘調査による記録保存の措置を執られることになったのである。

発掘調査は県上信道事務所の委託を受けた当事業団が令和元10月1日から同年11月30日までの2箇月間に亘って、調査担当者2名によって実施した。調査対象面積は3,890m²である。なお、今回の発掘調査の対象地は、令和3年度に新たに「松谷松下2遺跡」として、東吾妻町の遺跡台帳に登録された。

第3節 発掘調査の方法

1. 調査区と座標の設定

本遺跡の調査においては、東西方向に細長い、僅かに湾曲する総延長約92mの北西-南東方向の路線部分と、北東方向から本線に取り付く道路の部分が飛び地的に調査対象とされた。主体となる路線部分の調査区を1区、北西側に位置し、本線の北約25mに位置する北西-南東方向総延長約20m・幅約1mにわたって調査した飛び地的な調査区を2区と命名した。

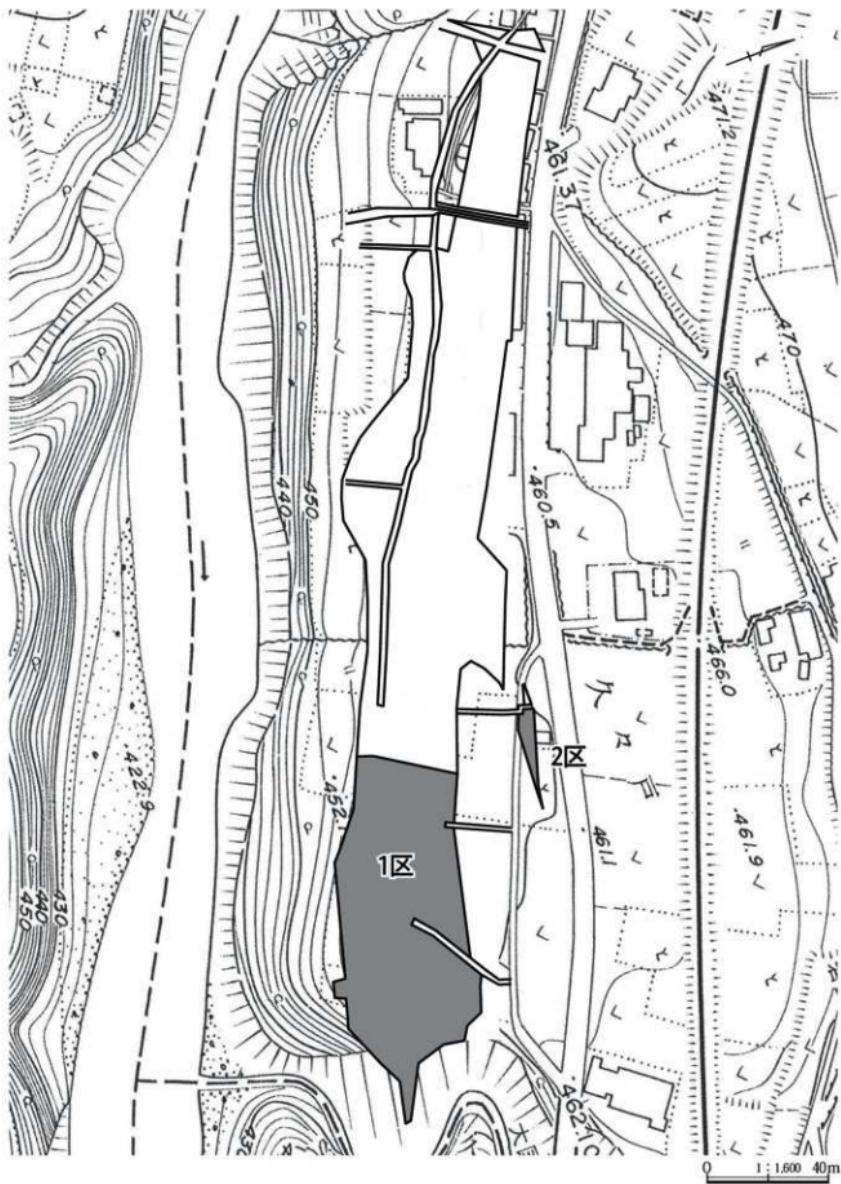
発掘調査に用いた座標は世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第IX系)であり、10m×10mを基本とし設定した。遺構図中の座標については、座標値の下3桁を「X軸-Y軸」の順で記し、「X=63330、Y=-96700」の場合、「330-700」のように表記した。

1区は、世界測地系(日本測地系2000平面直角座標系第IX系)のX=63330~63395、Y=-96895~-96995の範囲に、2区はX=63415~63425・Y=-96965~-96985の範囲にそれぞれ収まる。実際、発掘調査においては、遺構測量における遺構の位置及び遺物出土位置などはすべて世界測地系の座標によって記録した。本報告書でも、遺構外出土遺物を含め、遺構・遺物の位置情報については、世界測地系の座標によって表記する。

2. 発掘調査の方法

本遺跡の北西約200mの地点においては、平成24(2012)年度に東吾妻町教育委員会が1,477m²を対象として松谷松下遺跡の発掘調査を実施し、翌平成25年度末に発掘調査報告書『松谷松下遺跡-平成24・25年度農山漁村活性化プロジェクト支援交付金(農業基盤整備)松谷地区に伴う発掘調査報告書』が刊行されている。

先述した通り、平成29・30年度に県文化財保護課によって調査対象地における試掘・確認調査が実施され、表土層直下において天明泥流が確認された。さらに天明泥流直下において、天明3(1783)年に浅間山噴火によつて降下したAs-Aの堆積が確認され、このAs-A降下面を第1面とした。さらに、下位層を除去した面において溝や土坑等の遺構が確認出来たので、この面を第2面として



第4図 調査区設定図(東吾妻町都市計画図 1:2,500を加工)

調査を実施した。

発掘調査は、調査の方法はごく標準的な方法を用いた。1・2面とも遺構確認面に至るまでの表土除去には重機を使用し、遺構確認作業は、遺構確認面を鋤簾によって均質に削っていくことで面的な遺構の把握に努めた。

各遺構の調査は、土層確認のためのベルトの設定もしくは半裁して土層観察を行う等、それぞれに適した方法を用いた。遺構名は、遺構確認面に拠らず遺構種別毎に本遺跡全体における通し番号で標記した。

表土除去後、平面精査及び遺構確認を行った。確認された遺構は、埋没土層確認用ベルトを任意に設定し、発掘作業員が移植設置等で掘削し、遺構断面及び平面測量及び写真撮影等を行い、実測図及び写真によって記録した。

また、調査過程において出土した遺物については、出土した遺構ごとに出土地点を記録し、整理・集約した上で、洗浄および出土遺跡・遺構・出土地点等に関するデータを注記する作業を業者委託し、業者から提出を受けた成果品については、発掘調査担当者が逐次、点検・照合し、受領した。

調査終了後の埋め戻しの作業は、基本的にバックフォーを主体とする重機によって行った。

3. 遺構測量

遺構等の測量は、遺構断面及び平面実測図とも縮尺1/20を基本とし、遺構の状況に応じて、長大な土坑及び溝、広範囲に及ぶ煙などの遺構を実測する際には、適宜・1/40・1/60などの縮尺とした。

遺構平面実測図の作成に当たっては測量会社にデジタル測量を委託し、データ及び打ち出し図面の提出を受けた。

遺構断面実測図は、原則として発掘現場における発掘作業員によってアナログ実測で作成されたものを元に、測量会社にデジタルデータ化を委託し、遺構平面実測図と同様、データ及び打ち出し図面の提出を受けた。

上記、委託先測量会社により作成されたデジタルデータ成果品およびアナログ実測された原図等は、調査記録として保存されている。

4. 遺構写真撮影

発掘調査において、すべての遺構の写真は発掘調査担当者が分担して撮影した。掘立柱建物等主要な遺構については中判カメラを用いてiso400モノクロフィルムを6×7cm判サイズで撮影し、撮影記録はネガフィルムの状態で保存し、焼き付け写真を貼付したフィルムの検索台帳を作成した。

また、発掘調査の過程で、調査の進捗状況の記録、及びすべての遺構について、デジタルカメラで撮影を行った。

また、調査記録として、遺構ごとに土層断面、遺物出土状態、遺構全景等の撮影を行い、さらに必要に応じて遺構の各部分について、検出および調査の状況について微細な接写を行っている。

調査区の全景写真等は、調査の進展にあわせて行い、併せて空中写真撮影を実施した。記録保存の一環の全景写真撮影にあたっては、上空からの空中写真撮影、および、遺構の記録保存としての遺構図化・測量については委託により実施した。

なお、撮影した写真のデジタルデータは、HDDやDVD-ROM等のメディアに保存し、データのファイル名は、調査区・遺構略号・番号・撮影方向・内容を数値化したものに置き換えるリネーム作業を行った。

第4節 発掘調査の経過

発掘調査は、令和元(2019)年10月1日～11月30日の2箇月間に3,890m²を対象として実施した。

本遺跡は、吾妻川の左岸側の河岸段丘上にあり、北側には吾嬬山の山麓が広がる。南側は吾妻川が東西方向に流走しており、調査区東側は、吾嬬山中腹から発した小河川が形成した深い谷に接している。

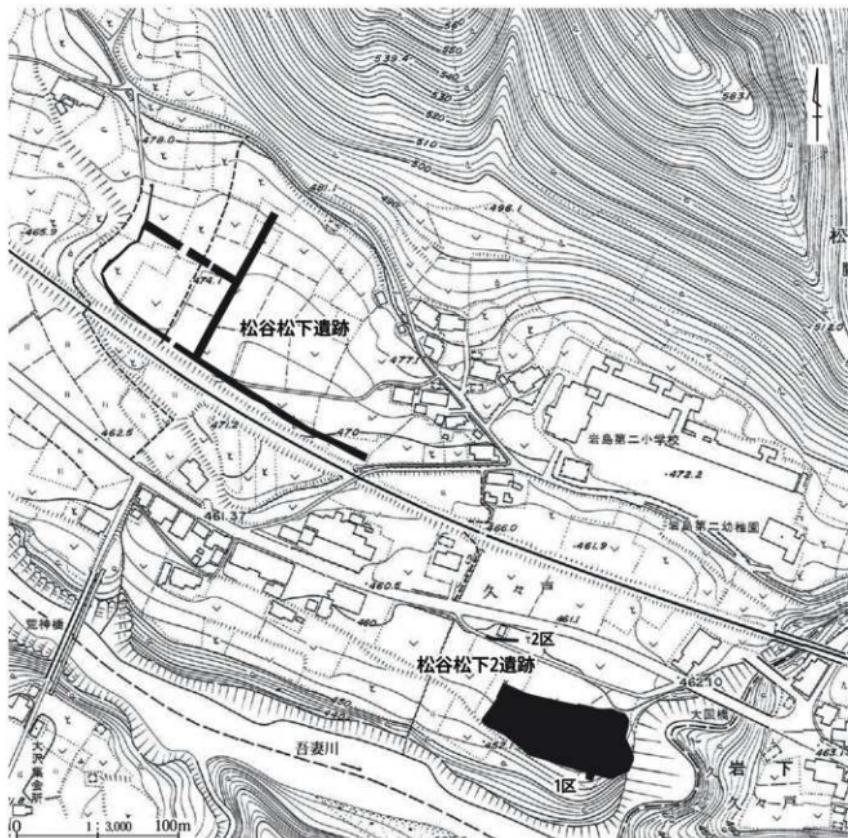
平成29・30(2017・18)年度に県文化財保護課による包蔵地内の確認調査が実施され、表土層直下において天明泥流が確認された。さらに天明泥流直下において、天明3(1783)年降下のAs-Aの堆積が認められたため、このAs-A層下面を第1調査面とした。さらに、下位層を除去した土層面において溝や土坑等の遺構が確認されたので、この土層面を調査第2面とした。

なお、本遺跡の北西約200m付近において、東吾妻町教育委員会が平成24(2012)年10月9日～平成25(2013)年1月9日に松谷松下遺跡(調査面積約1,477m²)の発掘調査を実施し、平成26(2014)年3月に『松谷松下遺跡 平成24・25年度農山漁村活性化プロジェクト支援交付金(農業基盤整備)松谷地区に伴う発掘調査報告書』が刊行されている。

今回の調査においては、調査区に飛地が存在するため、便宜上、主体となる調査区を1区、1区北西端から北へ約25mの地点に位置する全長約20mの狭小な飛地部分を

2区とした。

また、1区の調査においては、調査の効率化を図るために、調査区を南北に分割し、南側より調査を行った。調査に当たっては、竹林部分の表土層除去にはスケルトンバケットを装備した掘削重機を使用して竹の根の伐根作業を行った。伐根した竹の根はダンプを使用して搬出した。また調査に際しては、安全対策の一環として、ロープスティックとトラロープを使用して調査区を囲い、危険を促す看板等を用い危険箇所の明示を行い安全の確保を行った。



第5図 松谷松下遺跡(町調査)・松谷松下2遺跡の位置(東吾妻町遺跡分布図[東吾妻町埋蔵文化財調査報告書第26集]を加工)

また、遺構調査中においては、降雨によって排水の必要が生じた際には、貸賃借した水中ポンプを使用して排水を行った。また、土層観察や全景写真などの際には動力噴霧器を使用した。

1. 1区の調査

1面の調査 1面として江戸時代の天明泥流堆積物までを掘削重機で除去した。As-Aの残存が良好な部分では東西方向に伸びる近世の烟が検出され、円形の平坦面も確認された。中央部付近の烟は谷の地形に沿って弧を描くように検出された。

調査区西側では天明泥流に覆われた耕作土を手に入れための近世の復旧坑が18基確認された。それらの内の16基の復旧坑には、現在の烟と同じように東西方向に掘られていたが、残り2基は南北方向に掘られており、烟の耕作方向の違いなどが考えられた。東西に掘られた復旧坑は断面観察によって、南側の掘り込みがはっきりとしており、北側には土が崩落している様子が確認され、北側は復旧坑を深く掘りこんだ際の足場にしたのではないかと考えられる。

2面の調査 2面とも掘削重機を使用して掘り下げを行い、ローム漸移層上面を確認面とした。

2面からは掘立柱建物2棟、柵3条、堀2条、溝1条、土坑40基、ピット43基が検出された。

堀は2条が南北方向に並走しており、北側で東に向かってカーブしている。底部は、両堀とも深いところで約1.5mの深さで、北側にかけてやや掘り込みが浅くなる。埋土中より中世の五輪塔の火輪が出土した。これら2条の堀によって西側と北側を二重に、また、東側と南側は沢と吾妻川によって、それぞれ区画された約1500m²の平坦なエリアが造り出されている。なお、北側の堀の掘り込みが浅い箇所からは柵2条が堀と並走して検出された。

堀の内側からは掘立柱建物2棟が検出された。1号掘立柱建物は柱穴の掘りこみが約0.7mで、中央部付近からは40号土坑が検出された。2号掘立柱建物は、南側に3号柵が並行するように検出されているが、3号柵は2号掘立柱建物の廻であった可能性は考えにくい。

検出された土坑・ピットの多くのものの時期は不明であるが、2条の堀と同時期頃のものと考えられる。

この、2条の堀と自然地形によって区画されたエリアは、中世・室町期に構築された、防御施設を備えた館と考えられる。

またこの他、墓壙(1号土坑)からは人骨が出土し併せて4枚の寛永通宝が出土したため、近世のものと考えられる。

なお、遺物は縄文土器片を中心に、堀の東西で150点ほど出土したが、遺構に伴う遺物は確認されなかった。

各調査面の調査終了後、旧石器時代の確認をトレンチ調査で行った。調査は4m×4mのトレンチを6箇所掘削し実施したが、旧石器時代の遺物は確認されなかった。

調査終了後、掘削重機及びブルドーザーを使用して埋め戻し旧状に復した。

2. 2区の調査

2区は調査区が狭小で国道に沿うため、幅約1.5mのトレンチを設定し、人力による掘削調査を行った。

遺構は確認されず、縄文土器片数点が出土した。調査区界壁面(法面)における土層断面観察及び記録を行った後、直ちに埋め戻し、旧状に復し、すべての調査を完了した。

発掘調査日誌抄

令和元(2019)年10月1日(火)

調査着手、発掘調査担当者2名着任。1区東端竹の根伐根・ふるい作業。

10月4日(金)

1区南半1面表上掘削着手。

10月7日(月)

1区南半1面表上掘削継続、遺構確認着手。

10月8日(火)

1区南半1面表上掘削継続、遺構精査着手。

10月17日(木)

1区南半1面全量写真、空中写真撮影。1号烟全量写真、斬ち割りセクション写真撮影。3～13号復旧坑全量、斬ち割りセクション写真撮影。1区南半部1面調査終了。

10月18日(金)

1区南半2面調査着手。2区伐採着手。

10月23日(水)

1区南半2面表上掘削、1号土坑精査。1区東半部表上掘削、遺構確認。

10月24日(木)

1区南半2面表上掘削継続、1号土坑精査継続。1・2号堀、セクション写真撮影、実測。

10月29日(火)

1区南半2面表上掘削継続、1号土坑人骨出土状況写真撮影、3～5号土坑全量写真撮影、1・2号堀精査。

2区全景写真撮影。

1～3号旧石器確認トレンチ調査着手。

10月30日(木)

1区南半2面1号上坑遺物・人骨等採り上げ、完掘後全景写真撮影。
1・2号ピット上断面及び全景写真撮影。1・2号掘削前精査、セクション・全景写真撮影。2・3号坑石器確認トレンチセクション及び全景写真撮影。1区北半掛上運搬。

10月31日(木)

1区南半2面1・2号坑全景写真撮影。1区北半掛上運搬。
2区トレンチ掘削調査。

11月5日(火)

1区北半1面表土掘削。2区トレンチ調査継続。

11月6日(水)

1区北半1面表土掘削、道構確認。1面全景写真撮影。
2区トレンチ精査、セクション及び全景写真撮影。

11月7日(木)

1区北半1面道構確認。
1区2面道構確認、19~24号上坑セクション写真撮影。
6~8・10~14号上坑全景写真撮影、1号掘立柱建物P1~7セクション写真撮影、1・2号掘削前精査継続。

11月8日(金)

1区北半1面表土掘削、道構確認継続。
1区2面25~30号上坑等写真撮影。9・21・22・24号上坑全景写真撮影。25号上坑遺物出土状況写真撮影。1号掘立柱建物P7セクション写真撮影。1・2号掘削前精査、セクションB写真撮影。40号上坑機械状況写真撮影。

11月11日(月)

1区北半1面表土掘削、道構確認継続。
1区2面1号櫛P2・2号櫛P9・8号ピットセクション写真撮影。
18・23・26・31号上坑、6号ピット、1・2号掘削前精査。

11月12日(火)

1区北半1面表土掘削、道構精査継続。全景写真撮影。
1区2面32号上坑、2号掘立柱建物P2、1号櫛P1、10号ピット等セクション写真撮影。15・16・19・25~27・30号上坑、2号掘立柱建物P8、1号櫛P1~4、2号櫛P9、8号ピット等全景写真撮影。
25号上坑遺物出土状況写真撮影。

11月13日(水)

1区北半1面道構確認。道構精査継続。空中写真撮影。1号櫛セクション及び全景写真撮影。13~18号復旧用セクション及び全景写真撮影。1区1面調査終了。

1区2面2号掘立柱建物P3セクション及び全景写真撮影。10・17・20・32号上坑、2号掘立柱建物P2、10・12号ピット、1号掘立柱建物、1・2号櫛、1号櫛全景写真撮影。

11月14日(木)

1区2面2号掘立柱建物P1・4・5・7、2号櫛P5~8、3号櫛P12、22・24・25号ピットセクション写真撮影。

11月15日(金)

1区2面29~31号ピットセクション写真撮影。2号掘立柱建物P1・4・5・7、2号櫛P5・6・8、3号櫛P12、22・24・25号ピット全景写真撮影。

11月18日(月)

1区2面33~35号上坑、32~35号ピットセクション及び全景写真撮影。40号上坑セクション写真撮影。2号掘立柱建物P6・29・31号ピット全景写真撮影。

11月19日(火)

1区2面全般写真撮影。3号櫛P9~11・13セクション及び全景写真撮影。1・2号櫛、1・2号掘立柱建物、1~3号櫛全景写真撮影。

2区下層掘削、道構確認、道構が検出されなかったため、調査を終了し、直ちに埋め戻し。

11月20日(水)

1区2面36号上坑、40~54・56~62号ピットセクション及び全景写真撮影。55号ピット、西壁セクション写真撮影。旧石器確認トレンチ調査。

11月21日(木)

1区2面37~38号上坑、63~65号ピットセクション及び全景写真撮影。55号ピット全景写真撮影。遺物集中箇所確認精査。旧石器確認調査。

11月22日(金)

1区2面39号上坑セクション写真撮影。遺物集中箇所確認調査継続。旧石器確認調査継続。

11月25日(月)

1区2面39号上坑全景写真撮影。遺物集中箇所確認調査継続。4~6号坑石器確認トレンチ精査、セクション及び全景写真撮影、調査完了。すべての調査を終了し、調査区の埋め戻し作業に着手。

11月26日(火)

1区埋め戻し作業継続。

11月27日(水)

1区埋め戻し作業終了。現地撤収作業、基礎整理、残務処理等着手。

11月28日(木)

現地撤収作業、基礎整理、残務処理等継続。

11月29日(金)

現地撤収、残務処理。

第5節 整理作業の経過と方法

整理作業は、令和3年度に、令和3年9月1日から令和4年1月31までの5箇月間、群馬県上信自動車道工事事務所の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

出土遺物については、まず、報告書に掲載する縄文時代の土器・石器及び中近世土器・陶磁器類・石製品等の選別を行い、写真撮影、接合・複元等の作業を実施した後、実測・トレース及び遺物観察表の作成を行って、業務を完了した。また、金属製品については、錆落とし、保存処理等の作業を行った後、写真撮影、実測・トレース、採拓等の作業を行い、遺物観察表を作成して業務を完了した。

遺構実測図については、まず調査面ごとに順次、各遺構の確認、遺構計測、遺構台帳の整備といった基礎作業を先行させ、併せて遺構写真の確認作業も行った。その後、遺構種別毎に図面修正を進めた。発掘調査時に録った各種遺構図面の点検・整理の上、平面図及び土層断面図の編集及び修正、デジタル・トレース原図の作成、土層注記の編集等の作業を行い、デジタル原稿化を行った。

さらに、報告書に掲載する遺構写真の選定を行った後、レイアウト原案の作成、キャッシュ原稿の整備等を行い、遺構写真図版頁のデジタル原稿化を行った。

それらを経て、デジタル化された遺構図面の校正、本文の原稿執筆及び報告書原稿の総合的なレイアウト等の作業、報告書原稿全体のデジタル組版及び編集作業を行った。

作成された原稿は、業者に委託され、印刷・製本の業務を実施した。なお、業者委託した印刷業務の推移の中

で、原稿の校正作業を実施し、完成後、納品を受け、納品された発掘調査報告書は、検品の上、完了検査を実施し、活用に資するために関係各機関へ発送する作業を行った。また、これらの作業と並行して、調査及び整理業務の過程で作成された遺構・遺物の各種図面・写真等の記録類を収納する作業を実施した。

発掘調査及び整理業務の過程で作成された遺構・遺物にかかる各種図面及び写真等の調査記録資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに収納・保管されている。

参考文献(第1章)

- 群馬県2007「はばたけ群馬・県土整備プラン2008~2017」
群馬県2013「はばたけ群馬・県土整備プラン2013~2022」
群馬県2014「はばたけ群馬プラン・第14次群馬県総合計画・重点プロジェクト(平成26年4月1日改訂)」
群馬県土整備部道路整備課(道路企画室)2013「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」
群馬県土整備部道路整備課2014「地域高規格道路上信自動車道」
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『年報』33
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『年報』34
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『年報』35
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『年報』36
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『年報』37
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『年報』38
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『年報』39
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017「唐櫃B遺跡」
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018「豊田中村遺跡」
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2020「西原C遺跡」
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2020「古坂遺跡・占碑時代以降編」
東吾妻町教育委員会2014「佐谷松下遺跡」
群馬県ホームページ <http://www.pref.gunma.jp/>
マッピングぐんま
<http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma/top>

第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

松谷松下2遺跡は、吾妻郡東吾妻町の北西部、JR吾妻線岩島駅から北西に約1km、吾妻郡東吾妻町大字松谷字久々戸に所在する。

吾妻郡東吾妻町は、平成18(2006)年3月27日に吾妻郡吾妻町と東村が合併して成立した。吾妻川を挟んだ南側に榛名山や浅間隕山、北側には岩櫃山や吾嬬山など1,000m級の山々が聳え、周辺の山地は、急峻な地形を呈している。また、町域内を吾妻川・湯川・深沢川などの河川が流れている。なお、本遺跡から南東側に望む岩櫃山は標高802mの岩山で、奇岩・怪石からなる山容は吾妻八景を代表する景勝地としても知られ、また、戦国時代の真田氏の居城であった岩櫃城跡が所在する地として人気の観光地として急速に注目されるようになった。

『平成27年度群馬県市町村要覧』によると、東吾妻町の産業別人口構成は第1次産業が15.8%、第2次産業が25.8%、第3次産業が58.4%であり、近年は畜産業がやや盛んである。

吾妻川は嬬恋村の鳥居峠付近を源流とし、吾妻郡内を西から東へと流れ。嬬恋村から長野原町にかけては両岸が狭く険峻であるが、東吾妻町以東からは川幅が広がっている。吾妻川両岸には河岸段丘が発達しており、上位段丘面群(蓑原面・成田原面)・中位段丘面(新巻面)・下位段丘面(中之条面)・最下位段丘面群(伊勢町面群)に分類される。これら段丘面のうち、上位段丘面群に下部～上部ローム層が、中位段丘面に中部～上部ローム層が、下位段丘面に上部ローム層が堆積している。最下位段丘面群にはローム層が堆積していない。なお、本遺跡の南西約7kmに位置する国指定名勝吾妻峡も、この吾妻川によって形成された峡谷である。吾妻郡東吾妻町大字松谷の雁ヶ沢川との合流地点付近から吾妻郡長野原町大字川原湯のハッカダムの東側付近にかけての約4kmに亘っている。

榛名山は、掃部ヶ岳(1,449m)を最高峰とする複式成層火山であり、山頂部にはカルデラ・カルデラ湖・中央

火口丘など、山体斜面には熔岩ドームや爆裂火口が存在する。また、6世紀にはHr-FA・Hr-FPのテフラを噴出した2度の噴火が発生している。

榛名山北側山麓の大部分は火山麓扁状地であり、大谷沢川・深沢川・寺沢川・大泉寺川・泉沢川・奥田川などの放射谷が山体を抉っている。泉沢川以西では、火山麓扁状地原面の一部が保存されている。榛名山以外の周辺の山地は、急峻な地形を呈している。また、本遺跡の南西約27kmに位置する浅間山の火山活動(As-C, As-B, As-Aなどを噴出)は現代でも活発であり、吾妻郡域を中心とした群馬県全域にさまざまな影響を与えている。

本遺跡は、吾妻川左岸の河岸段丘の上位に立地している。標高は概ね459m前後であり、北東側がやや高く、南北側に向かって緩やかに傾斜している。本遺跡の北側には吾嬬山の山麓が広がっている。また、調査区の東側には吾嬬山中腹から発した小河川が形成した深い谷に接している。

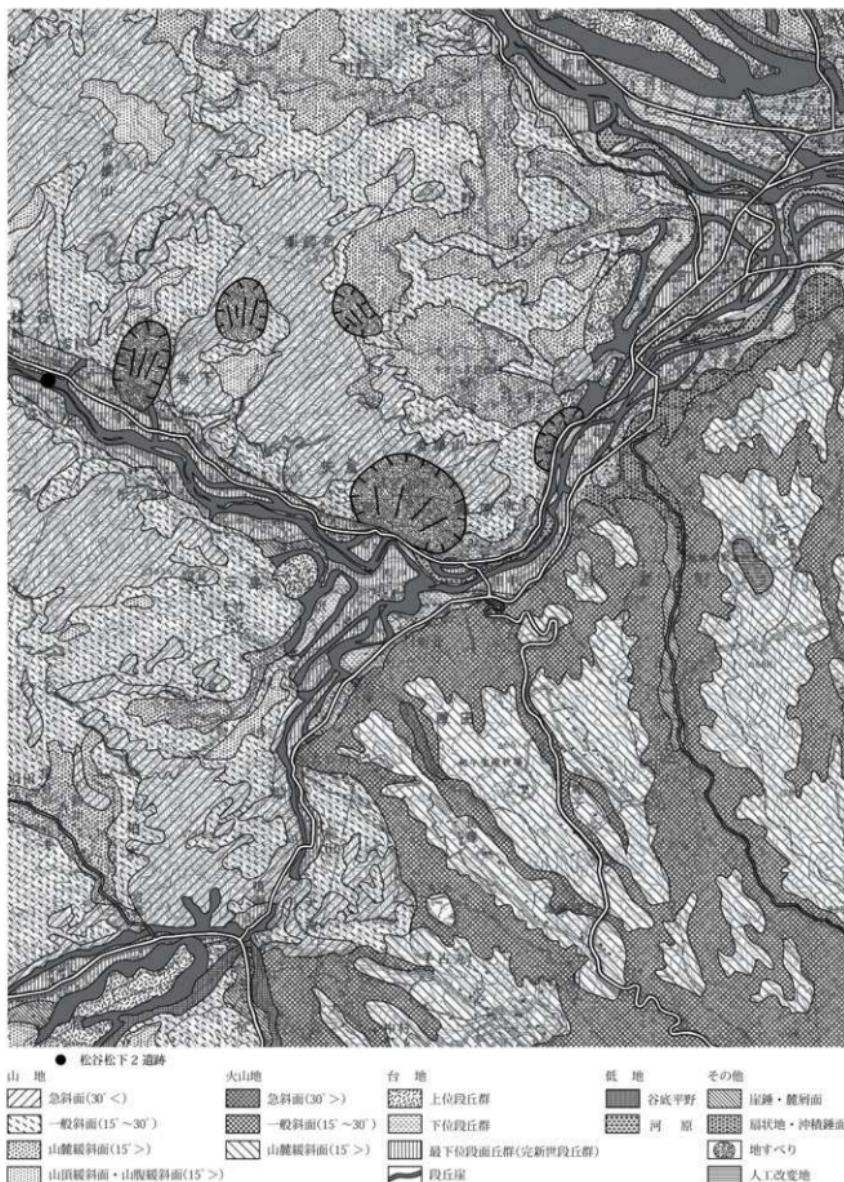
本遺跡の南側には吾妻川が南北にやや蛇行しながら西から東へと流れ、「吾妻谷」と称される狭小な谷地形を造り出している。本遺跡が位置する吾妻川左岸側にはJR吾妻線と国道145号線が吾妻川にほぼ沿って東西に走るが、本遺跡の周辺では、公共施設や商業施設などが特に集中しているような状態ではない。

調査対象地周辺は、現状では水田や蒟蒻畑が広がり、その間に宅地が点在しているような状況である。

第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する東吾妻町は、吾妻郡の東南に位置し、国指定名勝吾妻峡を有する吾妻川が町内を東へと流下する。古代にあっては吾妻郡の一角をなし、戦国武将真田氏の岩櫃城、近世の大戸関はよく知られているところである。特に、郷原遺跡から出土した縄文時代後期の国指定重要文化財「ハート形土偶」、岩櫃山の山頂付近には弥生時代中期の「鷹の巣岩陰遺跡」といった著名な遺跡がある。

吾妻郡では、国指定名勝吾妻峡より西側の地域で、



第6図 周辺地形分類図(国土交通省国土政策局国土情報課5万分の1都道府県土地分類基本調査(中之条)を一部加工)

ハッカダム建設に伴って数多くの遺跡が発掘調査されている。これに対し、本遺跡周辺において確認されている遺跡は少ないが、近年の上信自動車道吾妻西バイパス建設に伴う発掘調査等を含め、徐々に発掘調査件数が増えている。

文献史料もまた、特に中世以前がきわめて少ない状況にある。

1. 旧石器時代

本遺跡周辺においては、旧石器時代の遺跡は確認されていない。本遺跡から最も近い位置にある旧石器時代の遺跡は、本遺跡から北東に約17kmも離れた位置にある高山村の新田西沢遺跡(第7図範囲外)である。

2. 縄文時代

吾妻郡域では縄文時代後期のハート形土偶で知られる郷原遺跡や唐塙遺跡、ハッカダム建設関連で調査された上郷岡原遺跡等の著名な遺跡が存在するものの、從来は東吾妻町内における縄文時代の遺跡の発掘調査事例は少なかった。近年の上信自動車道吾妻西バイパス建設に伴う東吾妻町内における一連の発掘調査において、四戸遺跡、新井遺跡、万木沢B遺跡、唐塙遺跡、唐塙C遺跡等において縄文時代の遺構が検出され、本遺跡周辺地域における縄文時代の様相が次第に明らかになりつつある。とは言うものの、現状では、まだ不明な点が多いこともまた事実である。

なお、本遺跡周辺においては、縄文時代草創期の遺跡は確認されていない。

早期の遺跡 平成24(2016)年度に東吾妻町教育委員会が本遺跡の北西約200mの地点において発掘調査を行った際に、8基の大型円形状土坑が検出された。これらの土坑からは縄文時代早期後半の鶴ヶ島台式土器が出土し、縄文時代早期後半～前期初頭の陥し穴状遺構と考えられる。

吾妻川左岸にはいくつかの縄文時代早期の遺跡はあるが、明確な遺構は、本遺跡の南西約8kmに位置する長野原町榎木II遺跡(第7図範囲外)から竪穴建物が検出された以外は、本遺跡周辺では良くわかっていない。

前期の遺跡 縄文時代前期になると少ないながらも集落が確認されるようになる。吾妻川左岸側では本遺跡の南

東約0.75kmに位置する細谷B遺跡(第7図11)、本遺跡の西約0.5～1kmに位置する上郷岡原遺跡及び上郷A・B遺跡(第7図5～7)において関山式、黒浜式土器が出土しているが、ごく少量であり、竪穴建物群の分布も広くみられるわけではないので、不明瞭である。

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴って発掘調査された遺跡の中では、本遺跡の南東約3.5kmに位置する唐塙C遺跡(第7図範囲外)からは、縄文時代前期後葉の竪穴建物と土坑が検出されている。他に本遺跡の近隣で縄文時代前期の遺構が検出された遺跡として、本遺跡の南東約4.3kmに位置する四戸遺跡(第7図範囲外)と、本遺跡の南東約5kmに位置する新井遺跡(第7図範囲外)がある。四戸遺跡では縄文時代前期前葉及び中葉の竪穴建物計6棟と大型土坑1基、新井遺跡では縄文時代前期中葉の竪穴建物と土坑が検出されている。

中期の遺跡 本遺跡周辺において縄文時代中期の遺構が検出された遺跡としては、本遺跡の南東約5.2kmに位置する郷原遺跡(第7図範囲外)がある。郷原遺跡は第2次世界大戦中の昭和16(1941)年に、現在国指定重要文化財に指定されているハート形土偶が出土したことで知られているが、昭和59(1984)年と平成6(1994)年にも発掘調査が行われ、縄文時代中期後半の竪穴建物が検出されている。

吾妻川左岸からは、本遺跡の南東約0.75kmに位置する細谷B遺跡(第7図11)、西約0.5～1kmに位置する上郷A・B遺跡(第7図6・7)、本遺跡の西約1kmに位置する上郷岡原遺跡(第7図5)、本遺跡の南東約0.5～1kmに位置する細谷A～D遺跡(第7図10～13)、本遺跡の南東約2.5kmに位置する前畑遺跡(第7図26)などから、主に阿玉台式、五領ヶ台式、勝坂式、加曾利E3・E4式期を中心とした竪穴建物や土器群が検出・出土している。

東吾妻町教委が平成24(2016)年度に発掘調査した松谷松下遺跡においても加曾利E3・E4式の土器は多数出土しており、吾妻川両岸において縄文時代中期後半の遺跡が広く分布していた様相が看取出来る。

後期の遺跡 本遺跡の周辺・近隣において縄文時代後期の遺構が検出された遺跡として、先掲の郷原遺跡(第7図範囲外)、新井遺跡(第7図範囲外)、上郷岡原遺跡(第7図5)、上郷A・B遺跡(第7図6・7)、細谷A～D

遺跡(第7図10~13)等がある。

郷原遺跡では、昭和59(1984)年と平成6(1994)年の発掘調査において縄文時代後期初頭の敷石建物や配石土坑が検出された。

新井遺跡では後期初頭の敷石建物が検出されている。また、上郷岡原遺跡からは三十榎場式を作らう後期初頭から後期前半にかけての敷石竪穴建物や竪穴建物が多く検出された。

上郷A・B遺跡(第7図6・7)、細谷A~D遺跡(第7図10~13)からは加曾利B式土器や壺之内式土器が出土している。

本遺跡の南東約3.3kmに位置する唐堀遺跡(第7図範囲外)からは後期～晩期の集落と水場遺構が確認されており、土偶や岩版、耳飾りなども出土している。

東吾妻町教委が平成24(2016)年度に発掘調査した松谷松下遺跡においても耳飾りを中心に土偶や岩板など装飾品、祭祀用品と考えられる遺物があり、周辺遺跡の中でも特異な様相を呈している。

晩期の遺跡 本県においては、縄文時代晩期の遺構が検出された遺跡は多くないが、本遺跡の周辺や近隣において縄文時代晩期の遺構が検出された遺跡として、先掲の唐堀遺跡(第7図範囲外)、本遺跡の南東約3.7kmに位置する万木沢B遺跡(第7図範囲外)がある。

唐堀遺跡では、先述したように後期後半から晩期の竪穴建物や土坑、配石遺構、水場遺構等が検出され、安行3式や大洞式の土器が複数出土し、東北地方から搬入されたと考えられる遮光器土偶の頭部をはじめとする多量の遺物が出土した。

さらに、万木沢B遺跡においても土坑が検出され、晩期の遺物が多量に出土した。

3. 弥生時代

本遺跡周辺においては、対岸の細谷B遺跡(第7図11)が弥生時代の遺物散布地として遺跡台帳に登録されているが、弥生時代前期および後期の遺跡は確認されていない。

中期の遺跡 中期の遺跡としては、本遺跡の南東約4.4kmに位置し、「岩櫃山式土器」の標式遺跡である岩櫃山鶴の巣遺跡(第7図範囲外)や、本遺跡の南東約2.5kmに位置する前畠遺跡(第7図26)などから再葬墓が確認さ

れている。

前畠遺跡は吾妻川の河岸段丘の最下位段丘面群上に立地する一次埋葬地であり、また、岩櫃山鶴の巣遺跡は岩櫃山の岸壁に立地する2次埋葬地と考えられている。

他に、新井遺跡(第7図範囲外)では土坑や遺物、四戸遺跡(第7図範囲外)においても竪穴建物2棟が検出されている。

後期の遺跡 本遺跡の南東約3.2kmに位置する唐堀B遺跡は、本遺跡や唐堀遺跡等と同様、上信自動車道吾妻西バイパスの建設に伴って発掘調査された遺跡であるが、弥生時代後期の竪穴建物が確実に検出された遺跡として両側的な発見となった。唐堀B遺跡で検出された竪穴建物は計5棟で、いずれも弥生時代後期樽式期のもので、規模・形状はいずれも北東・南西方向に長い隅丸長方形状を呈するものであった。

唐堀B遺跡以外に、上信自動車道吾妻西バイパス建設に伴う発掘調査で弥生時代後期の遺構が検出された遺跡としては、本遺跡の南東約4.5kmに位置する四戸遺跡および四戸の古墳群(第7図範囲外)、新井遺跡(第7図範囲外)等がある。

四戸遺跡では、後期樽式期の集落を形成する竪穴建物17棟と竪穴状遺構1基が検出され、現在までのところ、吾妻川流域にあって最も西側で検出された大規模な集落と位置付けられる。四戸遺跡の東側に隣接する四戸の古墳群の発掘調査においても、当該期の竪穴建物数棟が検出され、四戸遺跡で検出された集落と一体をなす集落と考えられる。

新井遺跡からは、竪穴建物、円形周溝墓、大型の方形土坑等が検出された。

4. 古墳時代

本遺跡周辺は、本県における古墳所在地の最北西端の地として知られてきた。

前期の集落遺跡 本遺跡周辺においては、古墳時代前期の遺跡は少ない。

本遺跡の南東約1kmに位置する天神遺跡(第7図16)からは前期の遺物が出土しているほか、本遺跡の南東約6.5kmに位置する温川上流の宿遺跡(第7図範囲外)からは前期の集落が確認され、石田川式土器も出土している。

また、先掲の四戸遺跡からは古墳時代前期から後期に

及ぶ多くの竪穴建物が検出されているが、4世紀代の集落を構成する竪穴建物は4棟検出されている。

中期以降の集落遺跡 5世紀以降になると遺跡数は増加する。東吾妻町域でも古墳時代後期の集落が検出されている。

先掲の前畠遺跡(第7図範囲外)からは古墳時代中期～後期の集落が確認されている。

また、本遺跡の南東約1.3kmに位置する姉山の石組窓(第7図28)は、緩斜面に立地する竪穴建物に構築された山石利用の石組窓であり、吾妻川流域の古墳時代から平安時代にかけて特徴的なものである。

先掲の四戸遺跡からは古墳時代前期4世紀から出現する竪穴建物が5世紀後半に急増して13棟の竪穴建物からなる集落が形成される。集落はその後もさらに安定して継続し、6世紀前半には29棟、6世紀後半には21棟、7世紀前半には11棟、7世紀後半には10棟のそれぞれ竪穴建物からなる集落が形成されている。この集落展開の状況は、段丘東縁に位置する四戸の古墳群の造営にも大きく関与したものと考えられる。

四戸遺跡の東側に隣接する四戸の古墳群では、5世紀中葉から6世紀初頭にかけての竪穴建物が7棟検出されている。上信自動車道建設に先立って発掘調査された範囲からは6世紀後半以降の竪穴建物は検出されていない。

新井遺跡からは中期から後期の集落が検出され、また、唐堀遺跡の西側に隣接する唐堀C遺跡やその東側に位置する万木沢B遺跡では後期の集落が検出されている。

古墳 『上毛古墳総覧』では、現在の東吾妻町内で190基の古墳が登録されている、本遺跡の南東約1.8kmに位置する後期の机古墳(第7図22)は、5世紀後半から6世紀前半頃の築造と考えられ、現在判明している限りでは本県最西端の古墳である。

先掲の四戸の古墳群(第7図範囲外)からは26基の古墳が確認されている。

先掲の新井遺跡からは、中期から後期の方形周溝墓4基、古墳3基も検出されている。検出された一辺約27m程度の方墳は『上毛古墳総覧』に記載された「遠見塚古墳」に相当するとみられる。

先掲の唐堀遺跡からも6世紀後半の円墳1基が検出されている。

水田 本遺跡の南東約5.5kmに位置する厚田中村遺跡(第7図範囲外)では、6世紀初頭に降下したと考えられている榛名山二ツ岳を給源とするHr-FAによって埋没した古墳時代の極小区画水田が部分的に検出され、当該地域における古墳時代の極小区画水田の初めての検出事例となった。

5. 奈良・平安時代

吾妻郡 律令制下において、群馬県域はほぼ上野国の領域に当たっており、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14郡が置かれた(当初13郡、和銅4(711年に多胡郡設置で14郡)。吾妻郡は上野国の北西端に位置し、「長田・伊參・太田」の3郷が確認できる。また、吾妻郡中之条町大字市城付近は官牧の「市代牧」に比定されている。

金井廃寺と吾妻郡家 本遺跡の東北東約8kmに位置する金井廃寺(第7図範囲外)は7世紀後半から9世紀前半にかけての寺院跡であり、上野国佐位郡家に隣接し、佐位郡の郡領層が建立した寺院と考えられる上植木廃寺(伊勢崎市)と同様の軒丸瓦が採取されている。

県内では山王廃寺=放光寺跡(前橋市)、上植木廃寺、寺井廃寺(太田市)とこの金井廃寺以外に、現在のところ本格的な白鳳期の寺院遺跡は発見されておらず、上野国内でも屈指の大寺院の一つであったと考えられる。

7世紀に建立された白鳳期寺院の遺跡の全国的な動向からみれば、それらは地域きっとの有力豪族で、評督、後に郡領層となるような氏族によって建立されたもので、評家、後の郡家に近接する位置に建立されたものと考えられる。群馬郡家の遺跡は、今までのところは発見されていないものの、山王廃寺=放光寺は後の群馬郡領氏族によって建立され、その近隣の地に群馬郡家が存在していたものと考えられる。

その他の、群馬県内における白鳳期寺院の遺跡では、上植木廃寺の南側で佐位郡正倉跡(国指定史跡)が、寺井廃寺の南西側で新田郡庁及び正倉跡(国指定史跡)がそれぞれ発見されている。この点を見ても、金井廃寺は吾妻評の評督、後の吾妻郡の郡領となった氏族によって、吾妻評家、後の吾妻郡家の比較的近接した地に建立されたと見るのが妥当であろう。

吾妻郡は山間部に立地し、律令制下においても郡の等級が最下の小郡という位置づけであったにも拘わらず、いち早く本格的な寺院を建立することが出来た、強い経済的基盤を有する有力な在地首長が存在していたことになる。

なお、11世紀前半における上野国司交替時に取り交わされた国有財産目録の草案である「長元3(1030)年上野国不与解山状案」(いわゆる「上野国交替実録帳」、国宝九条家本『延喜式』裏文書、東京国立博物館蔵)定額寺項には、「放光寺」、「法林寺」、「弘輪寺」、「慈廣寺」の4箇寺の名称が記載されている。「放光寺」が山王庵寺に当たることは、出土した文字瓦によって確実であるので、「法林寺」、「弘輪寺」、「慈廣寺」の三箇寺が、放光寺以外の県内における3箇所の白鳳明寺院遺跡である上植木庵寺、寺井庵寺、金井庵寺のそれぞれかである可能性が高いものと考えられる。

集落 本遺跡周辺においては、本遺跡の南東約2kmに位置する前畠遺跡(第7図26)において古墳時代後期から平安時代に至る集落が検出され、上郷A・B遺跡(第7図6・7)、細谷B遺跡(第7図11)、万木沢B遺跡(第7図範囲外)、本遺跡の南東約2.2kmに位置する根小屋遺跡(第7図25)等からも平安時代の集落が検出された。また、四戸遺跡では、前代から引き続き7世紀後半から10世紀前半に至る大規模な集落が検出されている。

東吾妻町教委が平成24(2016)年度に発掘調査した松谷松下遺跡において古代末期～中世の墳のものと考えられる掘立柱建物が4棟検出されている。

四戸遺跡から検出された集落 四戸遺跡では、7世紀前半の竪穴建物11棟、7世紀後半の竪穴建物10棟、8世紀前半の竪穴建物15棟、8世紀後半の竪穴建物9棟、9世紀前半の竪穴建物1棟、9世紀後半の竪穴建物14棟、10世紀の竪穴建物5棟が検出された。

この時期の竪穴建物にも、前代の竪穴建物と同様、石組みカマドが構築される例も多く存在し、石組みカマドが長期に渡って継続的に造られていたことが明らかとなつた。

また、四戸遺跡からは16点の墨書き器が出土した。これまでのところ、吾妻郡内では最も纏まって古代の文字資料が出土した遺跡である、その中には「吾」(2点)、「寺」(3点)、「牧」(2点)などと記されたものが含まれている。

「吾」や「寺」と記された墨書き器は、吾妻郡内や金井庵寺との関連が推測できるところであるが、金井庵寺は四戸遺跡の北東約5kmとやや離れているところに若干の疑問点が残らないわけではない。「牧」と記された墨書き器は、県内では初めての出土事例となるが、律令制下に官牧が設置されていた地域である山梨県や長野県においては出土事例がある。古代上野国内には、中央政府直轄の官牧が9箇所設置されていたことが『延喜式』に見え、甲斐、信濃、武藏等の諸国と共に律令国家における最大の乗馬の供給地の一つであったことが知られているが、上野国9御牧の一つである沼尾牧が、榛名湖を源とし東吾妻町内東部祖母島地区を北東方向に流れ吾妻川と合流する沼尾川の存在を根拠に、吾妻郡内の所在を推測する仮説がある。四戸遺跡から「牧」と記された墨書き器が出土したこと示唆的である。

さらに、四戸遺跡からは9世紀後半の竪穴建物(2区51号竪穴)からほぼ完形に近い状態で奈良三彩短頸壺が出土した点も特筆される。奈良三彩短頸壺が出土した竪穴建物は、古墳時代から平安時代に至る遺構が最も密集する場所に位置し、奈良三彩短頸壺は、南東側に窓が作りつけられた方形の竪穴建物の西の隅で、床面の直上から口の部分を上にして出土した。出土した時には、口の部分の一部が欠けていたが、その後、欠けた部分もすぐ近くから出土し、ほぼ完全な形に復元することできた。

この奈良三彩短頸壺は、8世紀後半ごろに製作されたものとみられている。大きさは、高さ18.7cm、口径13.0cm、胸幅25.0cm、底径13.9cm。表面の模様は網目状で、緑色をベースに、白および黄色の釉薬をかけて作られている。

これまで、群馬県内では、26箇所の遺跡から奈良三彩が出土しているが、高さ5cmくらいの小型のものがほとんどであった。このような大型の壺は、史跡上野国分寺跡(前橋市・高崎市)と中1遺跡(藤岡市)から出土しているものの、いずれも破片であり、完全なものとしては、今回、この四戸遺跡から出土したもののが県内では初めてである。

このような完全な形の大型の奈良三彩短頸壺は、全国的にもきわめて珍しく、これで7例目である。他の6例は、いずれも国的重要文化財に指定されている。また、発掘調査によって出土したことや、竪穴建物から出土し

たものとしては、全国で初めてである。

耕地 厚田中村遺跡では、天仁元(1108)年降下のAs-Bにによって埋没した水田が部分的に検出されている。

四戸遺跡では、As-Bが大ブロック状に多量に混在した状態で歛間を埋めた状態で古代の畠が検出された。古代畠の検出は、吾妻地域における初めての検出例である。また、As-B下から小規模な水田が検出された。

万木沢B遺跡では、As-B直上に小規模な畠が、その上位となる12世紀前半に降下したとみられているAs-Kk層の直上と直下とで畠が検出された。

これら古代の畠や水田は、本遺跡、四戸遺跡、万木沢B遺跡等において、平安時代の集落の上から検出されており、集落廢絶後に大きな土地利用の変換がなされたことを物語っている。

6. 中世

吾妻氏の台頭 As-Bを降下させた天仁元(1108)年の浅間山の噴火後、上野国内では莊園開発への動きが活発になる。吾妻郡域においては、12世紀末頃に吾妻氏(前吾妻氏)が台頭する。『吾妻鏡』には吾妻八郎・吾妻太郎助亮・吾妻四郎助光の名が見える。承久の乱(承久3=1221年)で吾妻助光が戦死し、前吾妻氏は滅亡した。

その後、嘉禎年間(1235~38年)に、秀郷流藤原氏で、下野国の大豪族である小山氏一門の下河辺行家が鎌倉幕府より吾妻郡を賜わり、新たに吾妻の苗字を名乗った。これを学界では便宜的に後吾妻氏と称している。

貞和5(1349)年に吾妻行盛が里見義侯との争いで戦死し、後吾妻氏は滅亡したとの伝承がある。吾妻郡東吾妻町大字岩井の長福寺五輪塔(第7図範囲外)に刻まれた「藤原行盛」がこの吾妻行盛であるとされるが、戦死の一件については疑問視もされている。

齊藤氏の台頭 14世紀末になると、この地域では秀郷流藤原氏の齊藤氏が台頭してくる。永禄4(1561)年の上杉輝虎の関東出兵時の「関東幕注文」には、「岩下衆 齊藤越前守 六葉柏」とあり、齊藤氏が、本遺跡の南東約2.3kmに位置する岩下城(第7図27)を中心に勢力を張ったことが窺える。

大戸氏の台頭と根古屋城 16世紀前半には温川上流の手子丸城(大戸城、第7図範囲外)に拠った大戸氏が勢力を伸ばし、本遺跡の南東約1.75kmに位置する根小屋城(第

7図20)に入っている。この根小屋城からは、竪穴状遺構、土坑、ピットなどの遺構が検出された。

同時に、本遺跡の南東約2.1kmに位置し、根小屋城を挟んだ対岸に所在する根小屋B遺跡(第7図24)や、根小屋城跡の東側に位置する根小屋遺跡(第7図25)等も発掘調査され、根小屋城に関連するような中世の遺構が検出されている。

岩櫃城と中世城砦の遺跡 永禄6(1563)年の武田晴信の上野国侵攻により、大戸氏は武田氏に従属し、武田氏の部将真田幸隆により齊藤氏の居城岩下城(本遺跡の南東約2.3km、第7図27)は落城。本遺跡の南東約5.2kmに位置する岩櫃城(第7図範囲外)が武田氏の拠点なり、永禄8(1565)年に吾妻郡域は武田氏の支配下となるも、その後、岩櫃城は天正10(1582)年の武田氏滅亡後に独立した真田氏の支配下となり、元和元(1615)年に江戸幕府によって発せられた「一国一城令」により破却された。なお、岩櫃城は、令和元(2019)年10月16日に国の史跡に指定された。

本遺跡周辺には、この他に、本遺跡の南東約5kmに位置する郷原城(第7図範囲外)や、本遺跡の南東約4.5kmに位置する潜龍院(第7図範囲外)などの中世城砦の遺跡があるが、いずれも16世紀代のものと推定される。

吾妻川流域は中世の城館や城砦の遺跡が多く分布する地域として知られている。砦や烽火を置くに適した山間部であることに加えて、この地域は、信濃國方面、上野国碓氷郡方面、上野国群馬郡方面、上野国利根郡方面へとそれぞれ繋がる陸上交通路上の要衝の地であり、また、吾妻川から利根川を利用した水上交通路も利用可能であったため、中世・戦国期における覇権争いの地となつたことにも因るものと考えられる。

本遺跡では、2重の堀によって方形に区画された範囲の中から中世の掘立柱建物2棟や柵3条、数多くの土坑・ピットなどが検出されている。東吾妻町教委が平成24(2016)年度に発掘調査した松谷松下遺跡においても中世以降の土坑61基、竪穴状遺構1基等が検出された。

7. 近世

天正18(1590)年8月1日の徳川家康江戸入府後、本遺跡をふくむ三島村は引き続き真田氏の支配下にあつたが、天和2(1682)年には天領となる。その後、文政

7(1824)年に御三卿清水徳川家の支配下となつたが、安政2(1855)年にはふたたび天領とされた。

周辺遺跡において検出された近世の遺構 この間、天明3(1783)年には浅間山が噴火してAs-Aを降下させており、吾妻川流域では、噴火に伴う泥流被害を受けた遺跡がハッ場ダム建設に先立つて実施された発掘調査において数多く確認されている。

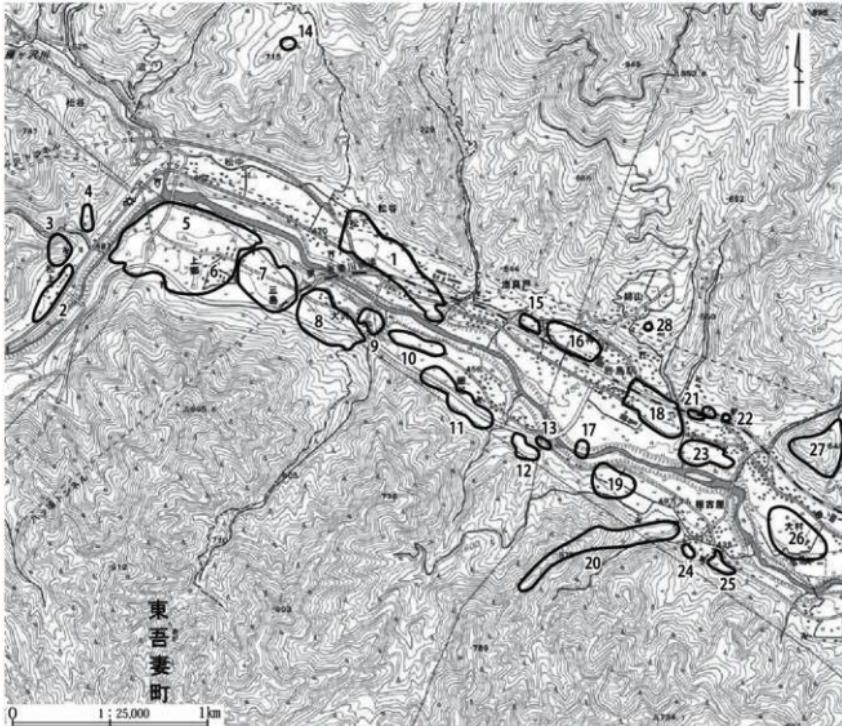
近世の遺構を検出した遺跡には、先述した根小屋城跡や根小屋B遺跡、根小屋遺跡、そして本遺跡、他に厚田中村遺跡、新井遺跡、唐堀遺跡、唐堀B遺跡、唐堀C遺跡、細谷E遺跡がある。

唐堀B遺跡では掘立柱建物や土坑、唐堀C遺跡では掘立柱建物や竪穴状遺構、墓壙、土坑、水路が検出されて

いる。また、細谷E遺跡では鍛冶遺構や土坑が検出されている。これらの各遺跡は、同一の段丘上に位置している。

一方、天明泥流によって埋没した畑や水田が検出されている遺跡には、厚田中村遺跡、新井遺跡、唐堀遺跡があり、いずれも一段低い段丘面で検出されている。

本遺跡においては近世の畑と天明泥流によって覆われた耕作土を復旧するための復旧坑が検出された。また、平成24(2016)年度に発掘調査した松谷松下遺跡においては近世の溝10条と竪穴状遺構1基が検出された。



第7図 周辺遺跡分布図(国土地理院1/25,000地形図「長野原」平成9年7月1日、「群馬原町」平成9年9月1日を加工)

第2表 周辺遺跡一覧表

	遺跡	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	中世	近世	種別・概要	文献・備考
1	松谷松下2。松谷松下	○	○	○	○	○	○	○	散布地。縄文時代窓穴・古代集落・中近世耕地・復旧坑	本報告書、9
2	松谷前田遺跡							○	散布地	
3	雅ヶ澤呪跡				○				城館	3、10、11
4	中村遺跡	○							散布地	
5	上郷岡原遺跡	○	○	○	○	○	○	○	散布地。縄文時代・平安時代・中近世集落・中近世耕地	7
6	上郷A遺跡	○	○	○	○	○	○	○	散布地。窓穴、集落、耕地	8
7	上郷B遺跡	○	○	○	○	○	○	○	散布地、窓穴、集落、墳墓	9
8	大沢遺跡	○	○	○	○	○	○	○	散布地	
9	大沢東遺跡	○		○	○	○	○	○	散布地	
10	綿谷A遺跡	○							散布地	
11	綿谷B遺跡	○		○					散布地	
12	綿谷C遺跡	○		○					散布地	
13	綿谷D遺跡	○							散布地	
14	歌笑遺跡	○							散布地	
15	達貝戸遺跡	○	○	○					散布地	
16	天神遺跡		○	○	○				散布地	
17	舟天親遺跡	○							散布地	
18	赤祇遺跡		○						散布地	
19	綿谷E遺跡	○	○	○	○	○	○	○	散布地。奈良・平安時代土坑・ピット群。中近世土坑群・製鉄関連遺構	8
20	根小屋城跡		○	○					中世城郭・窓穴状構造・土坑・ピット群	3、8、10、11
21	北浦遺跡	○							散布地	
22	机古墳		○						古墳	2、4
23	岩下中村遺跡	○		○	○				散布地	
24	根小屋B遺跡				○	○	○	○	中近世土坑・ピット群	8
25	根小屋遺跡	○		○	○	○	○	○	散布地。古代・中世集落	8
26	前畠遺跡	○	○	○	○	○	○	○	散布地、縄文・弥生時代土坑群・古代・中近世集落	1
27	岩下城跡				○				中世城郭	3、10、11
28	妙山の石組塁		○						集落(県指定史跡)	

1 吾妻町教育委員会編『前畠遺跡』1998

2 群馬県編1938『上毛古墳新観』

3 群馬県教育委員会編1988『群馬県の中世城跡』

4 群馬県教育委員会編2017『群馬県古墳新観』

5 群馬県理藏文化財調査事業団編2007～2009『上郷岡原遺跡(1)～(3)』

6 群馬県理藏文化財調査事業団編2003『久々戸遺跡(2)・中野遺跡(2)・西ノ上道路・上郷A遺跡』、同2009『上郷A遺跡』

7 群馬県理藏文化財調査事業団編2006『上郷B遺跡・廣石A遺跡、二反沢遺跡』

8 群馬県理藏文化財調査事業団編2017『年報』36

9 東吾妻町教育委員会編2014『松谷松下道路』

10 山崎一1972『群馬県古城跡址の研究』下 群馬県文化事業振興会

11 山崎一・山口武夫1972『吾妻郡城壁史』西毛新聞社

※文献番号のないものは、群馬県地図情報システムマッピングぐんま道路地図によった。

第3節 基本土層

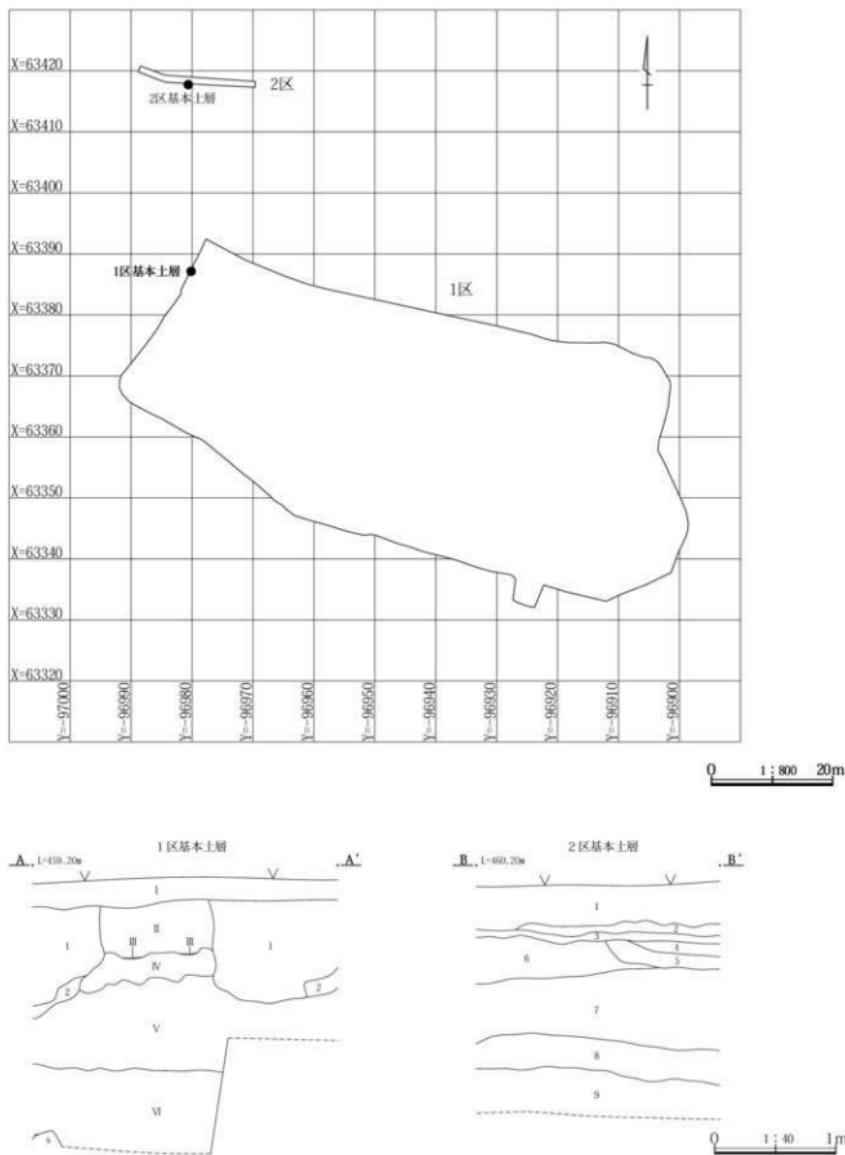
先述したように本遺跡は吾妻川左岸側の河岸段丘上に立地し、北側には吾嬬山の山麓が広がっている。南側には吾妻川が西から東へと流れ、東側は吾嬬山中腹から発した小河川が形成した深い谷に接している。

本遺跡では表土層直下に天明泥流層が確認された。さらに天明泥流層直下においてAs-Aの堆積が確認され、このAs-Aの降下面を第1面として調査を行った。さらに下

位層を除去した土層面において溝や土坑等の遺構が確認されたので、この面を第2面として調査を実施した。

なお、本遺跡では、後世の攪乱・削平の影響が大きく、遺構の残存状態は決して良いわけではない。

1区の基本土層は調査区西壁、調査区北西隅から南西約4mのX=63387.8・Y=-96979.8付近で、2区の基本土層は調査区南壁の中央からやや西寄りの位置、調査区南東隅から西北西に約11mのX=63417.8・Y=-96980.6付近で記録した。



第8図 基本土層図

1区基本土層A-A'

- I 10Y3/1黒褐色土 繁3~5cm程の礫含む。植物根の影響を多く受け
る。(表土)
- II 10Y3/2黒褐色土 繁まり有り。繁1~30cm程の礫を多量に含む。(天
明泥流堆積物)
- III As-k
- IV 10Y2/1黒色土 繁まりやや有り、粘性余り無し。径1~3cm程の礫
及び炭化物粒を若干含む。(耕作土)。
- V 10Y3/1黒褐色土~10Y5/4純い黄褐色土 繁まりやや有り。黄褐色粒
及び炭化物粒を若干含む。(ローム漸移層)。
- VI 10Y5/6黄褐色土 繁まりやや有り、やや砂質。黄褐色粒を若干含む。
斑模様の染みがみられる。(ローム)。
- 1 10Y3/1黒褐色土 繁まりやや有り。II層に比べてやや繁まり弱く、
植物根の影響を多く受けける。黒色土を僅かに含む。(復旧坑埋め戻し
上)。
- 2 10Y2/1黒色土 繁まりやや有り、粘性余り無し。As-kを混ぜ込むよ
うに含む。(復旧坑埋削時の崩落土)。

2区基本土層B-B'

- 1 10Y3/2黒褐色土 繁まりやや有り。炭化物粒及び繁1~3cm程の礫
を若干含む。碎石を含む。(表土)。
- 2 10Y3/2黒褐色土 砂層。水性堆積か。
- 3 10Y3/2黒褐色土 粘性やや有り。鉄分沈着有り。水成堆積か。
- 4 10Y4/1褐色土 黄褐色粒及び炭化物粒を若干、繁1~5cm程の礫を
少量含む。
- 5 10Y4/1褐色土 灰黃褐色土のブロックを約40%含む。炭化物粒を若
干含む。
- 6 10Y2/2黒褐色土 繁まりやや有り。炭化物粒及び繁約1~3cmの礫
を若干含む。
- 7 10Y2/2黒褐色土 繁まりやや有り、繁約3~20cmの亜円礫を若干含
む。
- 8 10Y3/2黒褐色土 7層に比べてやや明るい色調を呈する。繁約5~
20cm程の円礫を少量含む。
- 9 10Y2/2黒褐色土 繁約5~20cmの円礫を少量含む。

参考文献(第2章)

- 青木裕美ほか2012 「戦国史—上州の150年戦争—」 上毛新聞社
- 吾妻教育会編1929 「群馬県吾妻郡誌」
- 吾妻教育会編1936 「群馬県吾妻郡誌追録」第1輯
- 吾妻町教育委員会編1983 「唐原道路」
- 吾妻町教育委員会編1985 「郷原道路」
- 吾妻町教育委員会編1992 「吾妻町指定史跡岩櫃城跡保存整備計画策定報
告書」
- 吾妻町教育委員会編1994 「岩櫃城跡北側道構群道路」
- 吾妻町教育委員会編1998 「郷原遺跡」
- 吾妻町教育委員会編1998 「前畠道路」
- 吾妻町教育委員会編1998 「生原道路」
- 吾妻町教育委員会編2006 「町内道路図」
- 岩島村誌編集委員会編1971 「岩島村誌」
- 角川日本地名大辞典編纂委員会編1988 「角川日本地名大辞典10 群馬県」
- 唐津市定1998 「岩下城と岩櫃城」『群馬歴史散歩』第146号 群馬歴史散歩
の会
- 京都大学文学部国語学国文学研究室編1968 「諸本集成頃名類歌押」本文篇
篇川書店
- 群馬県編1988 「上毛古墳続観」
- 群馬県教育委員会1988 「群馬県の中世城館跡」
- 群馬県教育委員会編2017 「群馬県古墳続観」
- 群馬県史編纂委員会編1981 「群馬県史」資料編3
- 群馬県史編纂委員会編1986 「群馬県史」資料編2
- 群馬県総務部市政町村課編2015 「平成27年度群馬県市町村要覧」
- 群馬県農政部・地政部・地政改良課編2003 「土地分類基本調査中之条」
- 群馬県文化財振興会編1985 「上野国都村」11
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編2005 「久々戸道路(2)・中棚道路
(2)・西ノ上道路・上郷A遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編2006 「上郷B・廣石A・二反沢道路」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編2007 「上郷B遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編2008 「上ノ平I道路(1)」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編2008 「上郷西道路」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編2009 「細谷B道路」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編2009 「上郷A道路(2)」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編2009 「上郷B道路(3)」
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編2014~19 「年報」33~38
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編2017 「唐原B道路」
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編2017 「原田中村道路」
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編2020 「四戸道路」
- 杉原在介1967 「群馬県岩櫃山における弥生時代の墓址」『考古学集刊』第3
巻第4号 東京考古学会
- 轟直行2014 「岩櫃山鷹の巣遺跡で採取された丸子式土器の破片」『考古学
集刊』第10号 明治大学文学部考古学研究室
- 原町誌編纂委員会編1960 「原町誌」
- 東吾妻町教育委員会編2011 「上郷道路」
- 東吾妻町教育委員会編2012 「細谷道路」
- 東吾妻町教育委員会編2016 「岩櫃城跡」
- 山崎一1972 「群馬県古墳遺跡の研究」下 群馬県文化事業振興会
- 山崎一・山口武夫1972 「吾妻郡城壁史」 西毛新聞社
- 脇屋真一1998 「里見氏の岩櫃城攻略」『群馬歴史散歩』第146号 群馬歴史
散歩の会
- マッピングぐんま・道路まつぶ
<http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma-iseki/Portal>

第3章 発見された遺構と遺物

先述したように、本遺跡の発掘調査は平成31年度上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴い、調査面積は3,890m²を対象に実施された。

調査区に飛地が存在するため、便宜上、主体となる調査区を1区、飛地部分を2区とする調査方針を立て、調査を実施した。なお2区は、調査区が狭小で国道に沿うため、1.5m×10m程のトレンチを設定し人力による掘削調査を行った。遺構は確認されず、縄文土器数点が出土している。調査区界壁面における断面上層観察を行い、終了後直ちに埋め戻し旧状に復した。

以下では遺構が検出された1区における調査内容について、遺構検出面ごとに述べる。

第1節 1面から検出された遺構と遺物

先述したように江戸時代の天明泥流堆積物直下における遺構確認面を1面としたが、1区では中央北側から東側約1/3にかけての部分が攢乱されており、遺構は調査区中央部の南側約2/3の範囲と西側一帯において検出された。調査区全体から見れば約1/2の範囲である。なお、攢乱され、遺構が検出されなかった1区の東側約1/3の範囲内、1区の南東寄りの位置にトレンチを設定し、下層の状況を確認した(1区1面1・2号トレンチ)。

1区の遺構検出範囲の西半分からは、天明泥流に覆われた耕作土を手に入れるための復旧坑が18基確認された。一方、As-Aの残存が良好であった1区遺構検出範囲の西側約3/4の部分では北西-南東方向に伸びる畑が検出された。この畑を破壊して復旧坑が掘削されている説で、復旧坑が掘削されている範囲においても復旧坑間からは畑の畝間の溝状のサクが検出されており、畑は1区の全域に及んでいたものと推測出来る。

1. 復旧坑

1区の遺構検出範囲の西側約半分のエリアからは天明泥流に覆われた耕作土を手に入れるための復旧坑が18基確認された。1区の西端側からは3～18号の16基の復旧

坑が密な状態で検出された。それらは、それら以前に造られていた畑と同様、北西-南東方向に掘削されている。一方、その東側に位置する2基の復旧坑は、1区西端側から検出された3～18号復旧坑とは異なり、3mほどの間をおいて北東-南西方向に掘られており、畑の耕作方向との違いが考えられた。

1区の西端部分で検出された北西-南東方向に掘られた3～18号復旧坑は、土層断面の観察によって、南側の掘り込みが明確で、残存状態が良好であり、北側のものは土が崩落している様子が確認され、北側のものは復旧坑を深く掘りこんだ際の足場にしたのではないかと考えられる。

1号復旧坑(第11図、PL. 2～4)

位置 1区の中央からやや西寄りの位置。2号復旧坑の約3～4m西側にほぼ並列する。3～18号復旧坑とは約90°向きを変え、約3.2～5.2m東側に位置する。
X=63357～382、Y=-96959～976。

重複 1号畑を掘り込む。

構成坑数 7基。

坑の平面形状 北東-南西方向に長い不整長円形土坑状ないし溝状の掘り込み7基が連なる。

主軸方位 N-33°-E。

規模 検出全長29.50m、上幅0.54～1.44m、下幅0.87m、深さ0.68m。

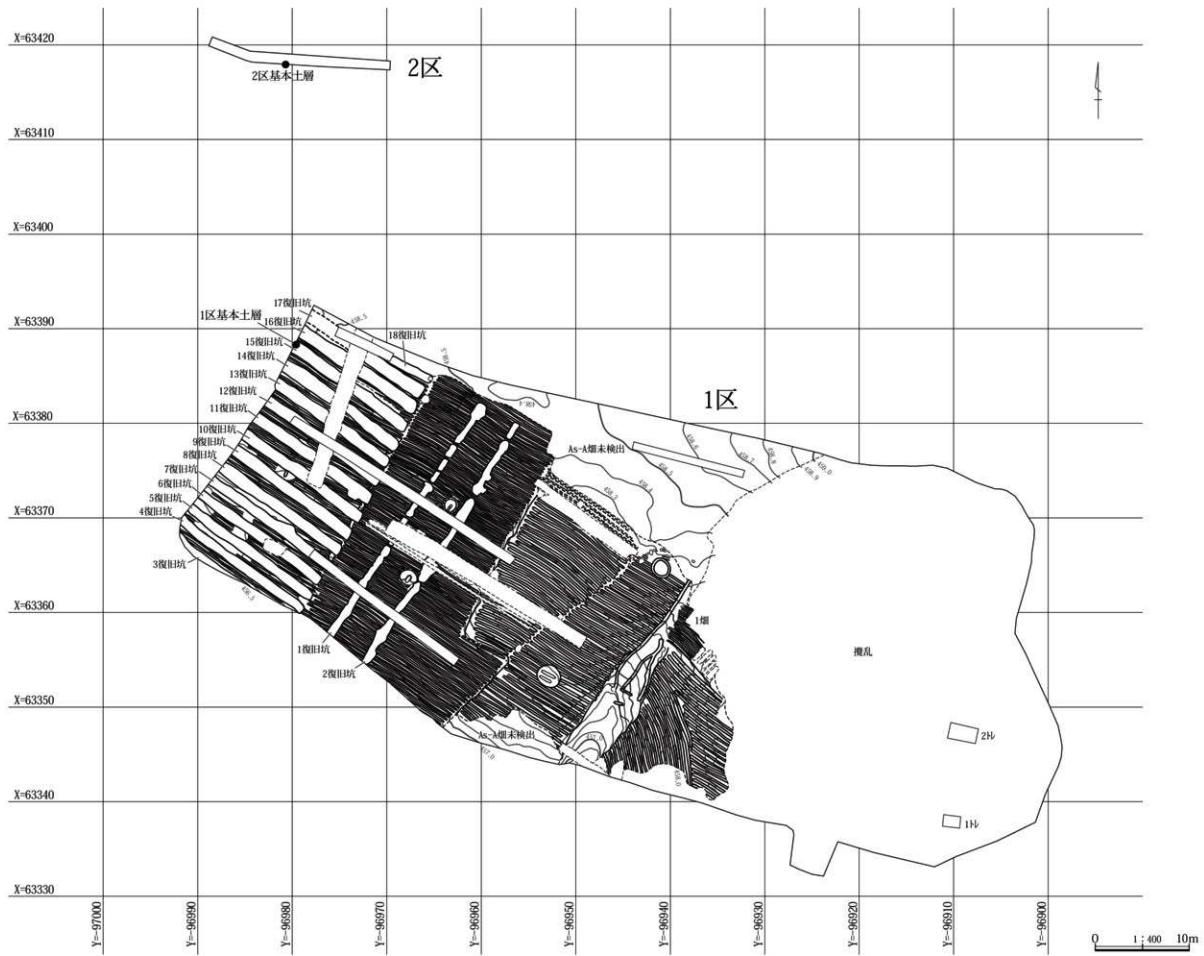
検出面積 19.304m²。

埋土 復旧坑の人为的埋め戻し土。天明泥流堆積物の締まりやや有り、やや砂質で、径3～10cm程の礫含む10YR3/3暗褐色土層に、下層の10YR2/2黒褐色土を含む混土層で、As-Aも僅かながら疎らに含む層と同じだが、やや赤みかった土を若干含む。

遺物 なし。

所見 北東側は、調査区北壁の南壁約3mの地点から掘り込まれ、南西端は調査区南壁外へと延びている。

北側約2/3部分は、長さ1.39～5.11m、幅0.54～1.23mの規模の6基が土坑連続状に掘り込まれ、南側約1/3は



2区調査区



第10図 2区全体図

長さ11.30m以上、幅や約0.55~1.03mの規模の長大な溝状の坑が掘り込まれている。

時期 天明3(1783)年以降、江戸時代後期。

2号復旧坑(第11図、PL. 2~4)

位置 1区の中央からやや西寄りの位置。1号復旧坑の約3~4m東側にはほぼ並列する。X=63354~380、Y=-96955~972。

重複 1号烟を掘り込む。

構成坑数 4基。

坑の平面形状 北東~南西方向に長い不整長円形土坑状ないし溝状の掘り込み4基が連なる。

主軸方位 N-33°-E。

規模 検出全長30.21m、上幅0.67~1.58m、下幅0.48m、深さ0.68m。

検出面積 22.997m²。

埋土 復旧坑人為的埋め戻し土。天明泥流堆積物の締まりやや有り、やや砂質で、径3~10cm程の礫含む。

10YR3/3暗褐色土層に、下層の10YR2/2褐色土を含む混土層で、As-Aも僅かながら疎らに含む層と同じだが、や

や赤みかかった土を若干含む。

遺物 なし。

所見 北東側は、調査区北壁の南西約4mの地点から掘り込まれ、南西端は調査区南壁外へと延びている。北側約2/3は、長さ1.95~10.50m・幅0.67~1.58mの3基の隅丸長方形状ないし不整長円形状の坑が連接して掘り込まれ、南側1/3は長大な溝状の坑が掘り込まれている。

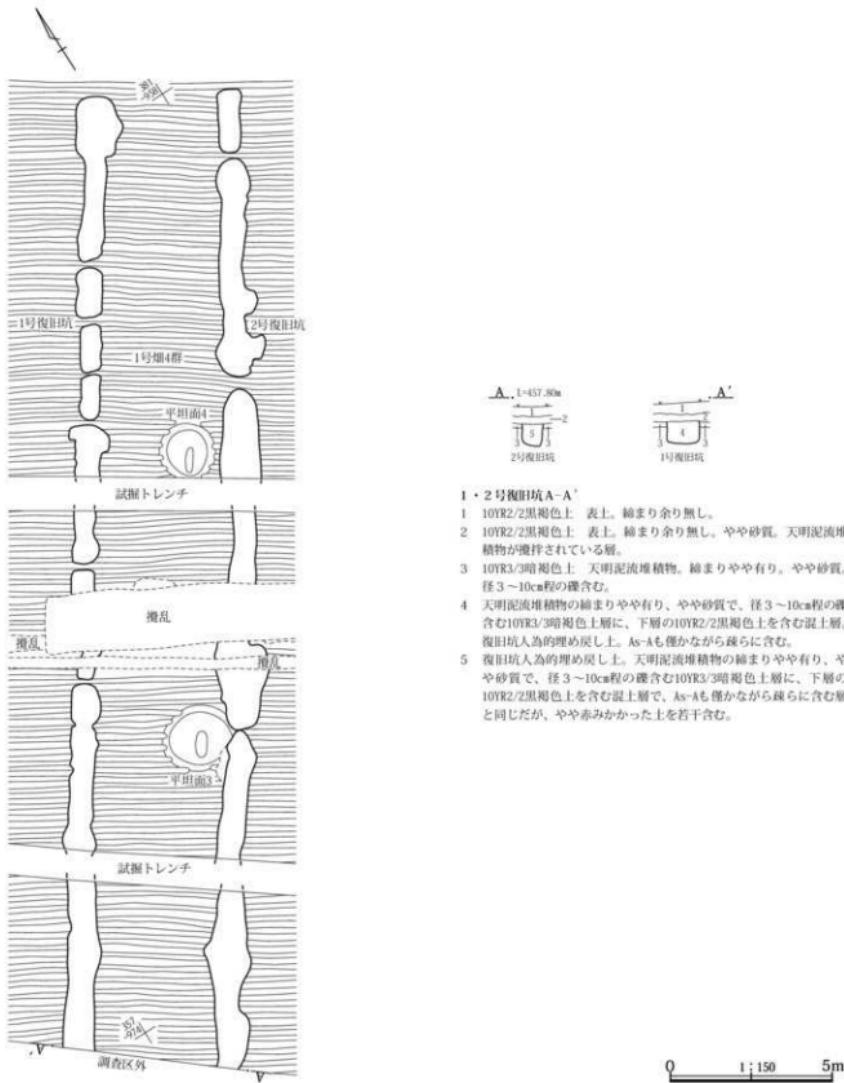
時期 天明3(1783)年以降、江戸時代後期。

3~18号復旧坑群(第12・13図、PL. 2~6)

近似した主軸方位・規模の16基の復旧坑が、0.1~1.2mの近い間隔で南北に並列する3~18号復旧坑は、一つの群を形成していたものと考えられる。北側は、調査区北壁から約1.02~1.51mの位置から掘り込まれており(18号復旧坑)、南端は調査区南壁外へと延びている(3号復旧坑)。なお、北側に位置する10~17号復旧坑は、検出範囲のほぼ中央を北東~南西方向に幅約1.8m前後に亘って壊乱されている。

発掘調査時には、これら3~18号復旧坑群を個々に記録しているので、以下では、群を構成する個々の復旧坑

1・2号復旧坑



第11図 1区1面1・2号復旧坑

について述べる。

位置 I 区の西端約1/5を占める。X=63359~392、Y=-96965~991。

重複 1号畑を掘り込む。

構成坑数 16基。

各坑の平面形状 いずれも北西-南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-53°~63°-W。

群の規模 北東-南西軸30.25m、南東-北西軸17.35m、面積524.837m²。

各坑の規模 検出全長5.50~16.15m、上幅0.82~1.84m、下幅0.45~1.13m、深さ0.22~0.56m。

検出面積 4,714m²。

埋土 10YR3/3暗褐色土 天明泥流堆積物の埋め戻し土。

砂質、締まり余り無し。径10~20cm程の円礫を含む。礫を纏まって含む箇所もある。本群を形成する16基の復旧坑すべての埋土が同一であった。

所見 1号復旧坑の西側約3.4~5.6mの位置に、1・2号復旧坑とはほぼ90°向きを変えて位置する。

いずれの坑も南東側は、Y=-96965.8~9791ライン付近から掘り込まれ、北西端は調査区西壁外へと延びている。また、各坑の底面はほぼ一定して平坦である。工具痕と見られる凹凸はあるが、不明瞭である。

時期 天明3(1783)年以降、江戸時代後期。

3号復旧坑

位置 3~18号復旧坑群の南端に位置する。4号復旧坑のすぐ南側約0.6~0.8mの位置にほぼ並列する。X=63362~368、Y=-96984~991。

坑の平面形状 北西-南東方向に長い溝状を呈するものと推測される。復旧坑の北辺の一部が辛うじて検出出来た程度であり、大変の部分が調査区南壁及び西壁の外に出るため、詳細は不明である。

主軸方位 N-56°-W。

規模 検出全長9.50m、上幅0.82m、下幅0.51m、深さ0.39m。

検出面積 4.714m²。

遺物 なし。

4号復旧坑

位置 3~18号復旧坑群の南から2番目の位置に所在する。3号復旧坑のすぐ北側約0.60~0.80mの位置、5号復旧坑のすぐ南側約0.48~0.84mの位置にそれらとほぼ並列する。X=63359~370、Y=-96979~991。

坑の平面形状 X=63365・Y=-96978.7付近から掘り込まれ、北西-南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-54°-W。

規模 検出全長16.15m、上幅0.82~1.10m、下幅0.72m、深さ0.22m。

検出面積 16.490m²。

遺物 なし。

5号復旧坑

位置 3~18号復旧坑群の南から3番目の位置に所在する。4号復旧坑のすぐ北側約0.48~0.84mの位置、6号復旧坑のすぐ南側約0.74~0.98mの位置にそれらとほぼ並列する。X=63361~371、Y=-96977~991。

坑の平面形状 X=63361.5・Y=-96977.9付近から掘り込まれ、北西-南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-54°-W。

規模 検出全長16.05m、上幅0.93~1.18m、下幅0.48m、深さ0.35m。

検出面積 17.258m²。

遺物 なし。

6号復旧坑

位置 3~18号復旧坑群の南から4番目の位置に所在する。5号復旧坑のすぐ北側約0.74~0.98mの位置、7号復旧坑のすぐ南側約0.58~0.84mの位置にそれらとほぼ並列する。X=63363~372、Y=-96976~989。

坑の平面形状 X=63363・Y=-96977付近から掘り込まれ、北西-南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-55°-W。

規模 検出全長15.66m、上幅0.97~1.27m、下幅0.83m、深さ0.43m。

検出面積 15.188m²。

遺物 なし。

7号復旧坑

位置 3～18号復旧坑群の南から5番目の位置に所在する。6号復旧坑のすぐ北側約0.58～0.84mの位置、8号復旧坑のすぐ南側約0.70～1.19mの位置にそれらとほぼ並列する。 $X=63364\sim374$ 、 $Y=-96975\sim987$ 。

坑の平面形状 南東端を搅乱されているが、 $X=63364.8$ ・ $Y=-96976$ 付近から掘り込まれたものと考えられ、北西～南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-53°-W。

規模 検出全長15.50m、上幅0.99～1.60m、下幅0.45m、深さ0.46m。

検出面積 15.552m²。

遺物 なし。

8号復旧坑

位置 3～18号復旧坑群の南から6番目の位置に所在する。7号復旧坑のすぐ北側約0.70～1.19mの位置、9号復旧坑のすぐ南側約0.78～0.92mの位置にそれらとほぼ並列する。 $X=63366\sim375$ 、 $Y=-96974\sim987$ 。

坑の平面形状 $X=63366.5$ ・ $Y=-96975$ 付近から掘り込まれたものと考えられ、北西～南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-54°-W。

規模 検出全長15.44m、上幅1.14～1.49m、下幅0.60m、深さ0.39m。

検出面積 19.328m²。

遺物 なし。

9号復旧坑

位置 3～18号復旧坑群の南から7番目の位置に所在する。8号復旧坑のすぐ北側約0.78～0.92mの位置、10号復旧坑のすぐ南側約0.60～0.98mの位置にそれらとほぼ並列する。 $X=63367\sim377$ 、 $Y=-96973\sim986$ 。

坑の平面形状 $X=63368$ ・ $Y=-96974$ 付近から掘り込まれたものと考えられ、北西～南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-54°-W。

規模 検出全長15.23m、上幅1.12～1.39m、下幅0.80m、深さ0.45m。

検出面積 19.648m²。

遺物 なし。

10号復旧坑

位置 3～18号復旧坑群の南から8番目の位置に所在する。9号復旧坑のすぐ北側約0.60～0.98mの位置、11号復旧坑のすぐ南側約0.48～1.07mの位置にそれらとほぼ並列する。 $X=63369\sim379$ 、 $Y=-96972\sim985$ 。

坑の平面形状 $X=63370$ ・ $Y=-96972.72$ 付近から掘り込まれたものと考えられ、北西～南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-55°-W。

規模 検出全長15.25m、上幅1.19～1.40m、下幅0.80m、深さ0.44m。

検出面積 17.450m²。

遺物 なし。

11号復旧坑

位置 3～18号復旧坑群の北から8番目の位置に所在する。10号復旧坑のすぐ北側約0.48～1.07mの位置、12号復旧坑のすぐ南側約0.70～0.98mの位置にそれらとほぼ並列する。 $X=63371\sim381$ 、 $Y=-96971\sim984$ 。

坑の平面形状 $X=63372$ ・ $Y=-96971.64$ 付近から掘り込まれたものと考えられ、北西～南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-55°-W。

規模 検出全長14.97m、上幅1.20～1.84m、下幅0.97m、深さ0.43m。

検出面積 17.578m²。

遺物 なし。

12号復旧坑

位置 3～18号復旧坑群の北から7番目の位置に所在する。11号復旧坑のすぐ北側約0.70～0.98mの位置、13号復旧坑のすぐ南側約0.64～0.98mの位置にそれらとほぼ並列する。 $X=63373\sim382$ 、 $Y=-96970\sim982$ 。

坑の平面形状 北側大部分を搅乱されているが、 $X=63374$ ・ $Y=-96970.42$ 付近から掘り込まれたものと考えられ、北西～南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-54°-W。

規模 検出全長14.62m、上幅1.23～1.36m、下幅0.75m、

深さ0.46m。

検出面積(攢乱部分を除く) 8.554m²。

遺物 なし。

13号復旧坑

位置 3～18号復旧坑群の北から6番目の位置に所在する。12号復旧坑のすぐ北側約0.64～0.98mの位置、14号復旧坑のすぐ南側約0.56～1.06mの位置にそれらとほぼ並列する。X=63375～384、Y=-96969～981。

坑の平面形状 X=63375.8・Y=-96969.9付近から掘り込まれたものと考えられ、北西～南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-54°-W。

規模 検出全長14.68m、上幅1.19～1.50m、下幅1.13m、深さ0.54m。

検出面積 16.405m²。

遺物 なし。

14号復旧坑

位置 3～18号復旧坑群の北から5番目の位置に所在する。13号復旧坑のすぐ北側約0.56～1.06mの位置、15号復旧坑のすぐ南側約0.56～1.06mの位置にそれらとほぼ並列する。X=63377～386、Y=-96968～981。

坑の平面形状 X=63375.4・Y=-96969付近から掘り込まれたものと考えられ、北西～南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-53°-W。

規模 検出全長14.84m、上幅1.11～1.65m、下幅0.65m、深さ0.41m。

検出面積 18.154m²。

遺物 なし。

15号復旧坑

位置 3～18号復旧坑群の北から4番目の位置に所在する。14号復旧坑のすぐ北側約0.56～1.06mの位置、16号復旧坑のすぐ南側約0.36～0.81mの位置にそれらとほぼ並列する。X=63379～388、Y=-96967～980。

坑の平面形状 X=63379.54・Y=-96968付近から掘り込まれたものと考えられ、北西～南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-54°-W。

規模 検出全長14.65m、上幅1.16～1.39m、下幅0.68m、深さ0.52m。

検出面積 16.745m²。

遺物 なし。

16号復旧坑

位置 3～18号復旧坑群の北から3番目の位置に所在する。15号復旧坑のすぐ北側約0.36～0.81mの位置、17号復旧坑のすぐ南側約0.12～0.18mの位置にそれらとほぼ並列する。X=63381～390、Y=-96966～979。

坑の平面形状 X=63381.62・Y=-96966.81付近から掘り込まれたものと考えられ、北西～南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-56°-W。

規模 検出全長14.60m、上幅1.30～1.75m、下幅1.12m、深さ0.46m。

検出面積 18.069m²。

遺物 なし。

17号復旧坑

位置 3～18号復旧坑群の北から2番目の位置に所在する。16号復旧坑のすぐ北側約0.12～0.18mの位置、18号復旧坑のすぐ南側約0.08～0.46mの位置にそれらとほぼ並列する。X=63382～392、Y=-96965～978。

坑の平面形状 X=63383.16・Y=-96966.31付近から掘り込まれたものと考えられ、北西～南東方向に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-55°-W。

規模 検出全長14.54m、上幅1.38～1.62m、下幅0.70m、深さ0.56m。

検出面積 16.276m²。

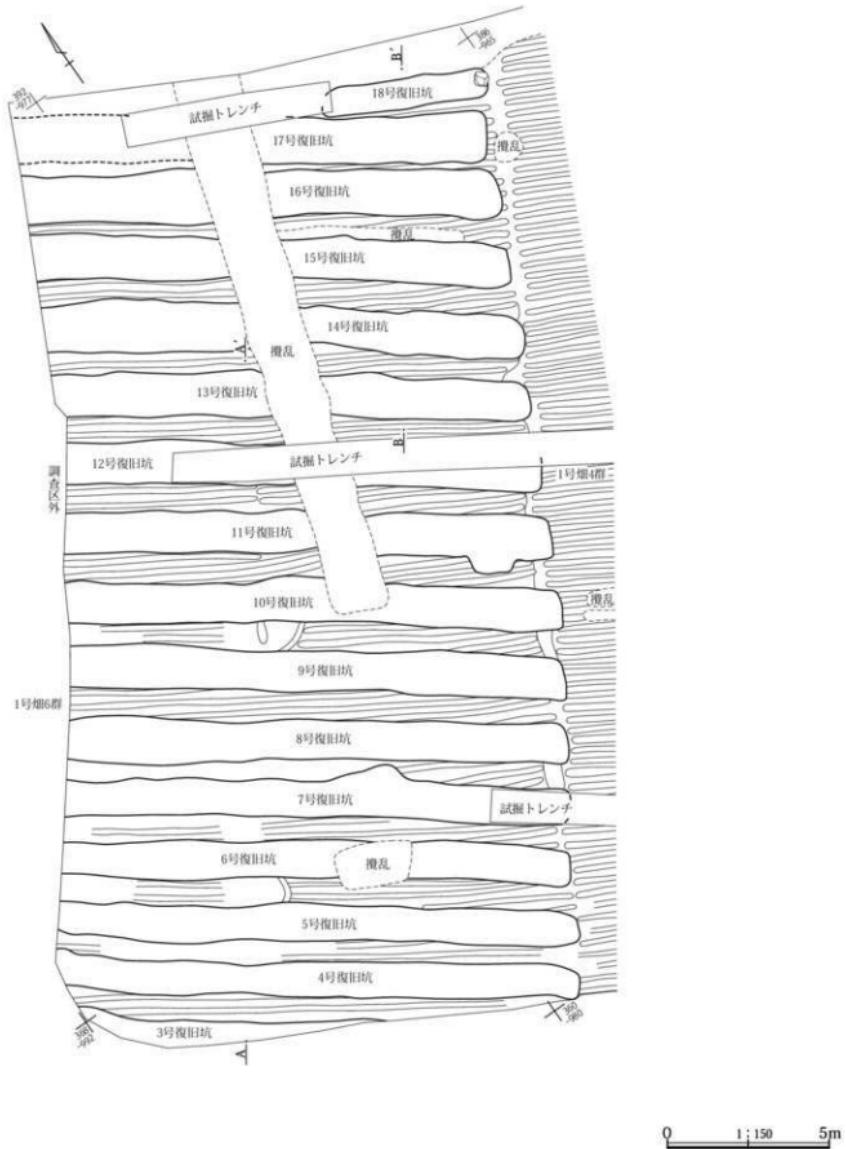
遺物 なし。

18号復旧坑

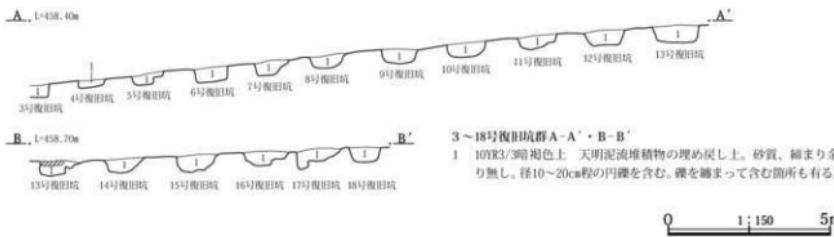
位置 3～18号復旧坑群の最北に位置する。17号復旧坑のすぐ北側約0.08～0.46mの位置、調査区北壁の南側約1.11～1.44mの位置にそれらとほぼ並列する。X=63384～387、Y=-96965～969。

坑の平面形状 X=63384.50・Y=-96965.18付近から

3～18号復旧坑



第12図 1区1面3～18号復旧坑群



第13図 1区1面3~18号復旧坑群断面図

掘り込まれたものと考えられ、北西-南東方向に長い溝状を呈するものと考えられるが、西側を大きく搅乱されたり、全容は不明である。3~17号復旧坑に比べて幅が狭く、また、検出範囲内における西端も窄まっているような形状に見えるので、他の復旧坑からみれば異例の、全長約5m程度の小規模な復旧坑である可能性が高い。

主軸方位 N-55°-W。

規模 検出全長5.50m、上幅0.85~0.96m、下幅0.68m、深さ0.45m。

検出面積 4.309m²。

遺物 なし。

2. 畑

先述した通りAs-Aの残存が良好な、調査区の西側約3/4の部分では、北西-南東方向に長く伸びる畠の歓間の溝状のサクと、畠の中の円形の平坦面が4箇所検出された。歓間の溝状のサクの向きと、それらを回続する細長い通路状部分によって6群に分けられる。

1号畠

位置 調査区西側約3/4、X=63340~391、Y=-96933~991。

重複 調査区中央部に位置する4群では1・2号復旧坑に、調査区西端部に位置する6群では3~18号復旧坑群に掘り込まれる。

標高 およそ457~458m前後

サクの埋土 As-A。

所見 調査区中央付近では、谷地形に沿って弧を描くように検出された。

本遺跡においては、平坦面が狭小であるため、棚田を

生産効率が高い安定した水田面を形成しにくかったという事情から、本調査区の位置に限っては水田ではなく畠が造られたものと推測出来る。

時期 天明3(1783)年前後、江戸時代後期。

1群(第14・15図、PL. 2・7)

位置 調査区中央より南東に寄った位置、2群の直ぐ南側に隣接し、幅約1.2~2.1m程度の北東方向から南西に向かって下がる小規模な谷を挟んだ東側に位置する。X=63340~355、Y=-96335~947。

重複 なし。

歓・サクの主軸方位 N-7°~55°-W。

歓・サクの本数 各39条。

検出された歓の長さ 1.70~12.40m。

検出されたサクの長さ 1.76~12.48m。

検出された歓の幅 0.15~0.41m。

検出されたサクの幅 上幅0.18~0.34m、下幅0.07~0.25m。

検出された歓の高さ 0.02~0.08m。

検出されたサクの深さ 0.02~0.06m。

検出面積 115.968m²。

標高 457.2~458.3m。

平坦面 検出されなかった。

遺物 なし。

所見 南東側から北西側に向かって緩やかに傾斜している。

北側から南東隅にかけては北西-南東方向の歓間のサク19条・歓20条が検出された。また、西側では北北西-南南東方向の歓間のサク19条・歓20条が検出された。

群の東側と南側とは搅乱されており、歓・サクの全容

第3章 発見された遺構と遺物

が検出された箇所は1箇所もない。

先述したように、3群との間に北東方向から南西方向に向かって下がる小規模な谷が位置しているが、谷の縁辺と中央に溝状の掘り込みが見られる。排水を意図した小規模な溝の可能性も考えられるが、定かではない。

2群(第14・15図、PL. 2・7)

位置 調査区中央から南東に寄った位置、1群の直ぐ北側に隣接し、谷頭を隔てて3群の東側に隣接する。X=63352~360、Y=-96937~941。

重複 なし。

歎・サクの主軸方位 N-48°~68°-W。

歎・サクの本数 各12条。

検出された歎の長さ 0.99~3.99m。

検出されたサクの長さ 1.11~4.09m。

検出された歎の幅 0.14~0.32m。

検出されたサクの幅 上幅0.14~0.32m、下幅0.09~0.15m。

検出された歎の高さ 上面の削平を受け、検出不能。

検出されたサクの深さ 上面の削平を受け、検出不能。

検出面積 12.800m²。

標高 457.96~458.13m。

平坦面 検出されなかった。

遺物 なし。

所見 東側から西側に向かって緩やかに傾斜している。

上面が削平され、さらに東側が擾乱され、西側は谷頭に接するため、残存状態は悪い。

北西-南東方向の歎間のサク・歎各12条が検出された。

群の東側と南側とは擾乱されており、また、谷頭に接する部分では特に上面の削平が甚だしく、歎・サクの全容が検出出来た箇所は1箇所もない。

3群(第14・15図、PL. 2・7・8)

位置 調査区中央からやや南東に寄った位置、4・5群の直ぐ東側に隣接し、谷を隔てて1・2群の西側に位置する。X=63345~366、Y=-96938~962。

重複 なし。

歎・サクの主軸方位 N-58°-W。

歎・サクの本数 歎57条、サク60条。

検出された歎の長さ 1.79~10.31m。

検出されたサクの長さ 0.70~10.15m。

検出された歎の幅 0.12~0.43m。

検出されたサクの幅 上幅0.16~0.30m、下幅0.06~0.18m。

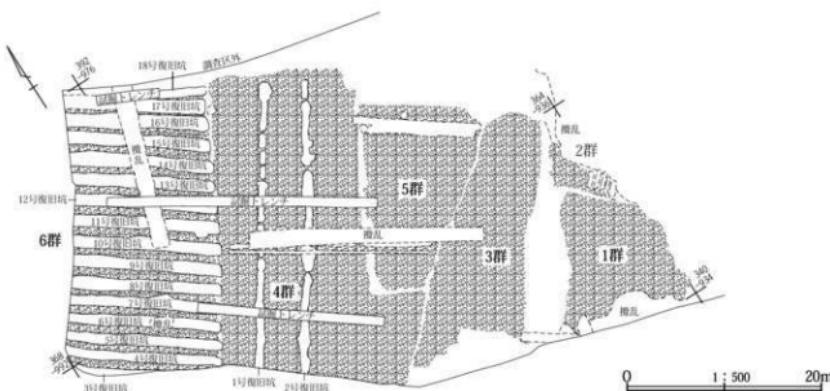
検出された歎の高さ 上面の削平を受け、検出不能。

検出されたサクの深さ 上面の削平を受け、検出不能。

検出面積 180.353m²。

標高 457.15~458.33m。

平坦面 群の北端中央と中央から南西寄りの位置の2箇所から平坦面が検出された。



第14図 1区1面1号烟の各群

平坦面とは、天明3年浅間山噴火により起こった所謂「天明泥流」直下から検出された畠内において多く検出される、一定の間隔で設けられた径約1~2m前後の円形の平坦箇所であり、概して外周を幅約0.1~0.2m程度の細い溝が巡っているものが多い。この遺構の性格や用途については、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編『久々戸遺跡・中棚II遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2003において、吾妻郡内に遺る民俗事例であるムギやヒエの播種時に堆肥や人糞と種を混ぜ合わせて作る「アワセゴイ」「タレゴイ」を入れた「ハンギリオケ」を置く「コエアト」「コヤト」と称される場所と考えられることがすでに指摘されている。

群北端中央、 $X=63364.7 \cdot Y=-96945$ 付近から検出された平坦面は、北西-南東方向にやや長い梢円形状を呈し、長径1.10m、短径0.98m、畠の確認面からの深さは0.01~0.02m前後で、外周を幅約0.2m程度の細い溝が巡っている。

一方、群の中央から南西寄りの位置、 $X=63353$ 、 $Y=-96953$ 付近から検出された平坦面は、群北端中央から検出された平坦面から南西に約14.2mの地点に位置している。群北端中央から検出された平坦面と同様、北西-南東方向にやや長い梢円形状を呈しており、長径1.29m、短径1.14m、畠の確認面からの深さは最大で0.02mである。群北端中央から検出された平坦面のような外周を巡る細い溝は検出されなかった。底面にサクの痕跡が遺っており、平坦面形成前にこの場所に造られていた畠のサクの痕跡と考えられる。

遺物 なし。

所見 北側から南側に向かって緩やかに傾斜している。北西-南東方向の歓57本、サク60条の痕跡が検出されたが、全面的に上面が削平され、残存状態は悪い。とくに南端部側では削平が甚だしく、サクの痕跡すら検出出来なかつた。それ以外の部分では、歓の高さやサクの深さこそ検出出来なかつたものの、歓・サクの痕跡を確認することが出来、サクの全長を把握することが可能であった。

4群(第14~16図、PL. 2・7・8)

位置 調査区中央から西に寄った位置。3・5群のすぐ西側、6群のすぐ東側に隣接する。 $X=63348 \sim 384$ 、 Y

=-96952~978。

重複 中央部を北東-南西方向に1・2号復旧坑に振り込まれる。

主軸方位 $N-57^{\circ}-W$ 。

歓・サクの本数 歓103条、サク104条。

検出された歓の長さ 4.65~21.00m。

検出されたサクの長さ 2.00~20.98m。

検出された歓の幅 0.01~0.05m。

検出されたサクの幅 上幅0.09~0.26m、下幅0.05~0.16m。

検出された歓の高さ 0.01~0.43m。

検出されたサクの深さ 0.02~0.06m。

検出面積 406.166m²。

標高 456.87~458.50m。

平坦面 群の中央から僅かに北東寄りの位置と、中央から南西寄りの位置の2箇所から平坦面が検出された。

群の中央から僅かに北東寄りの位置、 $X=63371$ 、 $Y=-96963$ 付近から検出された平坦面は、ほぼ円形状を呈し、径1.2m、畠の確認面からの深さは0.01~0.04m前後で、外周を幅約0.2m程度の細い溝が巡っている。底面の中央から南西端にかけて長さ約0.8m、幅約0.2mの長円形状の北東-南西方向の掘り込みが認められる。

一方、群の中央から南西寄りの位置、 $X=63364$ 、 $Y=-96968$ 付近から検出された平坦面は、群の中央から検出された平坦面から南西に約7.0mの地点に位置している。北西-南東方向にやや長い梢円形状を呈しており、長径2.35m、短径2.02m、畠の確認面からの深さは最大で0.05mで、外周を幅約0.2m程度の溝が巡っている。群の中央から北東寄りの位置から検出された平坦面と同様、底面の中央から南西端寄りにかけて長さ約0.8m、幅約0.2mの長円形状の北東-南西方向の掘り込みが認められる。

両平坦面とも、外周部分に畠のサクの掘り込みが及んでいるが、畠と同時期に設置された「ハンギリオケ」を置く「コエアト」「コヤト」と称される場所に相当するものと考えられる。

遺物 なし。

所見 北側から南側に向かって緩やかに傾斜している。北西-南東方向の歓103条、サク104条が検出された。歓・サクの主軸方位は3~5群ではほぼ近似ないし共通してい

る。

中央部を1・2号復旧坑に掘り込まれ、中央から南半にかけて計3箇所に亘って大きく攪乱されている箇所が存在するなど、概して残存状態は決して良いわけではないが、1号畑各群の中では最も残存状態が良好で、歟の高さ、サクの深さが比較的しっかりと検出された箇所も見られた。ほぼ全域においてサクの全長を把握することが可能であった。

5群(第14・15図、PL. 2・7)

位置 調査区のほぼ中央に位置する。3群のすぐ西側、4群の北・東側に隣接する。X=63355～375、Y=-96943～960。

重複 なし。

歟・サクの主軸方位 N-50°～60°-W。

歟・サクの本数 歟・柵ともに38条。

検出された歟の長さ 4.10～12.40m。

検出されたサクの長さ 3.94～11.76m。

検出された歟の幅 0.10～0.36m。

検出されたサクの幅 上幅0.19～0.33m、下幅0.09～0.22m。

検出された歟の高さ 上面の削平を受け、検出不能。

検出されたサクの深さ 上面の削平を受け、検出不能。

検出面積 136.639m²。

標高 457.48～458.20m。

平坦面 検出されなかった。

遺物 なし。

所見 北側から南側に向かって緩やかに傾斜している。北西-南東方向の歟・サクが設けられていたものと推測されるが、3～18号復旧坑群に全域を掘り込まれており、復旧坑の間の僅かな隙間から歎間のサクの痕跡が検出出来、復旧坑掘削以前に、この場所に3～5群における歎・サクの主軸方位に類似した方向の歎・サクを有する畑が存在していたであろうことが推測出来る程度である。

重複 3～18号復旧坑群に掘り込まれる。

歎・サクの主軸方位 計測不能。

歎・サクの本数 算出不能。

検出された歎の長さ 計測不能。

検出されたサクの長さ 計測不能。

検出された歎の幅 計測不能。

検出されたサクの幅 計測不能。

検出された歎の高さ 上面の削平を受け、検出不能。

検出されたサクの深さ 上面の削平を受け、検出不能。

検出面積 計測不能。

標高 456.40～458.50m。

平坦面 検出されなかった。

遺物 なし。

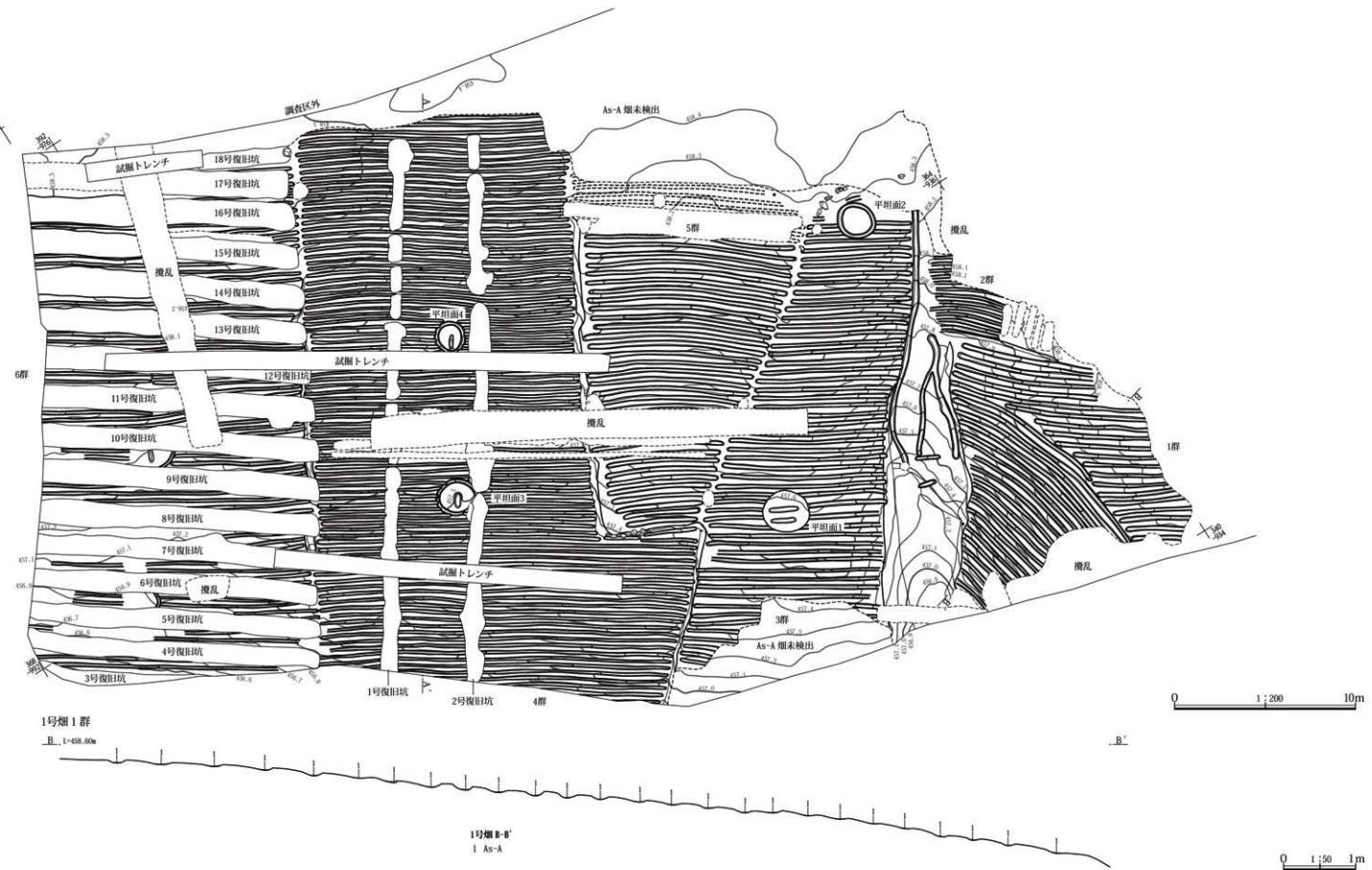
所見 北側から南側に向かって緩やかに傾斜している。北西-南東方向の歎・サクが設けられていたものと推測されるが、3～18号復旧坑群に全域を掘り込まれており、復旧坑の間の僅かな隙間から歎間のサクの痕跡が検出出来、復旧坑掘削以前に、この場所に3～5群における歎・サクの主軸方位に類似した方向の歎・サクを有する畑が存在していたであろうことが推測出来る程度である。

歎・柵の南東端はY=-96965～979ライン付近であり、西端は、3～18号復旧坑群と同様、調査区西壁外へと延びていたものと考えられる。

北端部と、中央から南寄りの位置を大きく攪乱され、全面的に上面が削平され、残存状態は悪く、歎の高さやサクの深さは検出出来なかった。しかしながら、歎・サクの痕跡を確認することが出来、検出範囲の全域に亘ってサクの全長を把握することは可能であった。

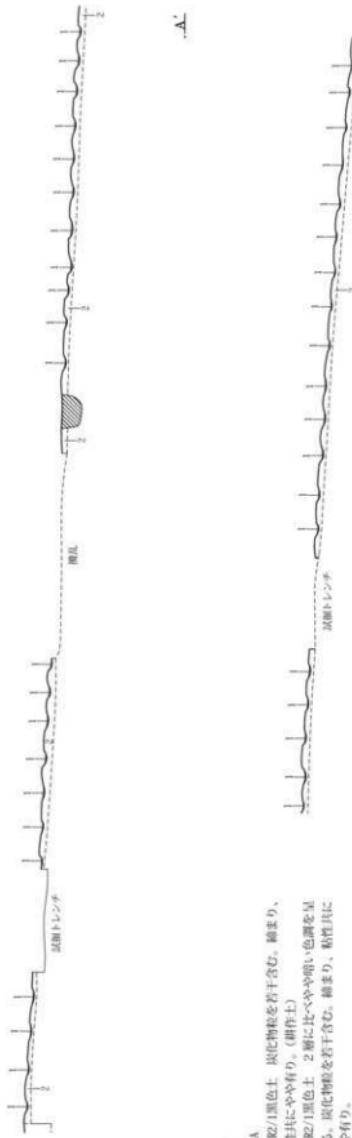
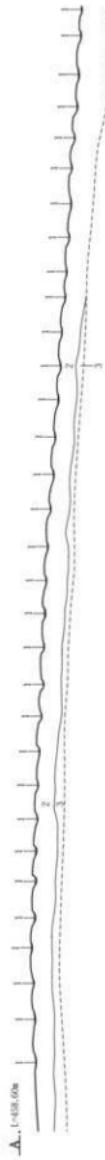
6群(第14・15図、PL. 2・7)

位置 調査区の西端寄りに位置する。4群のすぐ西側に隣接する。X=63360～390、Y=-96965～991。



第15図 1区1面1号烟

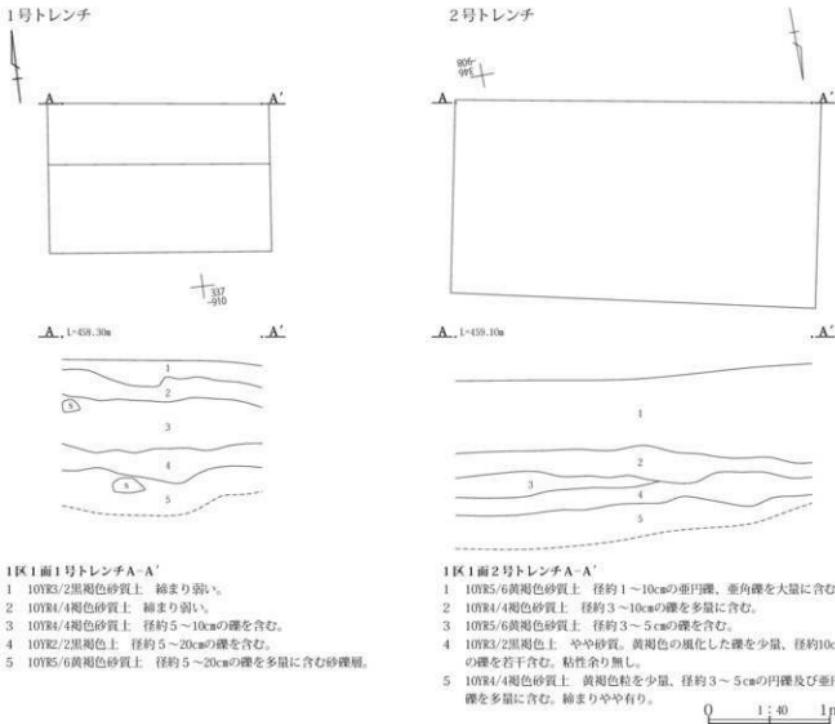
1号烟4群A-A'



1号烟

- 1 As-A
- 2 10192.1褐色土 塗化物を若干含む。縮まり、粘性土にやや有り。(耕作土)
- 3 10192.1褐色土 2層に比べやや弱い色調を呈する。塗化物を若干含む。縮まり、粘性土にやや有り。

第16図 1区1面1号烟土解断面図



第17図 1区1面1・2号トレンチ

第2節 2面から検出された遺構と遺物

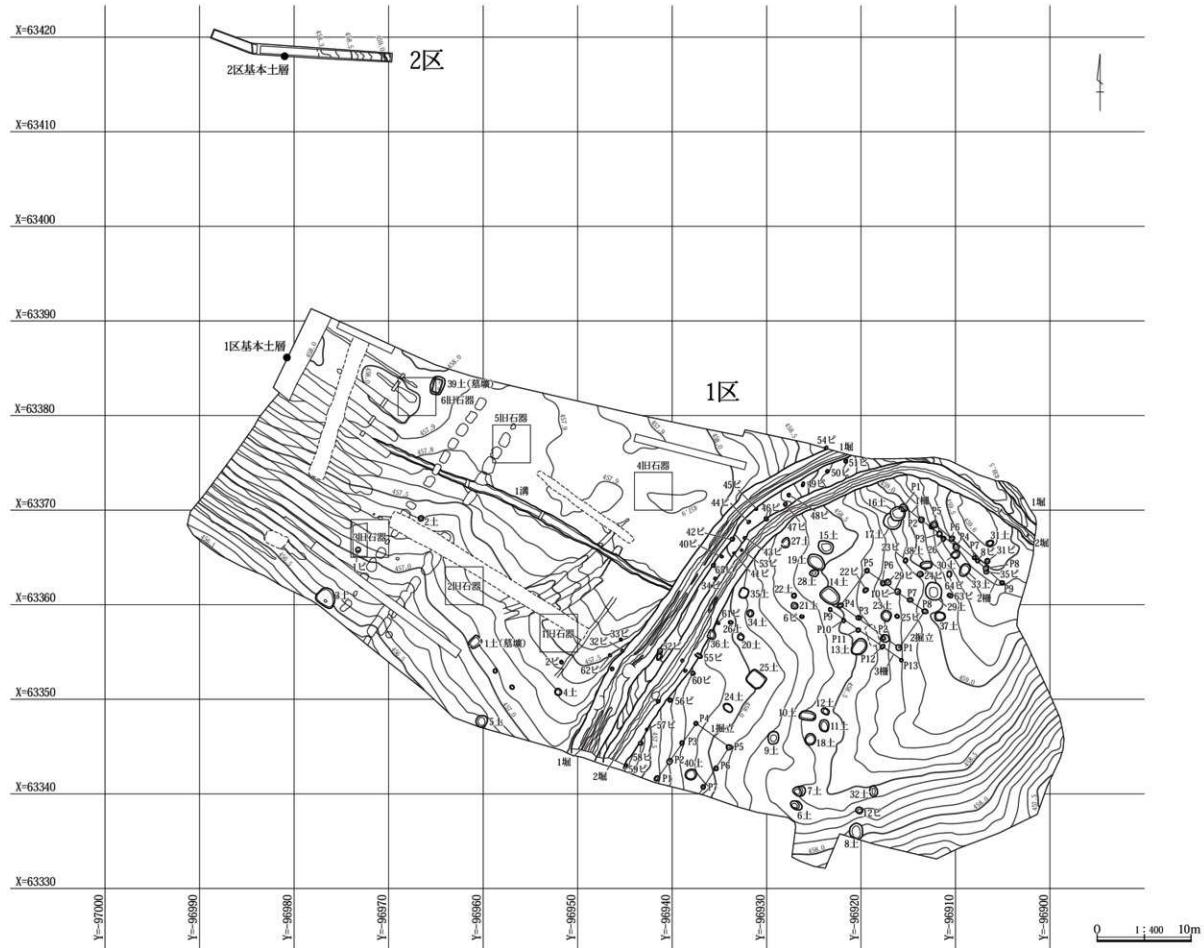
調査第2面も掘削重機を使用して掘り下げを行い、ローム漸移層上面を確認面とした。2面からは堀2条、掘立柱建物2棟、溝1条、柵3条、墓壙2基、土坑38基、ピット43基が確認された。1面では大きく攪乱され、遺構は全く検出されなかった調査区の東寄り約1/3の範囲を中心に、西側と北側とを2重の堀によって規矩状に囲繞し、東側と南側とを傾斜する自然の谷地形を利用して区画した約1500m²の区画域の中に、掘立柱建物や柵、多数の土坑、ピット等が検出された。この方形区画は、調査区の約1/2弱を占めている。

2条の堀は、Y = -96920ラインからY = -96951ライン

の間を北東-南西方向に並走しており、調査区の北端で、緩やかにカーブしてほぼ90度、南東側へ向きを変え、調査区の東端外へと延びている。両堀とも南側が深く、最も深い場所では各々約2m弱の深度であるが、北側にかけてはやや浅くなっている。埋土中より中世の五輪塔火輪部分等が出土した。

1・2号堀の西辺、北東-南西方向に走向する部分における1号堀の北半分と2号堀の南半分のそれぞれ内側に沿って、36号土坑及び34・41～51・53～61・65号ピットが列をなして検出されている。これらのピット列も、堀を補完する回繞施設の一部であった可能性が高いものと考えられる。

また、北側の堀の掘り込みが浅い箇所からは柵が2条、堀と並行するような位置において確認された。堀の内側



第18図 1・2区2面全体図

からは掘立柱建物2棟が検出された。西側と北側とを2重の堀によって、南側と東側とを自然の谷によって方形に区画された、防御的機能の高い何らかの施設が存在していたものと考えられる。

なお、検出された土坑・ピットの多くは時期不詳であるが、2条の堀とほぼ同時期頃のものと考えられる。

区域外の外側、調査区の西側約1/2強に当たる部分では、1面で復旧坑と畠が検出された調査区の西側約3/4の範囲では、近代の掘り込みや1面からの復旧坑の掘り込みで全体的に大きく攢乱されており、北西-南東方向に走向する溝1条と、墓壙2基、土坑4基、ピット6基程度の遺構しか検出されなかった。

各調査面の調査終了後、旧石器時代の確認をトレンチ調査で行った。調査は1辺4m四方のトレンチを6箇所設定し、確認調査実施したが、旧石器は確認されなかつた。

調査終了後、掘削重機及びブルドーザーを使用して埋め戻し、旧状に復した。

1. 掘立柱建物

本遺跡では2棟の掘立柱建物が検出された。いずれも2面、調査区東端部から検出された方形区画内から検出された1・2号掘立柱建物の2棟のみであった。1号掘立柱建物は調査区中央からやや東寄りの位置の南端から検出された側柱建物である。柱穴の掘り込みが70cm程もあり、深くしっかりととした柱穴を有することが特色である。2号掘立柱建物は調査区の東寄りから検出された。すぐ南側に3号柵がほぼ並行するように検出された。発掘調査段階では、この建物の廻の可能性を考えていたようであるが、建物と柱筋も全長も全く一致していないので、建物に近接した位置に設けられた柵のような遮蔽物と考えた方が良さそうである。

両建物の用途や機能について、明確にできるような痕跡及び遺物等は発見されないので、解明することは出来なかった。とくに2号掘立柱建物は、堀と方形区画の中央やや北寄り位置することや、南北両側に柵による障壁物を伴っていることから見て、堀と柵、谷によって方形に区画された施設の主屋であった可能性が考えられる。

1号掘立柱建物(第19・20・26図、PL. 9・10)

位置 I区中央から東寄りの位置の南端。調査区南壁に懸かる。X=63340~347、Y=-96933~941。

重複 40号土坑と重複するが新旧関係は不明である。

平面形状 梁間1間×桁行3間以上。

主軸方位(棟方向) N-35°-E。

規模 北東-南西方向に長い長方形状を呈する梁間1間・桁行3間以上の側柱建物。検出長軸7.20m、短軸4.51m。

柱穴 7基が検出された。

P 1：南西隅柱穴。X=63341、Y=-96941。主軸方位はN-60°-E。平面形態は北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。長径0.55m、短径0.50m、深さ0.51m。埋土は、径約3cm程度の礫を若干含み、締まりをやや有する黒褐色砂質土主体。しっかりととした掘方を有しており、断面は口がやや開いたU字形状を呈する。

P 2：西辺南から2番目柱穴。X=63343、Y=-96939・940。主軸方位はN-35°-E。平面形態は北東-南西に長い楕円形状を呈する。長径0.62m、短径0.52m、深さ0.53m。埋土は、上層に黒褐色砂質土および鈍い黄褐色土が堆積し、主体となるのは鈍い黄褐色土を約30%程度含む黒褐色土。底部に地山ローム層主体の鈍い黄褐色土が堆積する。しっかりととした掘方を有しており、断面はやや口が開いたU字形状を呈する。

P 3：西辺北から2番目柱穴。X=63345、Y=-96938・939。主軸方位はN-0°。平面形態は南北に長い不整形楕円形状を呈する。長径0.46m、短径0.37m、深さ0.48m。埋土は締まりやや有り、粘性余り無い黒褐色土主体。しっかりととした掘方を有し、断面はU字形状を呈する。

P 4：北西隅柱穴。X=63344、Y=-96937。主軸方位はN-0°。平面形態は南北に僅かに長い楕円形状を呈する。長径0.41m、短径0.40m、深さ0.46m、埋土は黄褐色粒及び炭化物粒を若干含む黒褐色土主体。しっかりととした掘方を有しており、断面はU字形状を呈する。

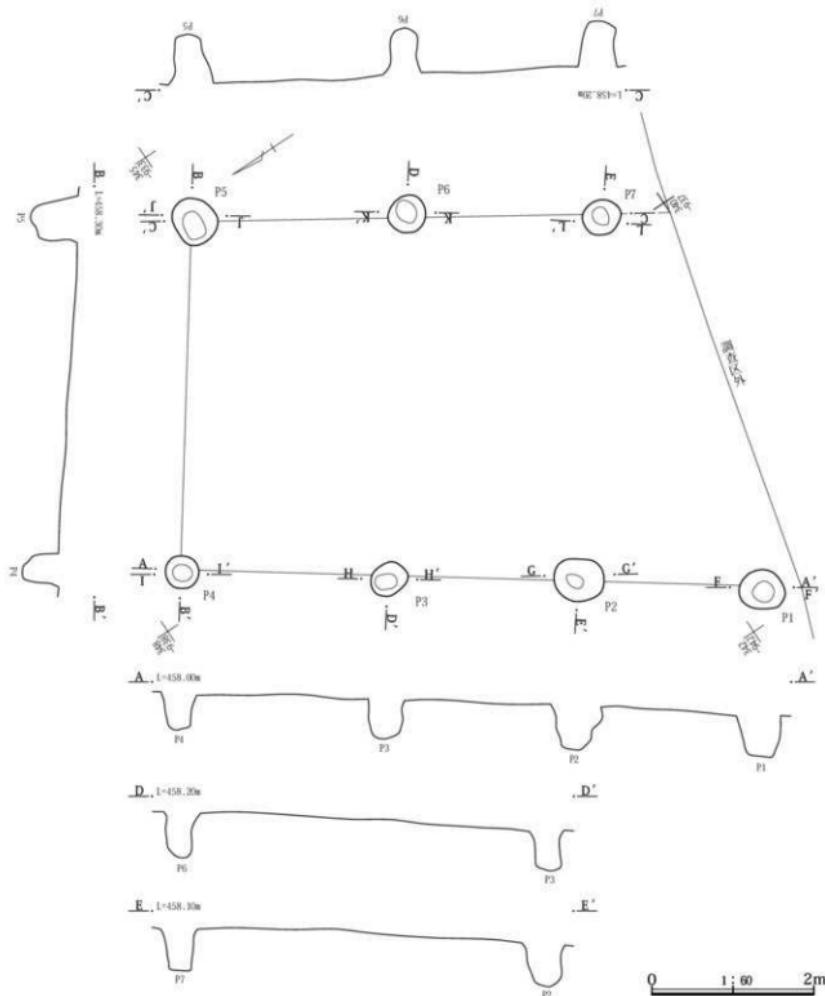
P 5：北東隅柱穴。X=6334・345、Y=-96933・934。主軸方位はN-90°。平面形態は東西に長い不整形楕円形状を呈する。長径0.58m、短径0.51m、深さ0.61m。埋土は径約3~10cm程度の礫を少量、黄褐色粒及び炭

化物粒を若干含む黒褐色土主体。しっかりとした掘方を有し、断面は上が開いたU字形状を呈する。

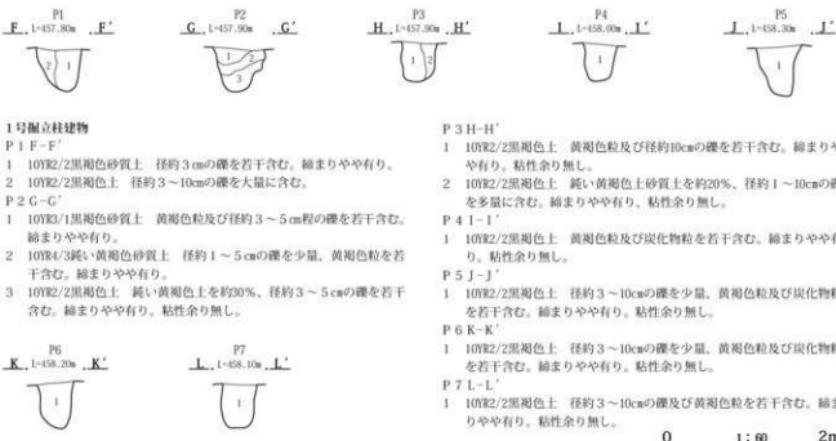
P 6 : 東辺北から 2 番目の柱穴。X = 63342、Y = -96935。主軸方位は N-31°-W。平面形態は北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。長径0.48m、短径

0.44m、深さ0.56m。埋土は径約3~10cm程度の礫を少量、黄褐色粒及び炭化物粒を若干含む黒褐色土主体。

しっかりとした掘方を有し、断面はU字形状を呈する。



第19図 1区2面1号掘立柱建物



第20図 1区2面1号掘立柱建物土層断面図

円形状を呈する。長径0.47m、短径0.42m、深さ0.53m。埋土は径約3~10cmの礫を少量、黄褐色粒及び炭化物粒を若干含む黒褐色土主体。しっかりとした掘方を有し、断面はU字形状を呈する。

桁行柱間 P 1・2間: 2.29m、P 2・3間: 2.35m、P 3・4間: 2.56m、P 5・6間: 2.65m、P 6・7間: 2.41m。

梁間柱間 P 2・7間: 4.51m、P 3・6間: 4.41m。P 4・5間: 4.29m。

遺物 なし。

所見 1区調査範囲の中央から南東寄り、2重の堀と自然の谷によって区画された範囲の南東隅付近に位置する南北棟の側柱建物で、南側は調査区皆壁外へと延びているため、全容は不明である。

桁行は約2.4m前後、梁間は約4.4m前後である。各柱穴の掘方は長径約0.5~0.6m前後の楕円形状ないし不整円形を呈し、比較的小型で、抜き取り痕なども殆ど不明である。しっかりとした掘方を呈する。

1・2号堀や2号掘立柱建物、1~3号柵、40~60号ピット等と共に防御的な機能を有したものと想定される方形区画を構成する建物の一つと考えられる。

なお、側柱建物であるため、高床式ではなく、土間に有する平地式の建物であった可能性も当然想定出来る。

その際、建物範囲のほぼ中央部から検出された、焼土を作った40号土坑が、本建物に付随した遺構であった可能性も考えられないわけではない。ただし、焼土は上層の中央部のみから検出され、土坑全体が焼けているような状態ではなかったため、1号掘立柱建物の土間に設けられたかのような施設とは考え難い。

1号掘立柱建物と40号土坑との関連性の当否については、現状では不明であると言わざるを得ない。

時期 中世のものと考えられる。

2号掘立柱建物(第21・22・26図、PL. 10・11)

位置 1区の東寄りの位置。やや北東寄り。X=63355~363、Y=-96915~922。

重複 23号土坑、10・22・25号ピットと重複するが新旧関係は不明である。北辺の西から2番目の柱穴であるP 6(30号ピット)が29号ピットを掘り込む。

平面形状 梁間1間×桁行3間。

主軸方位(棟方向) N-54°-W。

規模 北西~南東方向に長い長方形を呈する梁間1間・桁行3間の側柱建物。長軸7.68m、短軸4.74m。

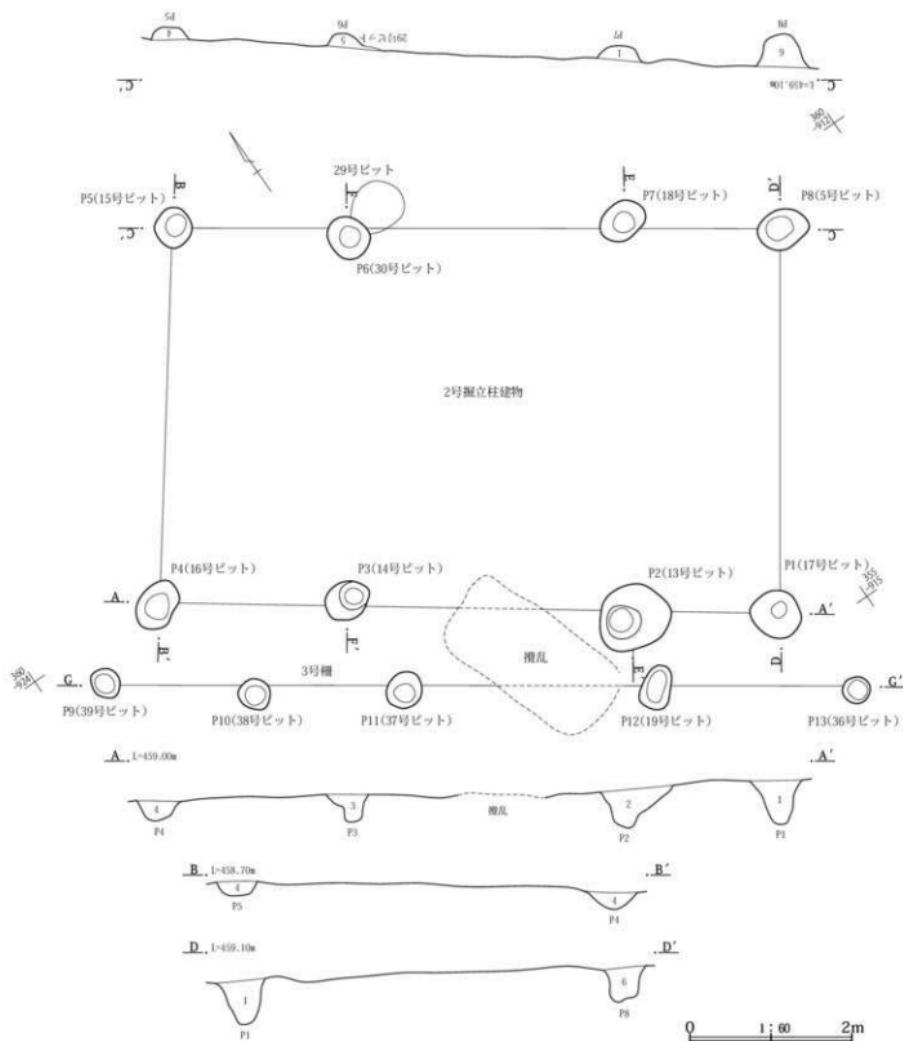
柱穴 8基が検出された。

P 1:(17号ピット) 南東隅柱穴。X=63355、Y=-96915~916。主軸方位はN-6°-W。平面形態は南北に

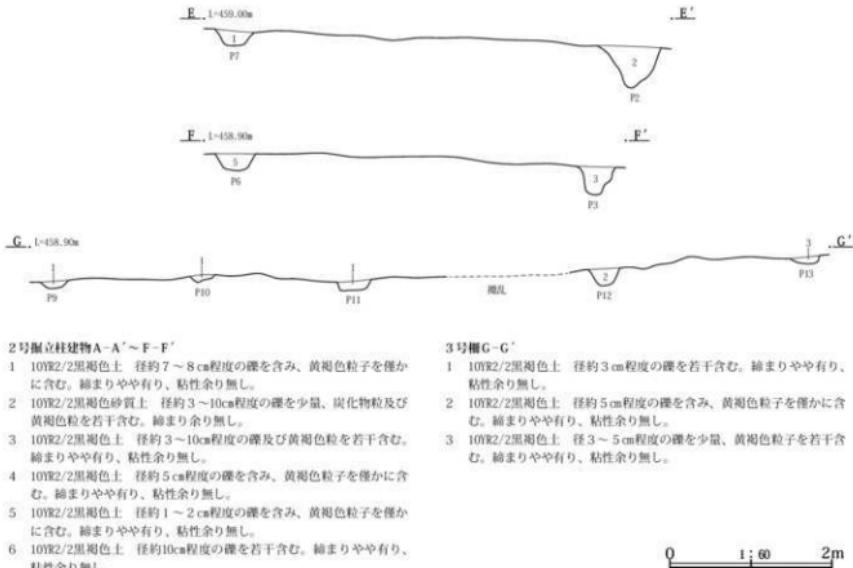
長い椭円形状を呈する。長径0.60m、短径0.57m、深さ0.55m。埋土は、径約7~8cm程度の礫を含み、黄褐色色粒を僅かに含む黒褐色土主体。しっかりとした掘方を有しており、断面は口が開いたU字形状を呈する。

P 2 : (13号ビット) 南辺の東から2番目の柱穴。

X = 63356、Y = -96917。主軸方位はN-73°-E。平面形態は北西-南東に長い不整椭円形状を呈する。長径0.89m、短径0.80m、深さ0.48m。埋土は、径約3~



第21図 1区2面2号掘立柱建物、3号櫛



第22図 1区2面2号掘立柱建物、3号櫛土層断面図

10cm程度の礫を少量、炭化物粒及び黄褐色粒を若干含む黒褐色砂質土。しっかりととした掘方を有しており、断面は口が開いた逆台形状を呈する。

P 3 : (14号ピット) 南辺の西から2番目の柱穴。
X = 63358, Y = -96920。主軸方位は N-89°-E。平面形態は東西に長い不整橿円形状を呈する。長径0.57m、短径0.46m、深さ0.34m。埋土は径約3～10cm程度の礫を含み、黄褐色粒を若干含む黒褐色土主体。しっかりととした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

P 4 : (16号ピット) 南西隅柱穴。X = 63359・360, Y = -96921・922。主軸方位は N-69°-E。平面形態は東西に長い不整橿円形状を呈する。長径0.65m、短径0.46m、深さ0.25m。埋土は径約5cm程度の礫を含み、黄褐色粒を僅かに含む黒褐色土主体。比較的しっかりととした掘方を有しており、断面は隅丸逆二等辺三角形状を呈する。

P 5 : (15号ピット) 北西隅柱穴。X = 63363, Y = -96919。主軸方位は N-38°-E。平面形態は北東-南西方向に長い橿円形状を呈する。長径0.50m、短径

0.46m、深さ0.15m。埋土は径約5cm程度の礫を含み、黄褐色粒を僅かに含む黒褐色土主体。ややしっかりととした掘方を有し、断面はやや扁平な逆台形状を呈する。

P 6 : (30号ピット) 北辺の東から2番目の柱穴。
X = 63362, Y = -96917。主軸方位は N-13°-W。平面形態は南北に長い橿円形状を呈する。長径0.54m、短径0.47m、深さ0.20m。埋土は黄褐色粒及び径約1～2cm程度の礫を僅かに含む黒褐色土主体。ややしっかりととした掘方を有し、断面はやや扁平な逆台形状を呈する。

P 7 : (18号ピット) 北辺の東から2番目の柱穴。
X = 63360, Y = -96914・915。主軸方位は N-86°-E。平面形態は東西に長い橿円形状を呈する。長径0.69m、短径0.48m、深さ0.19m。埋土は径約7～8cm程度の礫を含み、黄褐色粒を僅かに含む黒褐色土主体。ややしっかりととした掘方を有し、断面はやや扁平な逆台形状を呈する。

P 8 : (5号ピット) 北東隅柱穴。X = 63359, Y = -96912・913。主軸方位は N-88°-E。平面形態は東西に長い橿円形状を呈する。長径0.60m、短径0.48m、

第3章 発見された遺構と遺物

深さ0.41m。埋土は径約10cm程度の礫を若干含む黒褐色土主体。しっかりとした掘方を有し、断面は底面が狭く深い逆台形状を呈する。

桁行柱間 P 1・2間: 1.83m、P 2・3間: 3.52m、P 3・4間: 2.33m、P 5・6間: 2.18m、P 6・7間: 1.92m。

梁間柱間 P 2・8間: 4.74m、P 2・7間: 4.70m、P 3・6間: 4.65m、P 4・5間: 4.62m。

遺物 なし。

所見 1区調査範囲の東寄り、2重の堀と自然の谷によって区画された範囲の中央や北寄りに位置する東西棟の側柱建物である。北側約8mの位置には本建物とほぼ主軸方位を同じくする1・2号柵が本建物の北側の障壁として設けられ、また、南側には約1mの至近距離に、本建物と主軸方位をほぼ同じくする3号柵が設けられている。簡素な構造の側柱建物ではあるが、位置と規模からみて、2重堀と自然の谷によって形成された方形区画における主屋的な建物であったものと考えられる。

桁行は約2.4m前後、梁間は約4.4m前後で、1号掘立柱建物の規模とほぼ合致し、主軸方位をほぼ90°異にしているところから、両建物が同時併存していたものと推測出来る。

各柱穴の掘方は長径約0.5m前後の橢円形形状ないし不整円形状を呈し、比較的小型で、抜き取り痕なども殆ど不明であるが、しっかりとした掘方を呈している。

時期 中世のものと考えられる。

2. 柵

本遺跡では3条の柵が検出された。いずれも2面からで、調査区の東寄りから検出された2重の堀と自然の谷によって方形に区画された施設内の2号掘立柱建物の周辺から検出されたものである。

北側と西側を2重の堀によって、東側と南側とを自然の谷によって方形に区画された防御的機能が色濃い施設の主屋と考えられる2号掘立柱建物の約8m北側、内堀と2号掘立柱建物との間の位置に1・2号柵が、2号掘立柱建物のすぐ南側約1mの至近の位置に3号柵が、それぞれ北西-南東方向に設けられている。

なお、1号柵の南東側と、2号柵の北西側とは、南北に至近距離にあるため、同時併存とは考えにくいので、

どちらかが建て替えられたものである可能性が考えられる。ただし、どちらかの柵がどちらかの柵を建て替えたものであるならば、ほぼ同じような位置に建て替えられるのが自然なのであろうが、1号柵の南東側約半分と2号柵の北西側約半分が、約3.8mに亘って南北に並行しているものの、主体的な位置は1号柵が北西側寄り、2号柵が南東側寄りと、微妙に位置を異にして設置されているため、疑問が残らないでもない。しかしながら1号柵と2号柵には遺構の切り合い関係がなく、両柵の新旧関係は明らかにし難い。

いずれにしても、位置的に見て、両柵とも2号掘立柱建物にかかる北側の障壁として機能していたものと見るのが自然であり、2号掘立柱建物は、南北両側が柵によって厳重に囲まれていた様子が看取出来る。この点も2号掘立柱建物を区画施設内の主屋を見る上での根拠となり得よう。

なお、先述したように、1・2号堀の西側部分、即ち北東-南西方向に走向する部分における1号堀の北半分と2号堀の南半分のそれぞれ内側に沿って、36号土坑及び34・41～51・53～61・65号ピットが列をなして検出されている。1・2号堀の間の部分、即ち1号堀西辺北半内側の縁と2号堀西辺北半の外側の縁から検出された34・40～51・53・65号の15基のピット、2号堀の西辺南半の内側から検出された36号土坑と55～61号の7基のピットが、堀を補完する囲繞施設の一部であった可能性が高いものと考えられる。但し、柵と仮定すると柱筋が通らず、柱間もまちまちであり、前後左右に雁行しているような箇所もあって、ランダムな状態である。また、北寄りの位置では1号堀と2号堀の間、南寄りの位置では2号堀の内側と、統一感もなく、中途半端な印象を受ける。ゆえに、1～3号柵のようしならかにした構造物ではなく、杭列のようなものであった可能性が高いので、柵としてではなく、個々のピットとして報告することにした。

1号柵(第23・26図、PL. 12・13)

位置 1区の北東寄りの位置。やや北東寄り。2号柵のすぐ南側に近接する。X=63365～370、Y=-96909～916。

重複 北西端柱穴P 1が23号土坑に掘り込まれる。20・

26号ピットと重複するが新旧関係は不明である。

平面形状 北西-南東方向3間。

主軸方位 N-53°-W。

規模 全長6.97m。

柱穴 4基が検出された。

P 1 : (11号ピット)北西隅柱穴。X=63369・370、Y=-96916。主軸方位はN-55°-W。平面形態は北西-南東方向に長い不整橢円形状を呈する。長径0.83m、短径0.77m、深さ0.28m。埋土は、径約3~10cm程度の礫を少量及び黄褐色粒を若干含む黒褐色土主体。ややしっかりとした掘方を有しており、断面はやや扁平な逆台形状を呈する。

P 2 : (7号ピット)北西隅から南東側へ2番目の柱穴。X=63368・369、Y=-96913。主軸方位はN-35°-E。平面形態は北東-南西方向にやや長い隅丸長方形状を呈する。長径0.56m、短径0.54m、深さ0.33m。埋土は、径約3~10cm程度の礫を若干含む黒褐色土主体。しっかりとした掘方を有しており、断面はやや口が開いた逆台形状を呈する。

P 3 : (4号ピット)南東隅から北西側へ2番目の柱穴。X=63367、Y=-96911。主軸方位はN-1°-E。平面形態は南北に長い橢円形状を呈する。長径0.59m、短径0.53m、深さ0.35m。埋土は径約3~10cm程度の礫を少量及び黄褐色粒を若干含む黒褐色土主体。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

P 4 : (3号ピット)南東隅柱穴。X=63365・366、Y=-96909・910。主軸方位はN-13°-E。平面形態は北西-南東方向に長い不整隅丸長方形状を呈する。径0.63m、深さ0.35m。埋土は径約10cm程度の礫を若干含む黒褐色土主体。しっかりとした掘方を有しており、断面は隅丸直角三角形状を呈する。

柱間 P 1・2間: 2.32m、P 2・3間: 2.43m、P 3・4間: 2.23m。

遺物 なし。

所見 1区調査範囲の東寄り、2重の堀と自然の谷によって区画された範囲の北寄り、北西-南東方向の2重の堀の内堀である2号堀の南西側約5mに位置する。南側に位置する2号掘立柱建物とは約7.5mの距離を置く。

主軸方位は2号掘立柱建物、その南側に近接する3号柵とほぼ近似している。2・3号柵と共に2号掘立柱建

物の障壁として設けられたものと考えられる。

各柱穴の掘方は長径約0.6m前後の橢円形ないし隅丸方形状で、比較的小型であり、柱の抜き取り痕なども殆ど不明であるが、しっかりとした掘方を呈している。

時期 中世のものと考えられる。

2号柵(第23・26図、PL. 12・13)

位置 1区の北東寄りの位置。やや北東寄り。1号柵のすぐ北側に近接する。X=63362~368、Y=-96904~912。

重複 北西端柱穴P 5が20b号ピットを掘り込む。また、南東隅柱穴P 8が35号ピットを掘り込む。8号ピットと重複するが新旧関係は不明である。

平面形状 北西-南東方向4間。

主軸方位 N-48°-W。

規模 全長9.52m。

柱穴 5基が検出された。

P 5 : (20号ピット)北西隅柱穴。X=63368、Y=-96911・912。主軸方位はN-0°。平面形態は南北にやや長い隅丸長方形状を呈する。長径0.67m、短径0.64m、深さ0.45m。埋土は、径約1~2cm程度の礫及び黄褐色粒子を僅かに含む黒褐色土主体。しっかりとした掘方を有しており、断面は深い逆台形状を呈する。

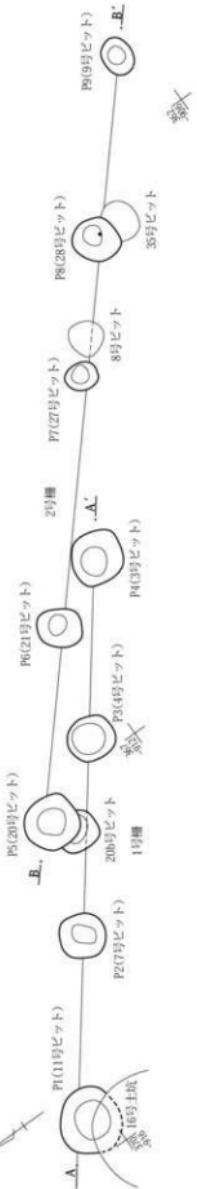
P 6 : (21号ピット)北西隅から南東側へ2番目の柱穴。X=63366・367、Y=-96910。主軸方位はN-39°-E。平面形態は南北に長い隅丸長方形状を呈する。長径0.54m、短径0.46m、深さ0.53m。埋土は、径約1~2cm程度の礫を含み、黄褐色粒を僅かに含む黒褐色土主体。しっかりとした掘方を有しており、断面はやや口が開いた深いU字形状を呈する。

P 7 : (27号ピット)中央柱穴。X=63364・365、Y=-96907・908。主軸方位はN-12°-E。平面形態は南北に長い橢円形状を呈する。長径0.41m、短径0.34m、深さ0.22m。埋土は径約1~2cm程度の礫及び黄褐色粒を僅かに含む黒褐色土主体。しっかりとした掘方を有し、断面は逆半円形状を呈する。

P 8 : (28号ピット)南東隅から北西側に2番目の柱穴。X=63363・364、Y=-96906・907。主軸方位はN-44°-E。平面形態は北東-南西方向に長い橢円形状を呈する。長径0.61m、短径0.53m、深さ0.53m。埋土

1・2号柵

48

A, 1=40.0m
B, 1=30.0m

1号柵

A'

1号柵-A'

- 1 10RE/2強褐色土 程約3～10cm程度の礫を少量、黄褐色粒子を若干含む。細まりやや有り、粘性余り無し。
2 10RE/2強褐色土 程約3～10cm程度の礫を若干含む。細まりやや有り、粘性余り無し。
3 10RE/2強褐色土 程約10mm程度の礫を若干含む。細まりやや有り、粘性余り無し。



2号柵-B'

- 1 10RE/2強褐色土 程約1～2cm程度の礫及び黄褐色粒子を僅かに含む。細まりやや有り、粘性余り無し。
2 10RE/2強褐色土 程約1～2cm程度の礫を含み、黄褐色粒子を僅かに含む。細まりやや有り、粘性余り無し。
3 10RE/2強褐色土 程約3～5cm程度の礫を少量、黄褐色粒子を若干含む。細まりやや有り、粘性余り無し。

0 1:60 2m

は径約1~2cm程度の礫及び黄褐色粒子を僅かに含む黒褐色土主体。しっかりととした掘方を有しており、断面は深い隅丸逆三角形状を呈する。

P 9:(9号ピット)南東隅柱穴。X=63362、Y=-96904・905。主軸方位はN-88°-W。平面形態は東西に長い梢円形状を呈する。長径0.48m、短径0.37m、深さ0.23m。埋土は径約3~5cm程度の礫を少量、黄褐色粒子を若干含む黒褐色土主体。しっかりととした掘方を有しており、断面は逆台形状を呈する。

柱間 P 5・6間: 2.42m、P 6・7間: 3.13m、P 7・8間: 1.69m、P 8・9間: 2.22m。

遺物 なし。

所見 1号柵と同様、1区調査範囲の東寄り、2重の堀と自然の谷によって区画された範囲の北寄り、北西-南東方向の2重の堀の内堀である2号柵の南西側約5mに位置する。南側に位置する2号掘立柱建物とは1号柵と同様、約7.5mの距離を置く。主軸方位は2号掘立柱建物、その南側に近接する3号柵、本柵の南西側に近接する1号柵等に比べて、若干、南側に傾いているが、ほぼ近似していると言つて良い。1・3号柵と共に2号掘立柱建物の障壁として設けられたものと考えられる。先述したように、本柵の北西側約半分の部分が、1号柵の南東側約半分の部分の北側にあまりにも近接しているため、本柵が1号柵と同時併存したとは考えにくく思われる。

各柱穴の掘方は長径約0.4~0.5m前後の梢円形ないし隅丸方形で、1号柵に比べてもさらに小型であり、また、柱間も1号柵に比べてはらつきが大きく、粗雑な印象を受ける。さらに、柱の抜き取り痕なども殆ど不明であるが、しっかりととした掘方を呈している。

なお、北西隅柱穴P 5が20b号ピットを掘り込んでいること、南東側から北西に向かって2番目に位置する柱穴であるP 8が35号ピットを掘り込んでいること、さらに、中央柱穴P 7の南東側に8号ピットが近接していることなどの点から、恰も、同位置における建て替えが為された可能性があるよう感じられなくもないが、柱筋が通らないことや、柱の間隔が不揃いであり過ぎることなどから、2号柵としての同一箇所における建て替えはなかったものと判断した。

時期 中世のものと考えられる。

3号柵(第21・22・26図、PL. 10・12)

位置 1区の東寄りの中央付近。2号掘立柱建物のすぐ南側に近接する。X=63353~359、Y=-96915~923。

重複 なし。

平面形状 北西-南東方向4間。

主軸方位 N-55°-W。

規模 全長9.30m。

柱穴 5基が検出された。

P 9:(39号ピット)北西隅柱穴。X=63359、Y=-96923。主軸方位はN-10°-W。平面形態は南北にやや長い梢円形状を呈する。長径0.39m、短径0.33m、深さ0.07m。埋土は、径約3cm程度の礫を若干含む黒褐色土主体。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

P 10:(38号ピット)北西隅から南東側へ2番目の柱穴。X=63358、Y=-96921・922。主軸方位はN-43°-W。平面形態は北西-南東方向にやや長い梢円形状を呈する。長径0.39m、短径0.36m、深さ0.07m。埋土は、径約3cm程度の礫を若干含む黒褐色土主体。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

P 11:(37号ピット)中央柱穴。X=63357、Y=-96920。主軸方位はN-12°-E。平面形態は南北に長い梢円形状を呈する。長径0.44m、短径0.43m、深さ0.08m。埋土は径約3cm程度の礫を若干含む黒褐色土主体。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

P 12:(19号ピット)南東隅から北西側に2番目の柱穴。X=63355、Y=-96917・918。主軸方位はN-51°-E。平面形態は北東-南西方向に長い梢円形状を呈する。長径0.54m、短径0.38m、深さ0.20m。埋土は径約5cm程度の礫及び黄褐色粒子を僅かに含む黒褐色土主体。しっかりととした掘方を有しており、断面は逆台形状を呈する。

P 13:(9号ピット)南東隅柱穴。X=63353・354、Y=-96915。主軸方位はN-88°-W。平面形態は東西に長い梢円形状を呈する。長径0.33m、短径0.22m、深さ0.06m。埋土は径約3~5cm程度の礫を少量、黄褐色粒子を若干含む黒褐色土主体。しっかりととした掘方を有しており、断面は逆台形状を呈する。

柱間 P 9・10間: 1.85m、P 10・11間: 1.86m、

P 11・12間: 3.10m、P 12・13間: 2.49m。

第3章 発見された遺構と遺物

遺物 なし。

所見 2号掘立柱建物南辺のすぐ南側、約1mの至近距離に、2号掘立柱建物と主軸をほぼ同じくして、北西-南東方向に延びている。

2号掘立柱建物の南辺よりも、北西側、南東側ともそれぞれ約0.5m程度外側に張り出している。

発掘調査時には2号掘立柱建物の南側廂と想定されていたようであるが、2号掘立柱建物の南辺と、長さも柱の位置も描っていないので、2号掘立柱建物のすぐ南側を遮蔽する障壁と考えた方が良いように思われる。

北西隅から南東側に3番目の柱穴であるP11と、南東隅から北西側に2番目の柱穴であるP12との間は搅乱されており、P9~11の柱間の長さから見るならば、この間にもう1基の柱穴が存在していた可能性が想定出来、元来は5間であった可能性も捨てきれない。ただし、そのように仮定したとしても、南東端のP12・13間の柱間のみが、他に比べて長いという点に疑問が遺る。

時期 中世のものと考えられる。

3. 堀

本遺跡2面では2条の堀が検出された。先述した通り、南北両側を柵によって画された東西棟の掘立柱建物及びその南北側に位置する南北棟の掘立柱建物等から構成される何らかの施設の西側と北側とを矩形に区画する2重の堀である。先述したように、この施設の南側と東側とは自然の谷によって画され、全体が方形に区画されている。堅固な区画であり、防御的機能の高い何らかの施設であったことが想像出来る。

1・2号堀(第24~26図、PL.14~16・36)

位置 1区の中央から東寄りの位置から北東寄りにかけて。X=61343~376、Y=-94901~950。

重複 1号溝が1号堀西辺のほぼ中央で北西側から合流する。1号堀の西及び北西縁には32・54号ピットが掘り込む。1号堀の東縁には42・45・52・65号ピットが掘り込む。2号堀の西及び北西縁には34・41・43・46号ピットが掘り込む。東縁には36号土坑と55・57~59・61号ピットが掘り込む。

1号堀主軸方位 西辺ではN-32°~61°-E。北辺ではN-36°-W。

2号堀主軸方位 西辺ではN-32°~64°-E。北辺ではN-55°~82°-W。

1号堀規模 西辺全長42.38m、北東隅部全長6.06m、上幅1.52~3.28m、下幅0.18~0.53m、深さ0.55~1.79m。

2号堀規模 全長61.87m、上幅0.64~2.64m、下幅0.12~0.58m、深さ0.22~1.92m。

埋土 黒褐色土ベースで、底部に褐色砂礫層が堆積している。

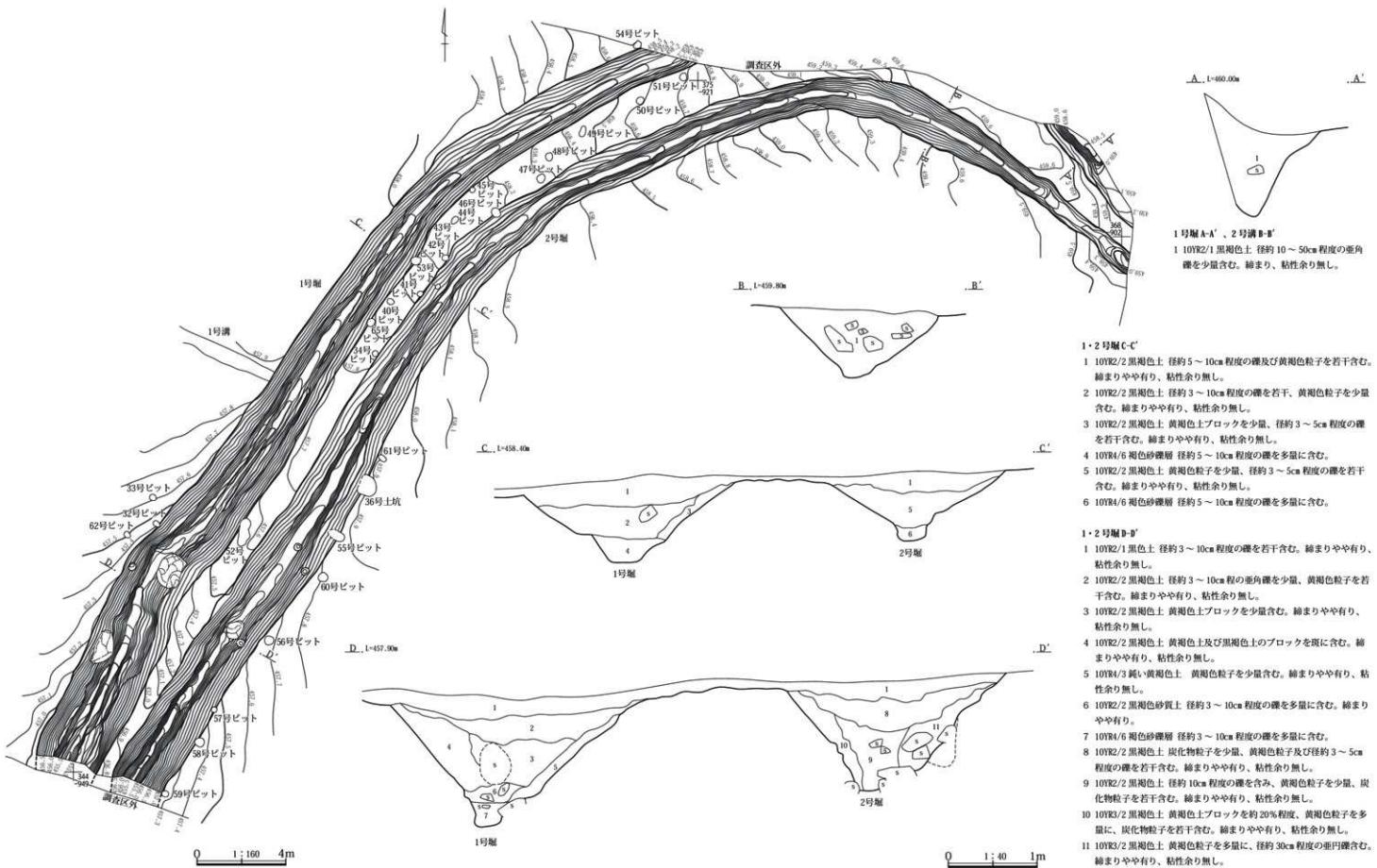
遺物 埋土中より五輪塔火輪1点が出土(1)。詳細は遺物観察表を参照されたい。

所見 2条の堀はY=-96920~951ラインの間を北東-南西方向に並走し、調査区の北端付近で緩やかにカーブしてほぼ90度、南東側へと向きを変えY=-96900~915の間は北西-南東方向に走向し、調査区の東壁外へと延びている。

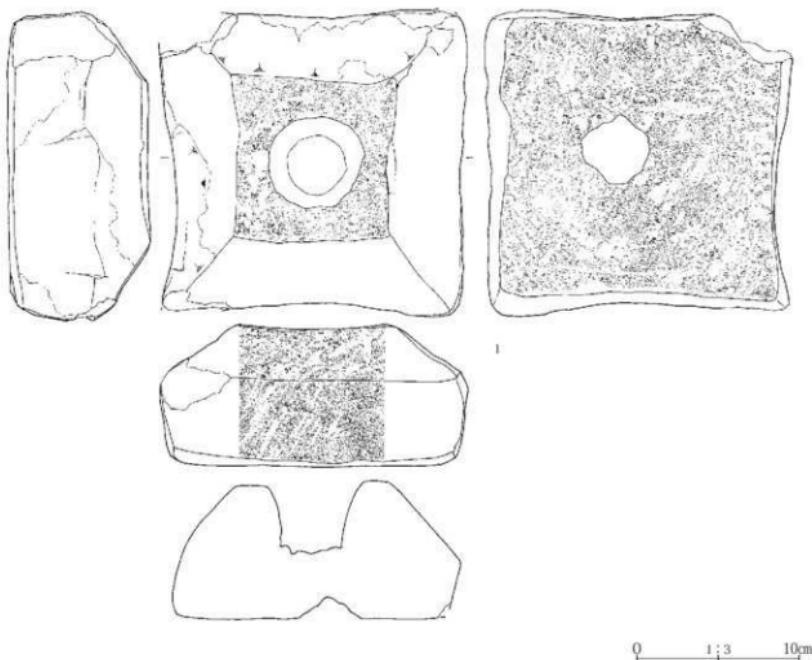
深さは南側が最も深く、両堀とも最深部で確認面から約2m弱であるが、北側にかけてはやや浅くなっている。堀岸の標高は456.77m~459.61m、底面の標高は、1号堀北端部で458.05m、南端部で455.17m、比高差は2.88mとなり、2号堀北東端部で459.24m、南端部で455.31m、比高差は3.93mとなる。しっかりとした掘方で、断面は深い漏斗状を呈している。

底部に砂礫層が堆積していたことや、埋土に鉄分の沈着が認められた箇所などもあることから、地形に則して、北側から南側への水流があったことが判明する。

なお、先述したように、1・2号堀の西側部分、即ち北東-南西方向に走向する部分における1号堀の北半分と2号堀の南半分のそれぞれ内側に沿って、36号土坑及び34・41~51・53~61・65号ピットが列をなして検出された。1・2号堀の間の部分、即ち1号堀西辺北半内側の縁と2号堀西辺北半の外側の縁から検出された34・40~51・53・65号の15基のピットと、2号堀の西辺南半の内側から検出された36号土坑と55~61号の7基のピットである。これらの土坑・ピット群は、堀を補完する圍繞施設の一部であった可能性が高いものと考えられる。但し、柵と仮定するならば、柱筋が通らず、柱間もまちまちであり、前後左右に雁行しているような箇所もあって、ランダムな状態である。また、北寄りの位置では1号堀と2号堀の間、南寄りの位置では2号堀の内側と、全体



第24図 1区2面1・2号堤



第25図 1区2面1号堀出土遺物

的な統一感もなく、 $Y = -96900 \sim -915$ の北西-南東方向に走向する北辺部分では全く見当たらないなど中途半端な印象を受ける。故に1~3号柵のようなしっかりとした構造物ではなく、杭列のようなものであった可能性が高いものと思われる。

時期 中世のものと考えられる。

4. 溝

本遺跡で検出された溝は、1区の東側約1/2弱を占める方形区画の西外側から北西-南東方向の溝が1条検出されたのみであった。

1号溝(第27図、PL. 16)

位置 1区の中央部を北西から南東に。 $X = 61361 \sim 377$, $Y = -96940 \sim -971$ 。

重複 東端が1号堀西辺のはば中央に合流する。西端は

1面13号復旧坑に掘り込まれ破壊されている。

主軸方位 $N-61^\circ \sim 65^\circ-W$ 。

規模 検出全長17.13m、上幅0.33~0.67m、下幅0.11~0.40m、深さ0.04~0.17m。

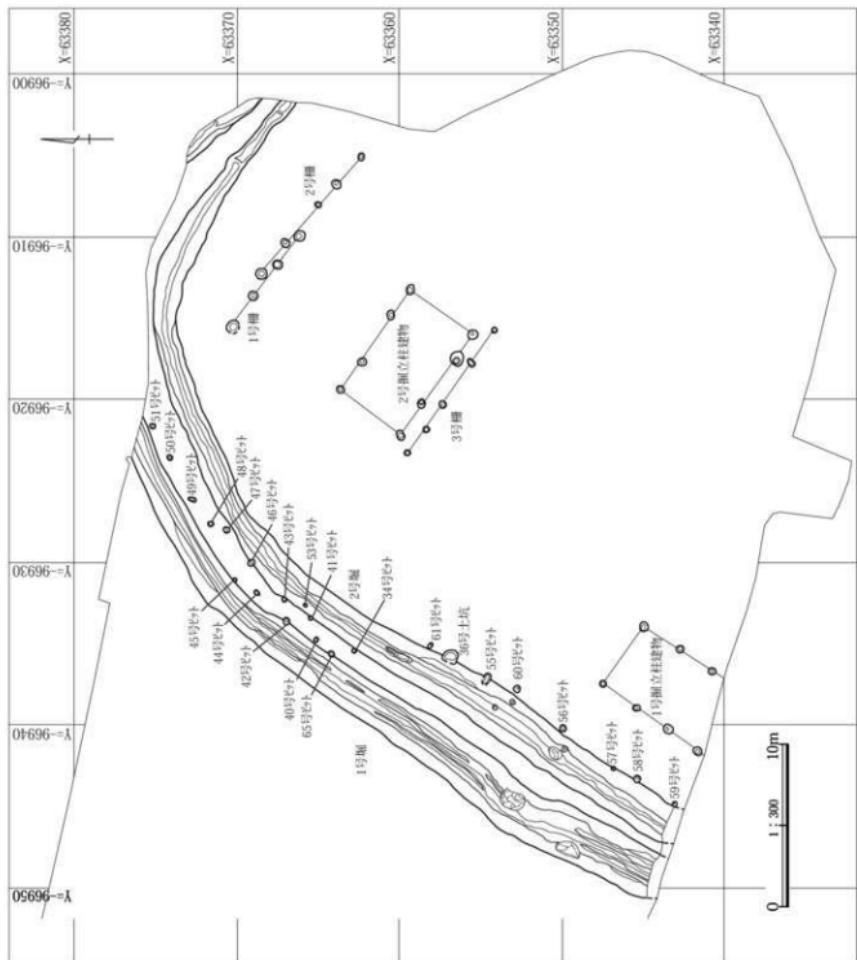
埋土 暗褐色土ブロックを約10%程度、径約1cm程度の礫を若干含む黒褐色土主体。

遺物 なし。

所見 1区の中央部を北西-南東方向に走向する。東端が1号堀と接するが、1号堀の東側、2号堀との中間の部分では検出されていないので、1区東側約半分の範囲から検出された方形区画を構成する1・2号堀。1・2号掘立柱建物、1~3号柵等の遺構と同時併存であると判断した。

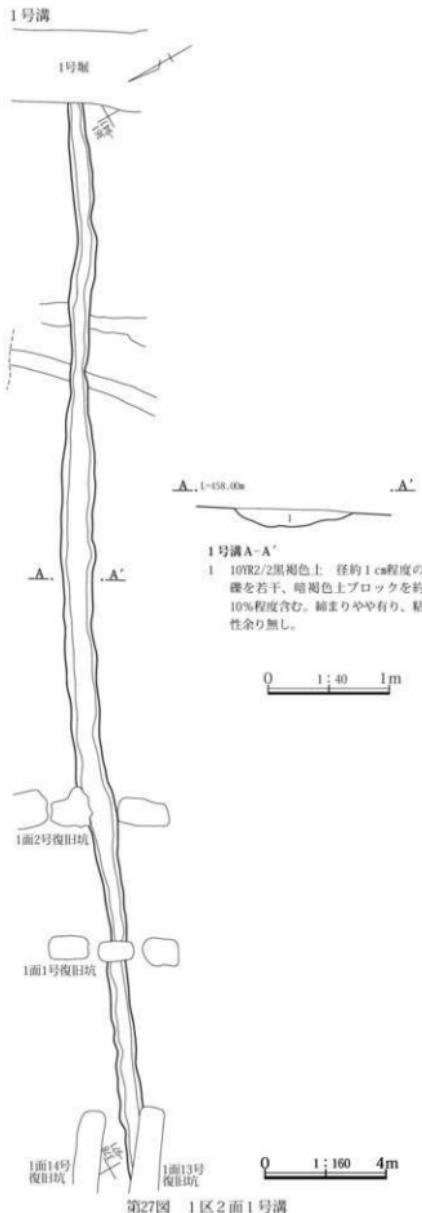
掘方は浅く、断面は扁平な逆レンズ状を呈している。

溝底の標高は457.65~84mで、西寄りの部分で最も低く、概して東端付近の方が高くなっているが、検出範囲



第26図 1 [×2面方形区画]遺構分布図

第2節 2面から検出された遺構と遺物



第27図 1区2面1号溝

内においては、必ずしも西側程紙くなっている訳ではなく、溝底の傾斜は殆どないと言つて良い。また、埋土からは水流の顯著な痕跡も認められない。水路などではなく、土地を画するための溝であった可能性も考えられる。

時期 中世のものと考えられる。

5. 墓塙

本遺跡では2基の墓塙が検出された。1号土坑と39号土坑で、39号土坑は、人骨や遺物の出土はなかったが、焼土や炭化物の出土及び壁面が良く焼けて焼土化していることから火葬坑の可能性が考えられるので、墓塙と考えた。

1号土坑は寛永通宝の出土から天明3年以前の近世のものと考えられるが、39号土坑の方は時期不明である。

1号土坑(第28図、PL. 16・17・36)

位置 1区の中央から南西寄り。X=63355・356、Y=-96960・961。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向に長い闊丸長方形を呈する。

主軸方位 N-45°-E。

規模 全長1.34m、上幅1.05m、下幅0.68m、深さ0.48m。

埋土 上面に大量の礫を含み、黄褐色土ブロックと炭化物粒を若干含む黒褐色土。

遺物 下層より1人分の人骨と寛永通宝が4点出土。寛永通宝はいずれも古寛永であり、径約2.4cm、厚さ0.12cm前後である。なお、古寛永とは、一般的に、寛永13(1636)年創鑄で、万治2(1659)年までの間に鑄造されたものを指して言う。

1は底面より1.7cm上から出土。2は底面より2.4cm上から出土。3は底面より18.9cm上から出土。4は底面より1.4cm上から出土。

各遺物の詳細は遺物観察表を参照されたい。

所見 人骨と寛永通宝が出土しているので、墓塙であることは間違いない。上面には川原石大の礫が何層にも重なねて埋葬している。調査区東側で検出された方形区画とは時期が異なると考えられ、関連ないものと見られる。

時期 近世(天明3(1783)年以前)のものと考えられる。

39号土坑(第28図、PL. 17)

位置 1区の北西寄り。X=63382~384、Y=-96964~

965。

重複 なし。

平面形状 南北に長い闊丸長方形を呈する。

主軸方位 N-16° E。

規模 全長1.95m、上幅1.78m、下幅0.78m、深さ1.03m。

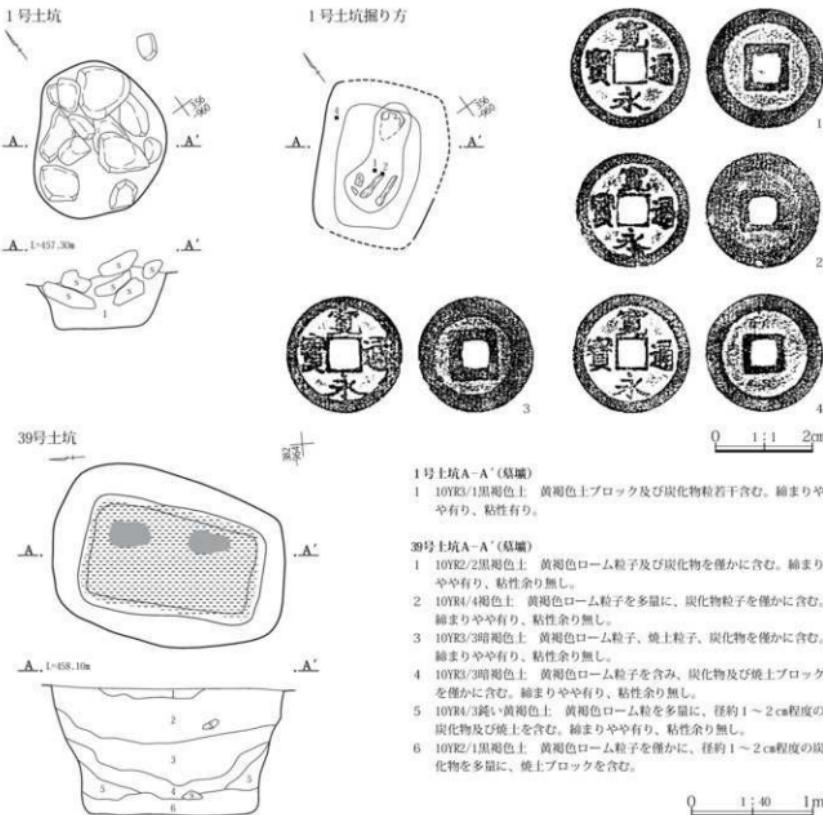
埋土 表層に黄褐色ローム粒子と炭化物粒子を僅かに含む黒褐色土が部分的に堆積、上層に黄褐色ローム粒子を多く、炭化物粒を僅かに含む褐色土、中層に黄褐色ローム粒、炭化物ブロック・粒、焼土ブロック・粒などを含む暗褐色土、下層に炭化物を多く、焼土ブロックを含み、黄褐色ローム粒子を僅かに含む黒褐色土。

遺物 なし。

所見 闊丸長方形を呈し、恰も陥れ穴のような深くしっかりとした、断面が大型の逆台形状の掘方を有する土坑である。南北の短壁面周辺を中心、壁面が底面より約30~40cm程度上の部分まで良く焼け、焼土化していた。埋土中に炭化物や焼土を含み、一面に炭化物が恰も敷き詰められたような状態で検出された。

先述した通り、人骨や遺物の出土はなかったが、火葬坑である可能性が考えられ、墓壙として報告する。

時期 不明。



第28図 1区2面1・39号土坑、1号土坑出土遺物

6. 土坑

本遺跡では、前記2基の墓壙を除くと38基の土坑が検出された。2重の壙と自然の谷によって画された中世の方形区画の西の外側からは2~5号の4基が、方形区画内からは6~38・40号の34基が検出された。但し、年代決定の根拠となるような遺物の出土ではなく、方形区画内から検出された34基の土坑が、方形区画に関わる機能を有していたのか否かについては明らかにし難い。

検出された土坑は、いずれも梢円形ないし長円形形状を呈し、大きさも主軸方位もまちまちで一定ではない。唯一、1区の中央からやや南東寄りの位置、方形区画内から検出された25号土坑のみが圓丸形形状を呈している。

先述した通り、これらの土坑からは年代を明確に示すような遺物などの出土ではなく、年代についても、天明泥流層の下から検出されたということで、天明3(1783)年以前としか言えない。

2号土坑(第29図、PL. 17)

位置 1区の西寄り、中央。X=63368・369、Y=-96966。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向に長い梢円形形状を呈する。

主軸方位 N-26°-E。

規模 全長0.59m、上幅0.50m、下幅0.29m、深さ0.14m。

埋土 黄褐色土ブロックを約20%程度、炭化物粒を若干含む黒褐色土。

遺物 なし。

所見 小型の土坑で、浅く、断面は扁平なレンズ状を呈する。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

3号土坑(第29図、PL. 17)

位置 1区の西南寄り、南壁際。X=63359~361、Y=-96975~977。

重複 なし。

平面形状 南北に長い不整梢円形形状を呈する。

主軸方位 N-53°-W。

規模 全長2.09m、上幅1.87m、下幅1.63m、深さ0.36m。

埋土 表層に炭化物粒及び同ブロックを含む黒褐色土が

堆積し、主体となるのは黄褐色土ブロック及び炭化物粒を含む鈍い黄褐色土。

遺物 なし。

所見 大型の土坑で、しっかりとした掘方を有し、断面は扁平な逆台形状を呈する。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

4号土坑(第29図、PL. 18)

位置 1区の中央、南寄り。1号壙の西側に位置する。X=63350・351、Y=-96951・952。

重複 なし。

平面形状 南北にやや長い梢円形形状を呈する。

主軸方位 N-47°-W。

規模 全長0.73m、上幅0.70m、下幅0.50m、深さ0.16m。

埋土 主体となるのは炭化物粒及び黄褐色粒を若干含む黒褐色土で、底面付近の一部に径約5cm程度の円礫を多量に含む黒褐色土が堆積している。

遺物 なし。

所見 2号土坑同様、浅い小型の土坑で、断面は扁平なレンズ状を呈する。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

5号土坑(第29図、PL. 18)

位置 1区の中央、南端。南壁際。X=63357・358、Y=-96959・960。

重複 なし。

平面形状 南北にやや長い梢円形形状を呈する。

主軸方位 N-28°-E。

規模 全長1.27m、上幅1.14m、下幅0.76m、深さ0.27m。

埋土 径約10~30cm程度の亜角礫を多量に、黄褐色粒を少量含む黒褐色土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では中程度の大きな土坑で、断面は扁平なレンズ状を呈する。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

6号土坑(第29図、PL. 18)

位置 1区の南東寄り、方形区画内、南壁際。7号土坑のすぐ南側に隣接する。X=63338・339、Y=-96926・927。

重複 なし。

第3章 発見された遺構と遺物

平面形状 北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-58°-W。

規模 全長1.30m、上幅0.89m、下幅0.45m、深さ0.73m。

埋土 径約3~10cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑であるが、深くしっかりとした掘方を有している。断面は逆隅丸直角三角形状で、7号土坑と南北に近接して並列し、共に抜き取り痕を有する。規模も7号土坑と比較的近似している。柱穴としても建物や柵を形成するものではない。

7号土坑とは併存、もしくはどちらかがどちらかの建て替えである可能性も考えられる。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

7号土坑(第29図、PL. 18)

位置 1区の南東寄り、方形区画内。6号土坑のすぐ北側に隣接する。X=63339・340、Y=-96925~927。

重複 なし。

平面形状 東北東-西南西方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-89°-E。

規模 全長1.33m、上幅1.05m、下幅0.57m、深さ0.55m。

埋土 径約3~10cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑であるが、深くしっかりとした掘方を有している。断面は段差が付いた、上が広がったU字形状で、6号土坑と南北に近接して並列し、共に抜き取り痕を有し、規模も6号土坑と比較的近似している。但し、先述したように柱穴としても建物や柵を形成するものではない。

6号土坑とは併存、もしくはどちらかがどちらかの建て替えである可能性も考えられる。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

8号土坑(第30図、PL. 19)

位置 1区の南東寄り、方形区画内、南壁際。12号ピットの南側に位置する。X=63335・336、Y=-96919~921。

重複 なし。

平面形状 南北に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-4°-E。

規模 全長1.69m、上幅1.37m、下幅0.83m、深さ0.40m。

埋土 径約3~10cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 南東側の谷部へ向かって傾斜していく地形の変換点付近に掘り込まれている。本遺跡から検出された土坑の中では中型の部類に属する土坑で、比較的しっかりとした掘方を有している。断面はやや扁平な逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

9号土坑(第30図、PL. 19)

位置 1区の南東寄り、方形区画内。18号土坑の南西側、1号掘立柱建物の北東側、10号土坑の南側に位置する。X=63345・346、Y=-96928・929。

重複 なし。

平面形状 南北に長い隅丸長方形を呈する。

主軸方位 N-3°-E。

規模 全長1.31m、上幅1.11m、下幅0.62m、深さ0.39m。

埋土 径約10cm程度の礫を含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中ではやや小型の部類に属する土坑で、比較的しっかりとした掘方を有している。断面はやや厚みのあるレンズ状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

10号土坑(第30図、PL. 19)

位置 1区の南東寄り、方形区画内。11号土坑の西側、12号土坑の南西側に隣接し、9・18号土坑の北側に位置する。X=63347・348、Y=-96924~926。

重複 なし。

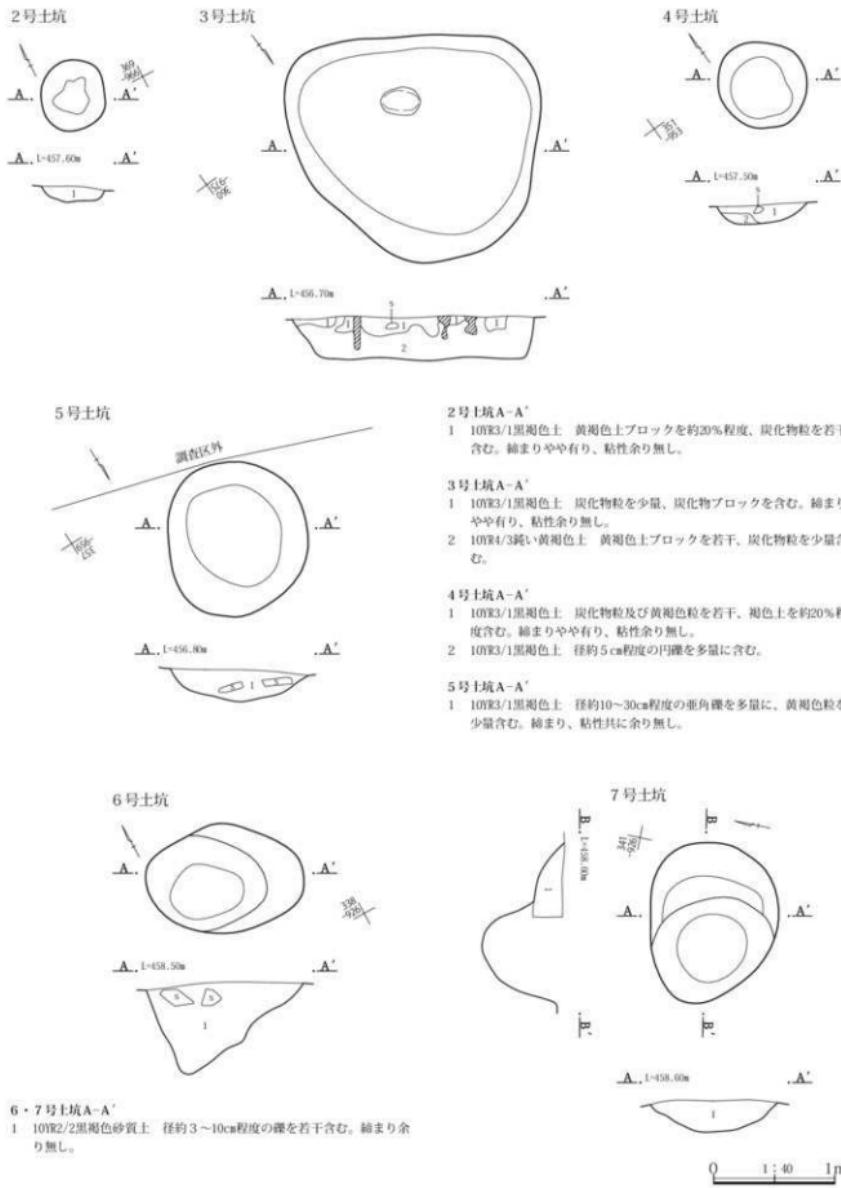
平面形状 西北西-東南東方向に長い隅丸方形を呈する。

主軸方位 N-78°-W。

規模 全長1.72m、上幅0.97m、下幅0.60m、深さ0.43m。

埋土 径約3~10cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

第2節 2面から検出された遺構と遺物



第29図 1区2面2~7号土坑

第3章 発見された遺構と遺物

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中ではやや大きい部類に属する土坑で、しっかりとした掘方を有している。断面は逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

11号土坑(第30図、PL. 19)

位置 1区の南東寄り、方形区画内。10号土坑の東側、12号土坑の南側、18号土坑の北側に隣接する。X=63345・346、Y=-96923・924。

重複 なし。

平面形状 南北に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-2°-W。

規模 全長1.25m、上幅0.98m、下幅0.67m、深さ0.32m。

埋土 径約3cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中ではやや小型の部類に属する土坑で、比較的しっかりとした掘方を有している。断面は少し厚みのあるレンズ状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

12号土坑(第30図、PL. 20)

位置 1区の南東寄り、方形区画内。11号土坑の北側、10号土坑の北東側に隣接する。X=63348・349、Y=-96923・924。

重複 なし。

平面形状 北西-南東方向に長い隅丸方形状を呈する。

主軸方位 N-61°-W。

規模 全長0.86m、上幅0.61m、下幅0.45m、深さ0.15m。

埋土 径約3cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑で、掘方は浅く、断面は薄く扁平なレンズ状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

13号土坑(第30図、PL. 20)

位置 1区の東寄りの中央、方形区画内。3号柵の南側

に近接する。X=63354～356、Y=-96919～921。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-34°-E。

規模 全長1.89m、上幅1.39m、下幅1.06m、深さ0.24m。

埋土 径約3cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では大型の部類に属する土坑であるが、掘方は比較的浅く、断面は薄く扁平で長いレンズ状を呈している。3号柵の中央、すぐ南側に位置しているが、3号柵やその後ろ側の2号掘立柱建物等との関連は不明である。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

14号土坑(第30図、PL. 20)

位置 1区の北東寄り、方形区画内。1号掘立柱建物及び3号柵のすぐ西側に近接する。X=63360・361、Y=-96922～924。

重複 なし。

平面形状 北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-50°-W。

規模 全長2.06m、上幅1.60m、下幅1.19m、深さ0.28m。

埋土 主体となるのは径約3cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土、端部の一部に径約3～5cm程度の亜円礫を少量含む褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では平面形態が最大の土坑であるが、掘方は比較的浅く、断面は薄く扁平で長い逆台状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

15号土坑(第31図、PL. 20)

位置 1区の中央から北東寄り、方形区画内。19号土坑のすぐ北側に隣接する。X=63365・366、Y=-96923・924。

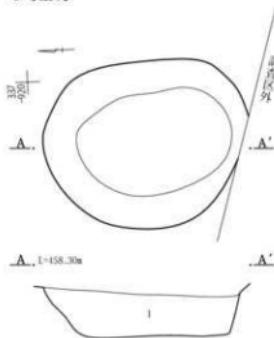
重複 なし。

平面形状 北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。

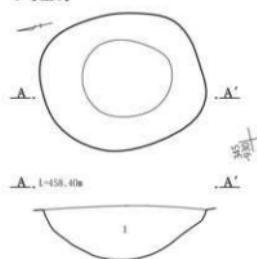
主軸方位 N-76°-W。

規模 全長1.58m、上幅1.31m、下幅0.82m、深さ0.33m。

8号土坑



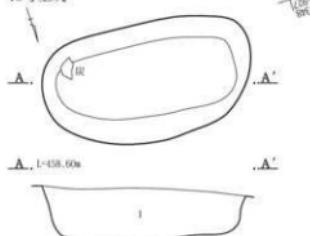
9号土坑



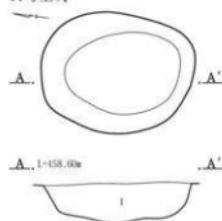
9号土坑A-A'

1 10YR2/2黒褐色砂質土 径約10cm程度の礫を含む。締まりやや有り、粘性余り無し。

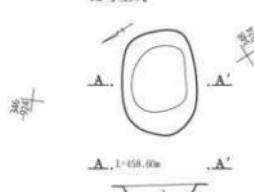
10号土坑



11号土坑



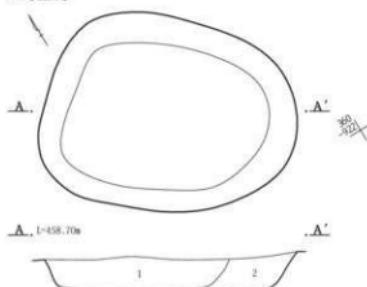
12号土坑



8・10号土坑A-A'

1 10YR2/2黒褐色砂質土 径約3~10cm程度の礫を若干含む。締まり余り無し。

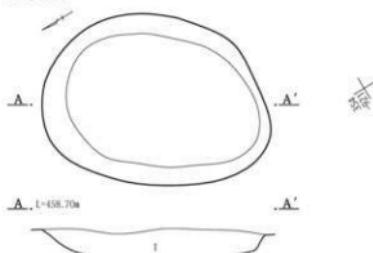
14号土坑



14号土坑A-A'

1 10YR2/2黒褐色砂質土 径約3cm程度の礫を若干含む。
2 10YR4/4褐色砂質土 径約3~5cm程度の亜円礫を少量含む。締まり余り無し。

13号土坑



11・12・13号土坑A-A'

1 10YR2/2黒褐色砂質土 径約3cm程度の礫を若干含む。締まり余り無し。



第30図 1区2面8~14号土坑

第3章 発見された遺構と遺物

埋土 径約3cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では中程度の大きさの土坑であるが、掘方は比較的浅く、断面はレンズ状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

16号土坑(第31図、PL. 21)

位置 1区の北東寄り、方形区画内。X=63368~370、Y=-96915・916。

重複 1号柵P1の南辺及び17号土坑の北辺を掘り込む。

平面形状 北西~南東方向にやや長い不整格円形状を呈する。

主軸方位 N-38°-E。

規模 全長1.61m、上幅1.51m、下幅0.99m、深さ0.22m。

埋土 炭化物粒を少量、径約3~10cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中ではやや大型の部類に属する土坑であるが、掘方は浅く、断面は薄く扁平で広いレンズ状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

17号土坑(第31図、PL. 21)

位置 1区の北東寄り、方形区画内。X=63367~369、Y=-96915~917。

重複 16号土坑に北辺を掘り込まれる。

平面形状 北西~南東方向にやや長い不整格円形状を呈する。

主軸方位 N-0°。

規模 検出全長1.88m、検出上幅1.67m、下幅1.17m、深さ0.24m。

埋土 径約10cm程度の礫を多量に含む黒褐色土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では大型の部類に属する土坑であるが、16号土坑に北辺を掘り込まれており、全容は不明である。16号土坑同様、掘方は浅く、断面は薄く扁平で広いレンズ状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

18号土坑(第31図、PL. 21)

位置 1区の南東寄り、方形区画内。9号土坑の東側、10・11号土坑の南側に位置する。X=63345・346、Y=-96924・925。

重複 なし。

平面形状 南北にやや長い不整格円形状を呈する。

主軸方位 N-22°-E。

規模 全長1.21m、上幅1.10m、下幅0.87m、深さ0.53m。

埋土 径約3~10cm程度の礫を少量に含む黒褐色土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では中型の部類に属する土坑であるが、しっかりとした掘方を有し、断面はやや深めの逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

19号土坑(第31図、PL. 21)

位置 1区の中央から北東寄りの位置、方形区画内。28号土坑のすぐ東側に近接し、15号土坑の南側に隣接する。X=63363~365、Y=-96921~923。

重複 なし。

平面形状 北西~南東方向に長い格円形状を呈する。

主軸方位 N-52°-W。

規模 全長2.01m、上幅1.41m、下幅1.01m、深さ0.29m。

埋土 径約5cm程度の礫を若干に含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では大型の部類に属する土坑であるが、掘方は浅く、断面は浅く、扁平で広い逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

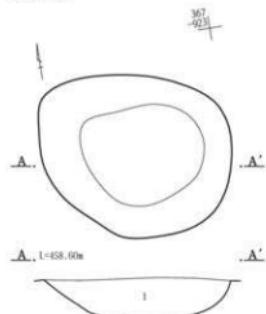
20号土坑(第31図、PL. 21)

位置 1区の中央、やや東寄りの位置、方形区画内。26号土坑の南東側、36号土坑の東側に位置する。X=63356、Y=-96932・933。

重複 なし。

平面形状 不整円形状を呈する。

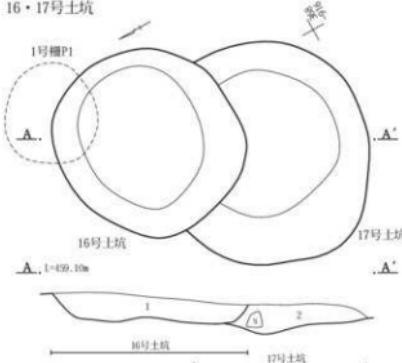
15号土坑



15号土坑A-A'

- 1 10YR2/2黒褐色砂質土 細約3cm程度の礫を若干含む。締まり余り無し。

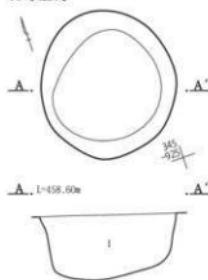
16・17号土坑



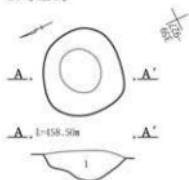
16・17号土坑A-A'

- 1 10YR2/2黒褐色砂質土 炭化物粒を少量。細約3~10cm程度の礫を若干含む。締まり余り無し。(16号土坑)
2 10YR2/2黒褐色土 細約10cm程度の礫を多量に含む。締まり余り無し。(17号土坑)

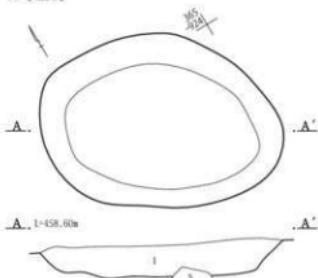
18号土坑



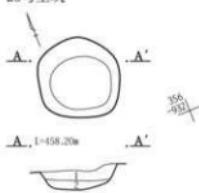
21号土坑



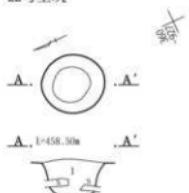
19号土坑



20号土坑



22号土坑



20号土坑A-A'

- 1 10YR3/2黒褐色砂質土 炭化物粒を若干含む。締まりやや有り。
2 10YR4/4褐色砂質土 黄褐色粒子を若干含む。締まりやや有り。

18・21・22号土坑A-A'

- 1 10YR2/2黒褐色砂質土 細約3~10cm程度の礫を若干含む。締まり余り無し。

19号土坑A-A'

- 1 10YR2/2黒褐色砂質土 細約5cm程度の礫を若干含む。締まり余り無し。

0 1:40 1m

第31図 1区2面15~22号土坑

第3章 発見された遺構と遺物

主軸方位 N-24°-E。

規模 径0.66m、下幅0.50m、深さ0.15m。

埋土 上層に炭化物粒を若干含む黒褐色砂質土が、下層に黄褐色粒を若干含む褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑で、掘方も浅い。断面はレンズ状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

21号土坑(第31図、PL. 22)

位置 I区の中央、やや東寄りの位置、方形区画内。

22号土坑の南側、6号ピットの北西側に隣接する。
X=63359・360、Y=-96926・927。

重複 なし。

平面形状 不整円形状を呈する。

主軸方位 N-0°。

規模 径0.67~0.68m、下幅0.38m、深さ0.27m。

埋土 径約3~5cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 20号土坑同様、本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑で、掘方も浅い。断面はレンズ状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

22号土坑(第31図、PL. 22)

位置 I区の中央、やや東寄りの位置、方形区画内。

21号土坑の北側に隣接する。X=63360・361、Y=-96926・927。

重複 なし。

平面形状 北北東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-20°-E。

規模 全長0.52m、上幅0.47m、下幅0.29m、深さ0.30m。

埋土 径約3~10cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 20・21号土坑同様、本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑で、さらに小規模でピットと見紛うばかりであるが、調査時に土坑として取り

扱っているため、土坑として報告する。

小規模にかかわらず、比較的しっかりとした掘方を有しており、断面は逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

23号土坑(第32図、PL. 22)

位置 I区の北東寄りの位置、方形区画内。X=63358・359、Y=-96916・917。

重複 2号掘立柱建物。

平面形状 南北にやや長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-35°-E。

規模 全長1.07m、上幅1.05m、下幅0.73m、深さ0.11m。

埋土 径約3~5cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 2号掘立柱建物の中央からやや南東寄りに位置している。2号掘立柱建物に関わる遺構である可能性も全く否定できないものの、積極的な関係の根拠となるような所見は得られていない。位置や大きさからみて2号掘立柱建物の床座とは考え難い。

掘方は浅く、断面は浅く扁平で幅広な逆直角三角形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

24号土坑(第32図、PL. 22)

位置 I区の南東寄りの位置、方形区画内。1号掘立柱建物の北東側、25号土坑の南西側に位置する。

X=63348・349、Y=-96933・934。

重複 なし。

平面形状 北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-52°-W。

規模 全長1.09m、上幅0.78m、下幅0.64m、深さ0.10m。

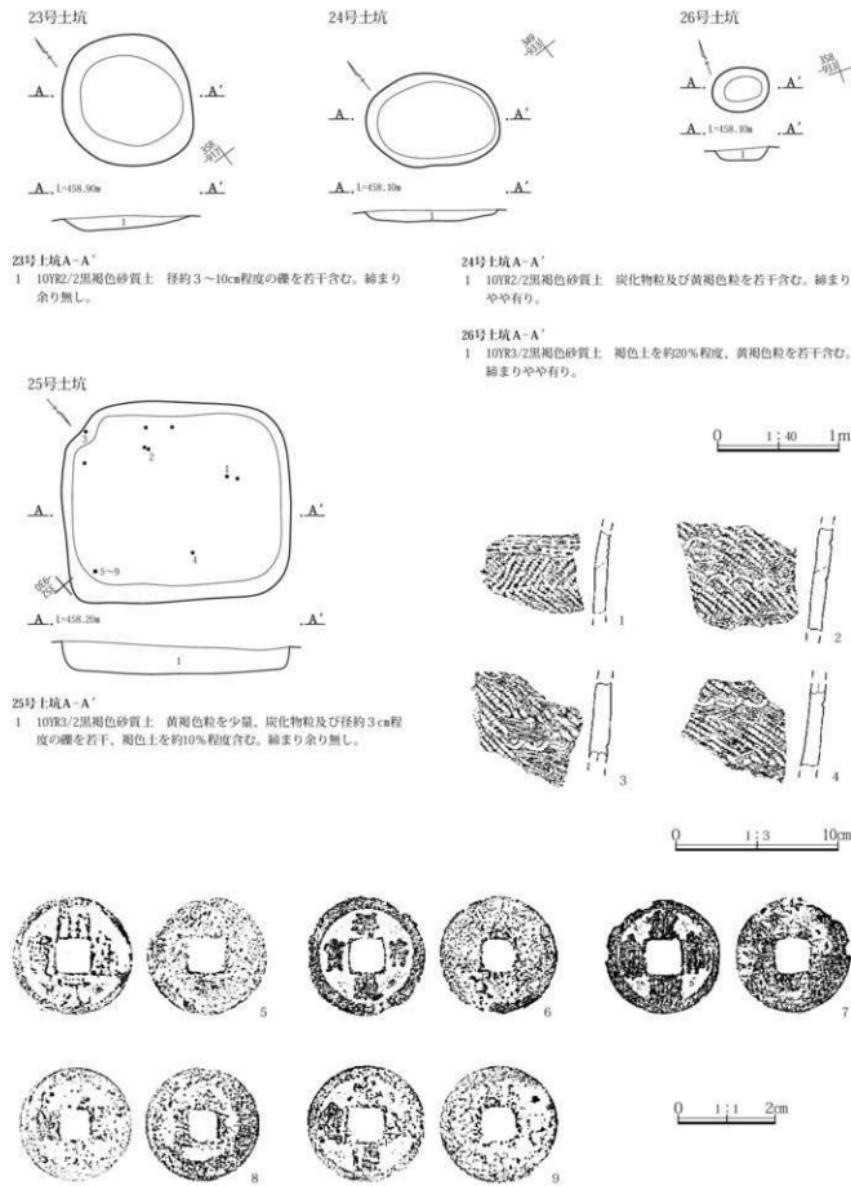
埋土 黄褐色粒及び炭化物粒を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では中型の部類に属する土坑である。掘方は浅く、断面は浅く扁平で幅広なレンズ状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

第2節 2面から検出された遺構と遺物



第32図 1区 2面23~26号土坑、25号土坑出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物

25号土坑(第32図、PL. 23・36)

位置 1区の南東寄りの位置、方形区画内。26号土坑の北東側に位置する。X=63351~353、Y=-96930~932。

重複 なし。

平面形状 北西~南東方向に長い隅丸長方形を呈する。

主軸方位 N-51°-W。

規模 全長1.87m、上幅1.64m、下幅1.39m、深さ0.25m。

埋土 褐色土ブロックを約10%程度、黄褐色粒を少量、炭化物粒を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 埋土中から縄文時代前期の土器片が11点と古銭5点(5~9)が出土した。縄文時代前期の土器は1~4の4点を探り上げた。非掲載の7点は縄文時代前期後葉の土器細片である。

1~4の縄文時代前期諸磯b式深鉢体部片は、すべて埋土中からの出土。5~9は中国銭。いずれも径2.4cm前後、厚さ0.15cm前後。完形ないしほぼ完形で、底面から8cm上の地点からまとまって出土した。5は開元通宝(唐銭、621年初鋤)。6は祥符通宝(北宋銭、1009年初鋤)。7は元祐通宝(北宋銭、1086年初鋤)。8は銭種不明。9は元符通宝(北宋銭、1098年初鋤)。北宋銭主体ではあるが、これらの銭貨には、後代の私鑄銭であるもの多く、日本国内で鋳造された例さえあるので、遺構の年代決定の基準にはなり得ない。

なお、これらの出土遺物の詳細については、遺物観察表を参照されたい。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では大型の部類に属する土坑で、これほど長方形に近い形状の土坑としても稀有な存在である。

掘方は比較的浅く、断面は浅く扁平で幅広な長方形を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

26号土坑(第32図、PL. 23)

位置 1区の中央からやや東寄りの位置、方形区画内。20号土坑の北西側、34号土坑の南西側、61号ピットの東側に位置する。X=63357・358、Y=-96933・934。

重複 なし。

平面形状 東西に長い楕円状を呈する。

主軸方位 N-73°-W。

規模 全長0.46m、上幅0.37m、下幅0.18m、深さ0.11m。

埋土 褐色土ブロックを約20%程度、黄褐色粒を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では最小の部類に属する土坑で、殆どピットと見紛うばかりであるが、調査時に土坑として調査しているので、土坑として報告する。

掘方は浅く、断面は浅く扁平な長方形を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

27号土坑(第33図、PL. 23)

位置 1区の中央から北東寄りの位置。X=63366・367、Y=-96927・928。

重複 なし。

平面形状 南北に長い不整椭円状を呈する。

主軸方位 N-17°-E。

規模 全長1.10m、上幅0.81m、下幅0.55m、深さ0.29m。

埋土 径約3~10cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑である。

ややしっかりとした掘方を有し、断面はやや厚めのレンズ状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

28号土坑(第33図、PL. 23)

位置 1区の中央から北東寄りの位置。19号土坑の直ぐ南側に接する。X=63363、Y=-96924・925。

重複 なし。

平面形状 東西に長い不整椭円状を呈する。

主軸方位 N-81°-E。

規模 全長0.95m、上幅0.76m、下幅0.33m、深さ0.15m。

埋土 炭化物を多量に、黄褐色土ブロックを約10%程度含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑である。

掘方は浅く、断面は浅く扁平な逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

第2節 2面から検出された遺構と遺物

29号土坑(第33図、PL. 24)

位置 1区の中央から北東寄りの位置。2号掘立柱建物の北側、30号土坑の南東側、37号土坑の北西側に位置する。 $X = 63360 \sim 362$ 、 $Y = -96911 \sim 913$ 。

重複 なし。

平面形状 南北に長い隅丸長方形を呈する。

主軸方位 $N - 32^\circ - W$ 。

規模 全長1.97m、上幅1.71m、下幅0.94m、深さ0.38m。

埋土 径約3～10cm程度の礫を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では大型の部類に属する土坑である。

ややしっかりとした掘方を有し、断面は扁平な逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

30号土坑(第33図、PL. 24)

位置 1区の中央から北東寄りの位置。1・2号柵のすぐ南側に近接し、33号土坑の北東側に位置する。 $X = 63364 \cdot 365$ 、 $Y = -96909 \cdot 910$ 。

重複 なし。

平面形状 南北に長い隅丸長方形を呈する。

主軸方位 $N - 51^\circ - E$ 。

規模 全長0.87m、上幅0.74m、下幅0.54m、深さ0.33m。

埋土 径約3～5cm程度の礫を多量に含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑である。

しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

31号土坑(第33図、PL. 24)

位置 1区の北東隅付近。2号柵の南側、2号柵の北側に位置する。 $X = 63366$ 、 $Y = -96906$ 。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向に長い梢円形状を呈する。

主軸方位 $N - 56^\circ - E$ 。

規模 全長0.74m、上幅0.59m、下幅0.40m、深さ0.14m。

埋土 径約3～5cm程度の礫を多量に含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑である。

掘方は浅く、断面は浅く扁平な逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

32号土坑(第33図、PL. 24)

位置 1区の南東寄り。12号ピットの北東側に位置する。 $X = 63339 \cdot 340$ 、 $Y = -96918 \cdot 919$ 。

重複 なし。

平面形状 南北に長い梢円形状を呈する。

主軸方位 $N - 1^\circ - W$ 。

規模 全長1.13m、上幅0.82m、下幅0.32m、深さ0.34m。

埋土 径約3～10cm程度の礫を多量に、黄褐色粒を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑である。

小型ながらしっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

33号土坑(第33図、PL. 25)

位置 1区の北東寄り。2号柵の南側、30号土坑の南東側に位置する。 $X = 63363 \cdot 364$ 、 $Y = -96908 \cdot 909$ 。

重複 なし。

平面形状 南北に長い梢円形状を呈する。

主軸方位 $N - 30^\circ - E$ 。

規模 全長1.40m、上幅1.01m、下幅0.81m、深さ0.21m。

埋土 径約3～10cm程度の礫を少量、黄褐色粒を若干含む黒褐色砂質土が堆積している。

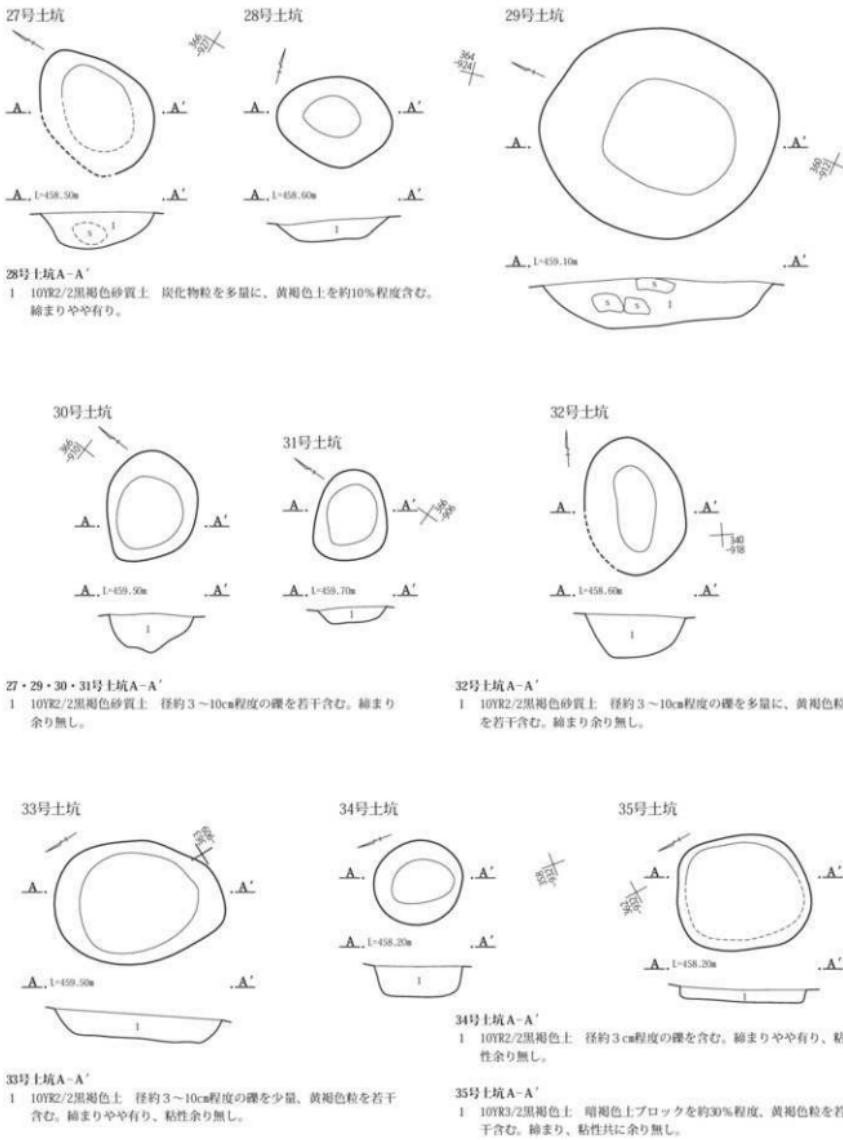
遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では中型の部類に属する土坑である。

掘方は浅く、断面は浅く扁平で長い逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

第3章 発見された遺構と遺物



0 1:40 1m

第33図 1区2面27~35号土坑

34号土坑(第33図、PL. 25)

位置 1区の中央からやや東寄りの位置。35号土坑の南東側、20号土坑の北東側に位置する。X=63358・359、Y=-96931・932。

重複 なし。

平面形状 南北にやや長い梢円形状を呈する。

主軸方位 N-0°。

規模 全長0.73m、上幅0.68m、下幅0.36m、深さ0.31m。

埋土 径約3cm程度の礫を極僅か含む黒褐色土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑である。

小型ながらしっかりとした掘方を有し、断面は長方形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

35号土坑(第33図、PL. 25)

位置 1区の中央からやや東寄りの位置。2号堀の東側に隣接し、34号土坑の北西側に位置する。X=63360・361、Y=-96931・932。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向にやや長い隅丸長方形状を呈する。

主軸方位 N-28°-E。

規模 全長1.09m、上幅0.94m、下幅0.80m、深さ0.17m。

埋土 黒褐色土ブロックを約30%程度、黄褐色粒を若干含む黒褐色土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中ではやや小型の部類に属する土坑である。

掘方は浅く、断面は浅く扁平な逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

36号土坑(第34図、PL. 25)

位置 1区の中央からやや南東寄りの位置。2号堀の東岸に懸かる。X=63356・357、Y=-96935・936。

重複 なし。

平面形状 南北に長い不整梢円形状を呈する。

主軸方位 N-23°-E。

規模 全長0.92m、上幅0.80m、下幅0.42m、深さ0.21m。

埋土 黒褐色土ブロックを約30%程度、黄褐色粒を若干含む黒褐色土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では小型の部類に属する土坑で、北東側に位置する61号ピット、南西側に位置する55・60・56・57・58・59号ピットなどと共に2号堀の南側に沿って堀内側に打設された木杭のような構造物の痕跡である可能性が高いものと考えられる。恐らくは、2号堀の区画ないし防護的な機能を補完した施設であった可能性が考えられる。

掘方は浅く、断面は浅く扁平な逆台形状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

37号土坑(第34図、PL. 26)

位置 1区の中央からやや北東寄り。2号掘立柱建物すぐ東側に隣接し、29号土坑の南東側に位置する。X=63358・359、Y=-96911・912。

重複 なし。

平面形状 東西に長い不整梢円形状を呈する。

主軸方位 N-86°-E。

規模 全長1.11m、上幅0.94m、下幅0.73m、深さ0.14m。

埋土 径約1～5cm程度の礫を多量に、炭化物粒を若干含む黒褐色土が堆積している。

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中ではやや小型の部類に属する土坑である。

掘方は浅く、断面は浅く扁平な不整レンズ状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

38号土坑(第34図、PL. 26)

位置 1区の中央からやや北東寄り。24号ピットのすぐ北側に隣接する。X=63363・364、Y=-96912・913。

重複 なし。

平面形状 東西に長い梢円形状を呈する。

主軸方位 N-85°-E。

規模 全長1.24m、上幅0.77m、下幅0.47m、深さ0.19m。

埋土 径約1～5cm程度の礫を含み、炭化物粒を若干含む黒褐色土が堆積している。

第3章 発見された遺構と遺物

遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では中型の部類に属する土坑である。

掘方は浅く、断面は浅く扁平な不整レンズ状を呈している。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。

40号土坑(第34図、PL. 26)

位置 1区の中央からやや南東寄り。南壁際。X=63341

・342、Y=-96937・938。

重複 1号掘立柱建物。

平面形状 北西-南東方向にやや長い椭円形状を呈する。

主軸方位 N-75°-E。

規模 全長1.22m、上幅1.10m、下幅0.85m、深さ0.22m。

埋土 主体は径約3~10cm程度の礫を大量に含む暗褐色

砂質土。上層中央部に比較的薄く褐色砂質土(焼土)、赤

褐色土(焼土)が堆積し、その周囲に極薄く径約3~10cm程度の礫交じりの黒褐色が堆積している。

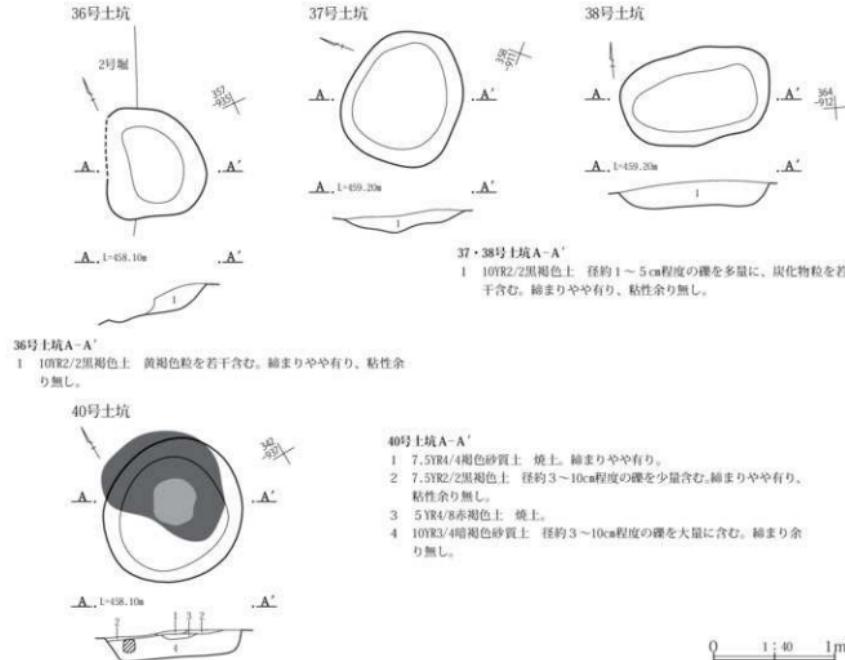
遺物 なし。

所見 本遺跡から検出された土坑の中では中型の部類に属する土坑である。上層の中央部に焼土の堆積が認められた。

しっかりとした掘方を有し、断面は広い逆台形状を呈している。

1号掘立柱建物の項で先述したように、焼土が検出されたのは中央部の上層からであり、土坑の壁面が火を受けて焼化したしているわけではないため、1号掘立柱建物の土間に設けられた炉のような施設とは考え難い。本土坑と1号掘立柱建物との関連については不明と言わざるを得ない。

時期 不明。但し、天明3(1783)年以前。



第34図 1区2面36~38・40号土坑

7. ピット(第35~37図、PL.27~32)

本遺跡では43基のピットが検出された。いずれも1区2面からの検出である。検出されたピットは、いずれも小規模で、梢円形ないし不整円形状を呈し、大きさや主軸方位はまちまちで一定ではない。

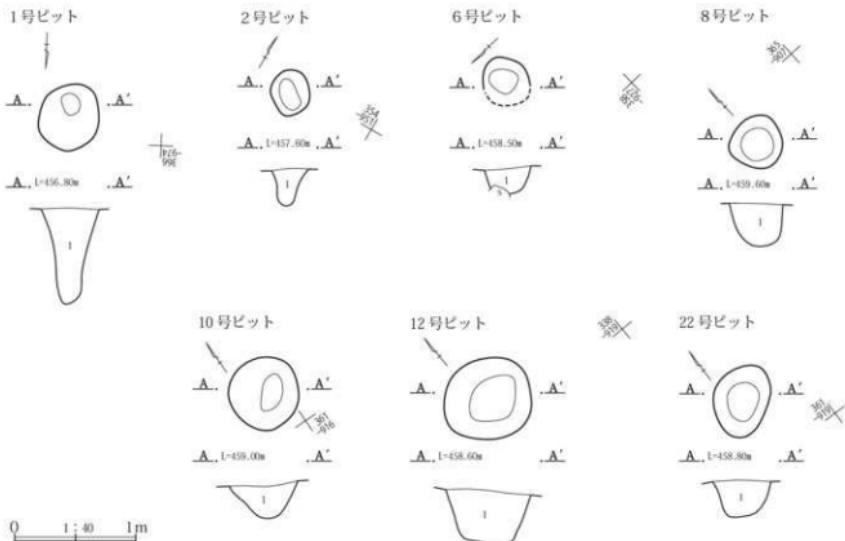
2重の堀と自然の谷によって画された中世の方形区画の西の外側からは1・2・32・33・54・62号の6基が、方形区画内からはそれ以外の37基が検出された。年代決定の根拠となるような遺物の出土はなく、いずれのピットも正確な年代は不明であり、天明泥流層の下から検出されたということで、天明3(1783)年以前としか言えない。

なお、先述したように、1・2号堀の西側部分における1号堀の北半分と2号堀の南半分のそれぞれ内側に沿って、36号土坑及び34・41~51・53~61・65号ピットが列をなして検出された。1・2号堀の間の部分、即ち

1号堀西辺北半内側の線と2号堀西辺北半の外側の線から検出された34・40~51・53・65号の15基のピットと、2号堀の西辺南半の内側から検出された36号土坑と55~61号の7基のピットである。これらの土坑・ピット群は、堀を補完する回繞施設の一部であった可能性が高いものと考えられる。但し、全体的な統一感はなく、中途半端な印象を受けるので、1~3号柵のようなしっかりとした構造物ではなく、杭列のような軽微なものであった可能性が高いものと考えられる。

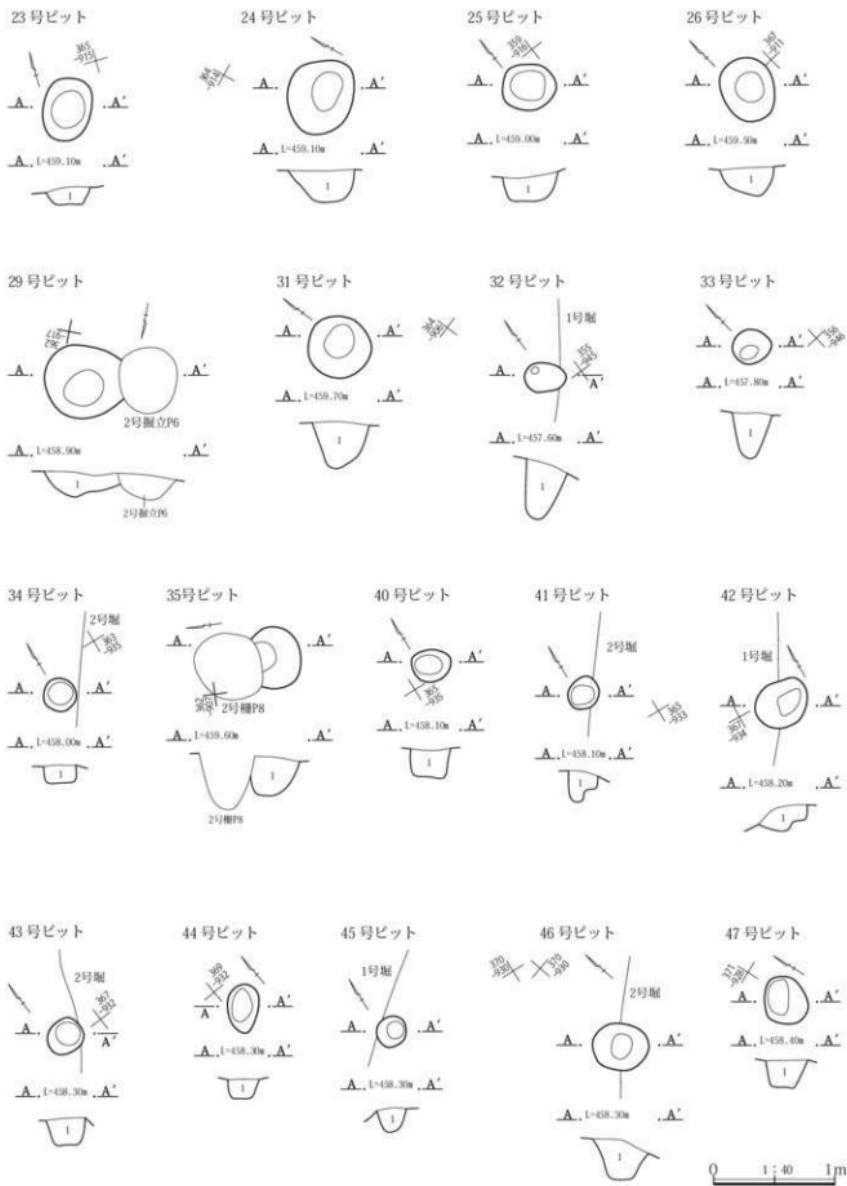
上記の34・41~51・53~61・65号ピット以外のピットの圧倒的多数は、調査区東側の中世方形区画内から検出されているので、方形区画内における何らかの用途があり、何某かの機能を果たしていたものと考えられるが、それらが如何なる機能を有していたのか否かについては全く明らかには出来なかった。

それらピットの位置、規模、形状、埋土の状況等については、第3表にまとめたので参照されたい。



第35図 1区2面1・2・6・8・10・12・22号ピット

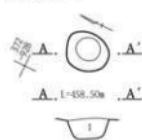
第3章 発見された遺構と遺物



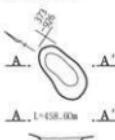
第36図 1区2面23~26・29・31~35・40~47号ピット

第2節 2面から検出された遺構と遺物

48号ピット



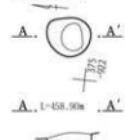
49号ピット



50号ピット



51号ピット



52号ピット



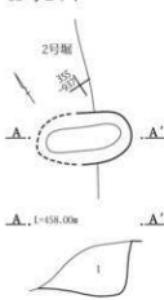
53号ピット



54号ピット



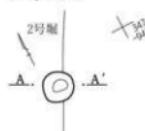
55号ピット



56号ピット



57号ピット



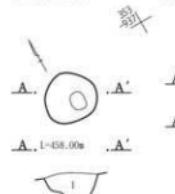
58号ピット



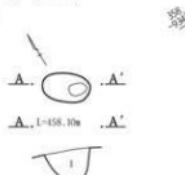
59号ピット



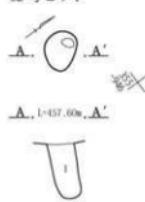
60号ピット



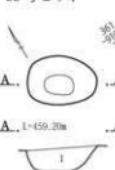
61号ピット



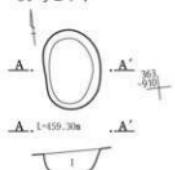
62号ピット



63号ピット



64号ピット



65号ピット



0 1:40 1m

第37図 1区2面48~65号ピット

第3章 発見された遺構と遺物

第3表 松谷松下2遺跡ピット一覧表

掘回	写真 図版	ピット 番号	区 面	位置(座標値) X=63… Y=96…	主軸方位 N-12°-E	平面 形状	規模(m)			重複・備考	遺物	埋土		
							長径	短径	深さ					
1	第35回	PL_27	1	1	2	365・366	972・973	N-12°-E	楕円形	0.56	0.49	0.78		10YR3/1黒褐色上。黄褐色土ブロックを約30%程度、炭化物粒を少量、黄褐色粒若干含む。紡まり有り、粘性や有り。
2	第35回	PL_27	2	1	2	353・354	951	N-38°-W	楕円形	0.36	0.30	0.30		10YR3/1黒褐色上。黄褐色粒及び炭化物粒を若干含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
3	第35回	PL_27	6	1	2	358	926	N-88°-W	楕円形	0.42	0.38	0.20		10YR2/2黒褐色上。径約1～3cm程度の礫を若干含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
4	第35回	PL_27	8	1	2	364	907	N-56°-E	丸みを 帶びた 三角形	0.43	0.42	0.35		10YR3/2黒褐色上。径約3～5cm程度の礫及び黄褐色粒を若干含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
5	第35回	PL_27	10	1	2	361	915・916	N-35°-E	ほぼ 円形	0.59	0.57	0.26		10YR2/2黒褐色上。径約10cm程度の礫を若干含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
6	第35回	PL_27	12	1	2	337・338	919・920	N-50°-W	ほぼ四 丸方形	0.70	0.70	0.43		10YR2/2黒褐色砂質上。径約3～20cm程度の礫を多量に、黄褐色土を少量含む。紡まりやや有り。
7	第35回	PL_27	22	1	2	361	919	N-50°-E	楕円形	0.60	0.45	0.30		10YR2/2黒褐色上。径約5～8cm程度の礫を含む。紡まり有り、粘性余り無し。
8	第36回	PL_27	23	1	2	364	915	N-22°-E	楕円形	0.52	0.42	0.14		10YR2/2黒褐色上。黄褐色粒及び径約1～2cm程度の礫を僅かに含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
9	第36回	PL_27・ 28	24	1	2	363	913・914	N-90°	楕円形	0.64	0.53	0.27		10YR2/2黒褐色上。黄褐色粒及び径約1～2cm程度の礫を僅かに含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
10	第36回	PL_28	25	1	2	358	916	N-51°-W	楕円形	0.43	0.36	0.20		10YR2/2黒褐色上。黄褐色土及び径約1～2cm程度の礫を僅かに含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
11	第36回	PL_28	26	1	2	366・367	911	N-31°-E	楕円形	0.53	0.42	0.23		10YR2/2黒褐色上。黄褐色土及び径約1～2cm程度の礫を僅かに含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
12	第36回	PL_28	29	1	2	362	916・917	N-70°-E	楕円形	(0.62)	0.60	0.19	2号掘立P 6 (30号ピット)に 掘り込まれる。	10YR2/2黒褐色上。黄褐色土及び径約1～2cm程度の礫を僅かに含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
13	第36回	PL_28	31	1	2	364	906	N-0°	ほぼ 円形	0.52	0.50	0.39		10YR2/2黒褐色上。黄褐色土及び径約5～6cm程度の礫を僅かに含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
14	第36回	PL_28	32	1	2	355	945	N-50°-W	楕円形	0.35	0.24	0.47	1号掘立P 6 に 掘り込 れ る。	10YR2/2黒褐色上。黄褐色土ブロックを約20%程度、炭化物粒を若干含む。紡まり余り無し。
15	第36回	PL_28	33	1	2	356	946	N-50°-W	楕円形	0.32	0.27	0.38		10YR2/2黒褐色上。炭化物粒を少量、黄褐色土ブロックを約20%程度含む。紡まり、粘性共に余り無し。
16	第36回	PL_28	34	1	2	362	935	N-0°	円形	0.26	0.26	0.15	1・2号坑に伴 う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。紡まりややあり、砂質、黄褐色土粒若干、炭化物粒若干。径約1～3cm程度の礫若干含む。
17	第36回	PL_28	35	1	2	363	906・907	N-40°-E	ほぼ 円形か	0.48	(0.35)	0.32	2号櫛P 8(28 号ピット)と重複	10YR2/2黒褐色砂質上。径約3～10cm程度の礫及び黄褐色土を少量含む。紡まりやや有り。
18	第36回	PL_29	40	1	2	364・365	934	N-54°-W	楕円形	0.33	0.26	0.23	1・2号坑に伴 う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。黄褐色土を若干含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
19	第36回	PL_29	41	1	2	365	933	N-41°-E	楕円形	0.28	0.24	0.27	1・2号坑に伴 う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。暗褐色土ブロックを約30%程度、黄褐色粒を若干含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
20	第36回	PL_29	42	1	2	366・367	933	N-72°-E	楕円形	0.47	0.38	0.21	1・2号坑に伴 う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。黄褐色土を若干含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
21	第36回	PL_29	43	1	2	366・367	932	N-83°-E	楕円形	0.31	0.27	0.22	1・2号坑に伴 う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。黄褐色土を若干含む。紡まりやや有り、粘性余り無し。
22	第36回	PL_29	44	1	2	368	931・932	N-40°-E	楕円形	0.40	0.25	0.15	1・2号坑に伴 う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。径約3～10cm程度の礫を少量含む。紡まり、粘性共に余り無し。
23	第36回	PL_29	45	1	2	370	931	N-0°	円形	0.24	0.24	0.20	1・2号坑に伴 う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。径約3～5cm程度の礫を少量含む。紡まり、粘性共に余り無し。

番号	写真 図版	ビト 通番	区 面	位置(座標値)		主軸方位 $X = 63^\circ - Y = 96^\circ$	平面 形状	規模(m)			重複・備考	遺物	理上
				長径	短径			深さ					
24 第36回	PL.29	46	I 2	368・369	929・930	N-41°-W	楕円形	0.46	0.39	0.33	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。径約5cm程度の礫を少量含む。紺まりやや有り、粘性余り無し。	
25 第36回	PL.29-30	47	I 2	370	927・928	N-59°-E	不整形	0.38	0.35	0.22	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。径約5cm程度の礫を少量含む。紺まりやや有り、粘性余り無し。	
26 第37回	PL.30	48	I 2	371	927	N-2°-E	楕円形	0.37	0.31	0.17	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。紺まり余りなし、径3～5cm程度の礫を少量含む。	
27 第37回	PL.30	49	I 2	372	926	N-13°-E	楕円形	0.49	0.26	0.10	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。紺まり余り無し、粘性余り無し、径3～5cm程度の礫を少量含む。	
28 第37回	PL.30	50	I 2	373・374	923	N-40°-E	楕円形	0.35	0.30	0.10	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。紺まり余り無し。	
29 第37回	PL.30	51	I 2	375	921	N-6°-W	楕円形	0.36	0.32	0.30	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。径約3～10cm程度の礫を少量含む。紺まり、粘性共に余り無し。	
30 第37回	PL.30	52	I 2	354・355	941	N-10°-E	不整形	1.28	0.51	0.52	1号塚を掘り込む。	1層は10YR3/3暗褐色砂質土。黄褐色ロームブロックを多量に、黒褐色土約20%程度含む。紺まりやや有り。2層は10YR5/4黄褐色砂質土。黄褐色粒を少量含む。紺まりやや有り。3層は10YR2/2黒褐色砂質土。黄褐色粒を若干含む。紺まりやや有り。	
31 第37回	PL.30	53	I 2	365	932	N-36°-E	楕円形	0.25	0.18	0.15	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。径約3～5cm程度の礫を少量含む。暗褐色土を約10%程度含む。紺まりやや有り、粘性余り無し。	
32 第37回	PL.30	54	I 2	376	923	計測不可	不明	(0.38)	(0.30)	0.23	1号塚を掘り込む。	10YR2/2黒褐色上。黄褐色土ブロックを約10%程度、径約5～10cm程度の礫を少量含む。紺まりやや有り、粘性余り無し。	
33 第37回	PL.31	55	I 2	354	936・937	N-57°-W	圓丸長方形	0.76	0.42	0.43	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。暗褐色土ブロックを約10%程度含む。紺まりやや有り、粘性余り無し。	
34 第37回	PL.31	56	I 2	349・350	940	N-62°-E	楕円形	0.43	0.39	0.21	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。黄褐色土ブロックを約10%程度、炭化物粒を若干含む。紺まり、粘性共に余り無し。	
35 第37回	PL.31	57	I 2	346	942	N-0°	ほぼ円形	0.25	0.24	0.16	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。黄褐色土ブロックを約10%程度、炭化物粒を若干含む。紺まり、粘性共に余り無し。	
36 第37回	PL.31	58	I 2	345	943	N-75°-W	楕円形	0.43	0.40	0.21	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。黄褐色土ブロックを約10%程度、炭化物粒を若干含む。紺まり、粘性共に余り無し。	
37 第37回	PL.31	59	I 2	342・343	944・945	N-80°-W	楕円形	0.31	0.27	0.17	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。黄褐色土ブロックを約10%程度、炭化物粒を若干含む。紺まり、粘性共に余り無し。	
38 第37回	PL.31	60	I 2	354	937・938	N-0°	ほぼ円形	0.42	0.41	0.26	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。黄褐色土ブロックを約10%程度、炭化物粒を若干含む。紺まり、粘性共に余り無し。	
39 第37回	PL.31	61	I 2	357・358	934・935	N-55°-W	楕円形	0.38	0.23	0.28	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。黄褐色色を若干含む。紺まりやや有り、粘性余り無し。	
40 第37回	PL.31-32	62	I 2	354	946	N-57°-W	楕円形	0.32	0.25	0.49		10YR5/4暗褐色土。黄褐色土を互層状に、黄褐色粒及び炭化物粒を少量含む。紺まり余り無し。	
41 第37回	PL.32	63	I 2	360・361	910	N-56°-W	楕円形	0.55	0.40	0.19		10YR2/2黒褐色砂質土。径約1～5cm程度の礫を少量含む。紺まりやや有り。	
42 第37回	PL.32	64	I 2	362・363	910	N-3°-E	ほぼ圓丸長方形	0.64	0.46	0.19		10YR2/2黒褐色砂質土。黄褐色粒及び径約1～5cm程度の礫を少量含む。紺まりやや有り。	
43 第37回	PL.32	65	I 2	363・364	935	N-46°-E	楕円形	0.40	0.33	0.20	1・2号塚に伴う構造物痕か。	10YR2/2黒褐色上。径約1～3cm程度の礫及び黄褐色粒を若干含む。紺まりやや有り、粘性余り無し。	

第3節 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物を以下にまとめて掲載する。細かな調整や特徴等については、後掲の遺物観察表に明示してある。採り上げた遺構外出土遺物19点の詳細については遺物観察表を参照されたい。

遺構外から出土遺物で採り上げたものは縄文時代の土器17点(1~5、6~1・2、7~1~5、8~10・13・14)、古銭2点(11・12)である。

1. 縄文土器(第38図、PL.37)

まず、縄文土器から報告する。縄文土器は、前期の土器が7点(1~6~1・2)、中期の土器が2点(13・14)、後期の土器が8点(7~1~5・8~10)である。

1は1区1面表土出土の黒浜式併行期の深鉢体部片。

2も1区1面表土出土の黒浜式深鉢体部片。

3は1区2面堆積土中出土の諸磯b式の深鉢口縁部片。

4も同じく1区2面堆積土中出土の諸磯b式の深鉢の頸部~体部片。

5も同じく1区2面堆積土中出土の諸磯b式の深鉢体部片。

6~1・2も同じく1区2面堆積土中出土の十三菩提式の体部片。

7~1・2・3・4・5は1区2面X=63365・Y=-96945Gr.遺構確認面出土の堀之内1式の深鉢頸部~体部片。

8は1区2面X=63375・Y=-96950Gr.遺構確認面出土の加曾利B2式の深鉢体部片。

9は1区表土出土の加曾利B2式深鉢体部片。

10も1区1面表土出土の縄文時代後期中葉深鉢底部片。

13・14は遺構が検出されなかった2区表土中から遺構確認時に出土したものでいずれも阿玉台1b式の深鉢片で、13は口縁部片、14は頸部~体部片である。

なお、非掲載ではあるが、1区の遺構外から有尾式・黒浜式の土器片8点、諸磯b式の土器片20点、十三菩提式の土器片2点、阿玉台1b式の土器片39点、堀之内1式の土器片41点、加曾利B2式の土器片51点、時期不明の縄文土器片26点と、2区表土から有尾式・黒浜式の土器片3点、阿玉台1b式の土器片6点、時期不明の縄文土器片1点が出土している。

2. その他の遺物(第38図、PL.37)

11・12はいずれも寛永通宝で、径は約2.3cm前後、厚さ0.13cm前後のものである。

11は1区1面表土出土の新寛永。12は1区2面堆積土出土の古寛永である。

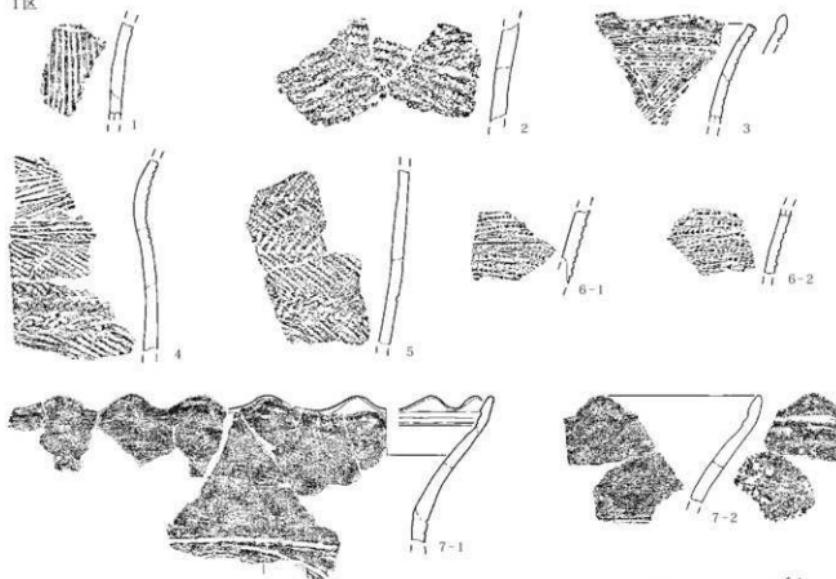
なお、非掲載ではあるが、1区1面耕作土中から18世紀前葉~中葉の肥前陶器陶胎染付碗底部片1点及び17世紀後葉~18世紀の瀬戸・美濃陶器飴丸碗体部片1点、1区1面表土中より近世の瀬戸・美濃陶器筒形香炉底部片1点及び18世紀中葉~19世紀初頭頃の肥前磁器筒形碗口縁部片1点及び18世紀の肥前磁器碗体部片1点及び17世紀の瀬戸・美濃陶器志野丸皿口縁部片1点などが出土している。

第4表 松谷松下2遺跡出土非掲載縄文土器数量一覧

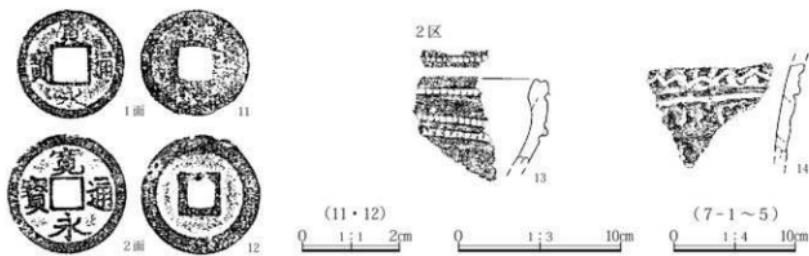
調査区	遺構名	時期	点数
1	25土坑	前期後葉 諸磯b式	7
1	遺構外	前期中葉 有尾式・黒浜式	8
1	遺構外	前期後葉 諸磯b式	20
1	遺構外	前期末葉 十三菩提式?	2
1	遺構外	中期前葉 阿玉台1b式	39
1	遺構外	後期前葉 堀之内1式	41
1	遺構外	後期中葉 加曾利B2式	51
1	遺構外	不明	26
2	遺構外	前期中葉 有尾式・黒浜式	3
2	遺構外	中期前葉 阿玉台1b式	6
2	遺構外	不明	1

計 204

1区



2区



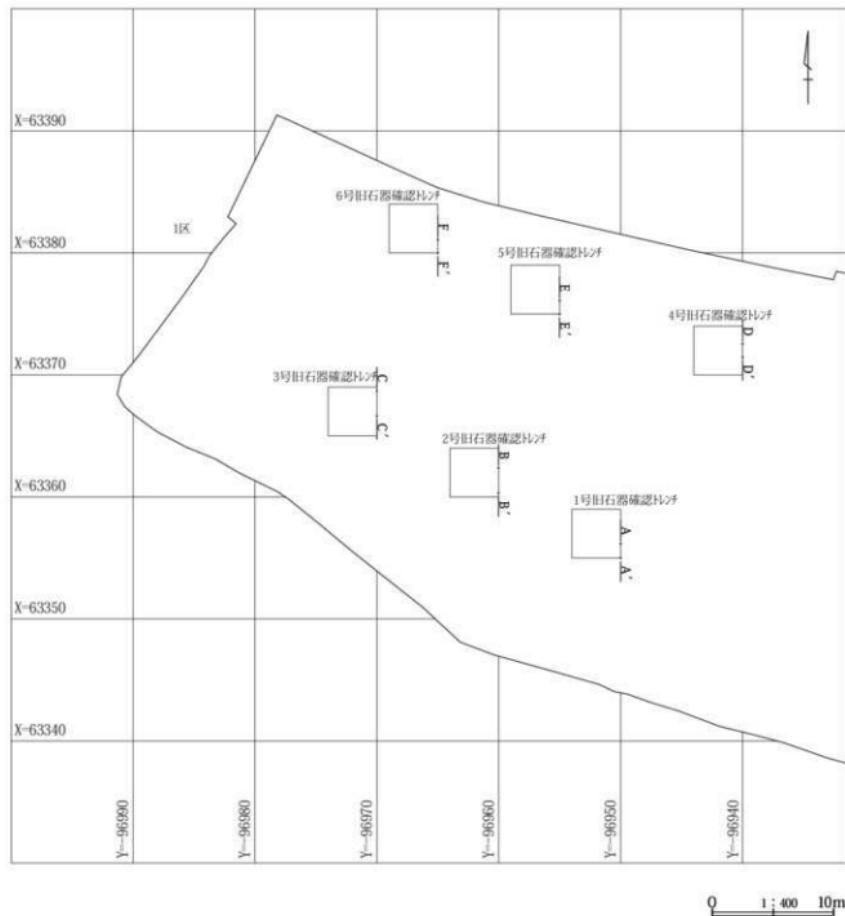
第38図 1・2区遺構外出土遺物

第4節 旧石器確認調査(第39~41図、PL.33・34)

本遺跡では1区一部でローム層の堆積が認められたので、すべての遺構の調査を終了した後、旧石器時代の遺物の包蔵の有無を確認するために、1区で6箇所のトレ

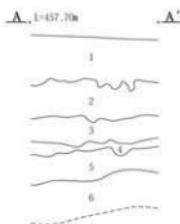
ンチを設定し、確認調査を行った。

最深で、遺構確認面から約2.15m前後まで掘削したが、いずれのトレントにおいても旧石器の出土は全く見られなかった。

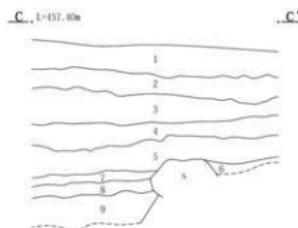


第39図 1区旧石器確認トレント位置図

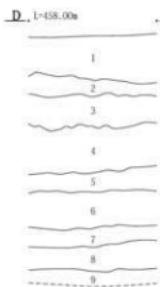
1号旧石器確認トレンチ



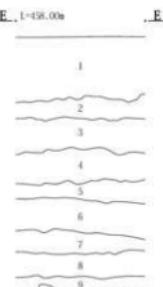
3号旧石器確認トレンチ



4号旧石器確認トレンチ

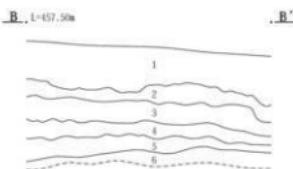


5号旧石器確認トレンチ



0 1:40 1m

2号旧石器確認トレンチ



1～3号旧石器確認トレンチ

- 1 10YR2/3黒褐色土 黄褐色粒を若干含む。下層の黄褐色土へグラデーションで変化していく。ローム移層。
- 2 10YR5/6黄褐色土 所々が攢乱されている。縮まりやや有り、粘性余り無し。ローム層。
- 3 7.5YR4/4褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 4 10YR5/6黄褐色土 硅化物粒を若干含む。粘性・縮まりやや有り。
- 5 7.5YR4/4褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 6 7.5YR4/4褐色砂礫土 程約5～50cm程度の凹窪及び亜円窪を含む。
- 7 10YR5/4純い黄褐色土 粘性余り無し。
- 8 7.5YR4/4褐色砂質土 縮まりやや有り。
- 9 10YR4/4褐色砂質土 縮まりやや有り。9層の下層より円窪多数。

4号旧石器確認トレンチ

- 1 10YR2/3黒褐色土 程約1～5cm程度の窪を少量、黄褐色粒若干含む。縮まりやや有り、粘性余り無し。
- 2 10YR5/6黄褐色土 程約1～5cm程度の窪を少量、白色粒及び黄褐色粒若干含む。縮まりやや有り、粘性余り無し。
- 3 10YR2/2黒褐色砂質土 黄褐色ブロック土を含み、白色粒を若干含む。縮まり有り。
- 4 10YR5/6黄褐色砂質土 黑褐色ブロック土を若干含む。縮まりやや有り。
- 5 10YR3/2黒褐色砂質土 黄褐色粒及び白色粒を若干含む。縮まりやや有り。
- 6 10YR4/6褐色土 黒褐色土ブロックを含み、黄褐色土ブロックを若干含む。縮まり有り、粘性余り無し。
- 7 10YR5/3純い黄褐色土 縮まり、粘性共にやや有り。
- 8 7.5YR4/6褐色砂質土 縮まりやや有り。
- 9 7.5YR4/6褐色砂質土 やや黒み有り。縮まりやや有り。

5号旧石器確認トレンチ

- 1 10YR2/3黒褐色土 黄褐色粒を若干含む。縮まりやや有り、粘性余り無し。
- 2 10YR5/6黄褐色土 程約1～5cm程度の窪を少量、白色粒及び黄褐色粒若干含む。縮まりやや有り、粘性余り無し。
- 3 10YR2/2黒褐色砂質土 黄褐色ブロック土を含み、白色粒を若干含む。縮まり有り。
- 4 10YR5/6黄褐色砂質土 黑褐色ブロック土を若干含む。縮まりやや有り。
- 5 10YR3/2黒褐色砂質土 黄褐色粒及び白色粒を若干含む。縮まりやや有り。
- 6 10YR4/6褐色土 黑褐色土ブロックを含み、黄褐色土ブロックを若干含む。縮まり有り、粘性余り無し。
- 7 10YR5/3純い黄褐色土 縮まり、粘性共にやや有り。
- 8 7.5YR4/6褐色砂質土 縮まりやや有り。
- 9 7.5YR4/6褐色砂質土 やや黒み有り。縮まりやや有り。

第40図 1区1～5号旧石器確認トレンチ土層断面図

6号旧石器確認トレンチ



第41図 1区 6号旧石器確認トレンチ土層断面図

第5表 調査区、確認面ごとの調査区別遺構検出量

遺構名	調査区・面	1区1面	1区2面	計
復旧坑		18		18
煙	1(6群)			1
掘立柱建物			2	2
樅			3	3
廻			2	2
溝			1	1
墓壙			2	2
土坑			38	38
ビット			43	43

第4章 調査成果の整理とまとめ

先述したように、本遺跡の発掘調査は平成31年度上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴い、県文化財保護課による試掘・確認調査及び調整を経て、令和元(2019)年10月1日～令和元年11月30日を期間として実施された。調査面積は3,890m²である。

調査区に飛地が存在するため、便宜上、主体となる調査区を1区、飛地部分を2区とする調査方針を立て、調査を実施した。なお2区からは遺構は全く確認されなかった。

第1節 1面から検出された復旧坑と畑

天明3(1783)年に起こった浅間山噴火によって発生した天明泥流による堆積物直下の遺構確認面を1面とした。

1区では中央部北側から東側約1/3にかけての、調査区の約1/2弱の部分が攢乱されており、遺構は、調査区中央部の西側約半分の範囲から検出された。

1区の西端寄りの部分からは、南北の間隔を挟めた密な状態で掘削された北西-南東方向の復旧坑16基からなる復旧坑群が検出された。また、それらの東側からは、北東-南西方向に掘削された2条の復旧坑群が並列して検出された。これらの復旧坑は、天明泥流被災以前に存在していた近世の畑を破壊して掘削されていた。

As-Aの残存が良好な、調査区の西側約3/4の部分では、北西-南東方向に長く伸びる畑の畝間の溝状のサクと、畑の中の円形の平坦面が4箇所検出された。畝間の溝状のサクの向きと、それらを囲繞する細長い通路状部分によって6群に分けられる。1区西端寄りから密集して掘削された復旧坑の間からも畑の畝間の溝状のサクが検出されているので、畑は、1区の全域に及んでいたものと推測出来る。

第2節 2面から検出された方形状の区画とその内外の遺構

第2面目はローム漸移層上面を遺構確認面とした。2面からは堀2条、掘立柱建物2棟、溝1条、柵3条、墓壙2基、土坑38基、ピット43基が確認された。

1. 方形区画内から検出された主な遺構

1面では大きく攢乱され、遺構は全く検出されなかつた調査区の東寄り約1/3の範囲を中心に、規矩状に囲繞する2重の堀によって西側と北側とを区画し、傾斜する自然の谷地形を利用して東側と南側とを区画した約1500m²の方形状の範囲の中からは、2棟の掘立柱建物や3条の柵、34基の土坑、ピット等が検出された。この方形区画は、調査区の約1/2弱を占めている。堅固な区画であり、規模は然程に大きくはないものの、防衛的機能の高い、何らかの施設であったと推測出来る。

年代決定の根拠となるような遺物の出土は殆ど無いが、形状や埋土等から見て、この方形区画は、中世後期、戦国期頃のものではないかと考えられる。

周知の通り、本遺跡の周辺には戦国期の山城が多く分布しており、この、本遺跡において検出された方形区画についても、そのような本遺跡周辺に分布する戦国期山城群との関連で理解するのが良いだろう。

堀 2条の堀は、北東-南西方向に直線的に並走しており、調査区の北端付近において、緩やかにカーブしてほぼ90度、南東側へ向きを変え、調査区の東端外へと延びている。両堀とも南側が深く、最も深い場所では各々約2m弱の深さであるが、北側にかけてはやや浅くなっている。南北両側を柵によって区画された東西棟の掘立柱建物及びその南西側に位置する南北棟の掘立柱建物等から構成される何らかの施設の西側と北側とを矩形に区画する。

掘立柱建物・柵 方形区画内から検出された2棟の掘立柱建物のうち、区画南西端付近において検出された1号掘立柱建物は桁行3間以上、梁間1間の北東-南西方向に長い側柱建物である。

区画の中央やや北寄りの位置から検出された2号掘立柱建物は、北西-南東方向に長い長方形形状を呈する梁間1間・桁行3間の側柱建物で、すぐ南側には、ほぼ並行するように3号柵が密接して検出され、柵のような遮蔽物と考えられる。また、2号掘立柱建物の約8m北側、内堀と建物との間に1・2号柵が北西-南東方向に設けられている。1・2号柵は、同時併存とは考えにくいので、どちらかが建て替えられたものと考えられるが、両柵の新旧関係は明らかにし難い。いずれにしても、位置的に見て、両柵とも2号掘立柱建物にかかる北側の障壁として機能していたものと見るのが自然であり、2号掘立柱建物は、南北両側が柵によって厳重に囲まれていた様子が看取れる。

両建物の用途や機能を明確に解明することは出来なかつたが、2号掘立柱建物が、方形区画のほぼ中央付近に位置していることや、南北両側に障壁を伴っていることから見て、堀と柵、谷によって方形に区画された防御的機能が色濃い施設の主屋であった可能性が高いであろう。

堀に沿って並ぶピット列 なお、先述したように、1・2号堀の西側部分、即ち北東-南西方向に走向する部分における1号堀の北半分と2号堀の南半分のそれぞれ内側に沿って合計22基のピットが列をなして検出されている。堀を補完する圍繞施設の一部であった可能性が高いものと考えられる。ただ、仮にこれらが柵の柱穴と仮定すると、柱筋が通らず、柱間もまちまちであり、前後左右に雁行しているような箇所もあって、ランダムな状態である。また、北寄りの位置では1号堀と2号堀の間、南寄りの位置では2号堀の内側と、統一感もなく、中途半端な印象を受ける。ゆえに、1～3号柵のようなしっかりとした構造物ではなく、杭列のようなものであった可能性が高い。

土坑・ピット 方形区画内からは34基の土坑が検出された。年代決定の根拠となるような遺物の出土ではなく、方形区画内から検出された34基の土坑が、方形区画に関わる機能を有していたのか否かについては明らかにし難

い。

また、方形区画内からは37基のピットが検出された。なお、先述したように、堀を補完する圍繞施設の一部であった可能性が高い22基のピット以外の圧倒的多数のものも、調査区東側の中世方形区画内から検出されているので、方形区画内における何らかの用途があり、何某かの機能を果たしていたものと考えられるが、それらが如何なる機能を有していたのか否かについては全く明らかには出来なかった。

検出された土坑もピットも、いずれも梢円形ないし長円形を呈し、大きさも主軸方位もまちまちで一定ではない。

先述した通り、これらの土坑・ピットからは年代を明確に示すような遺物の出土はなく、天明泥流の下から検出されたということで、天明3(1783)年以前としか言えない。

2. 方形区画域の外部から検出された主な遺構

区画域の外側、調査区の西側約1/2強に当たる部分では、近代の掘り込みや1面からの復旧坑の掘り込みで全体的に大きく攢乱されており、北西-南東方向に走向する溝1条と、墓壙2基、土坑4基、ピット6基程度の遺構しか検出されなかつた。

溝 検出された1号溝は、先述の方形区画の西外側から北西-南東方向に延び、東端が外堀である1号堀と接するごく浅い溝で、1号堀を越えた東側までは延びていないので、方形区画を構成する1・2号堀、1・2号掘立柱建物、1～3号柵等の遺構と同時併存していたものと考えられる。

溝底の傾斜は殆どなく、埋土からは水流の顯著な痕跡も認められないので、水路などではなく、土地を画するための溝であったと考えられる。

墓壙 2基の墓壙はそれぞれ離れた位置から検出された。両墓壙とも長方形形状を呈し、深くしっかりとした掘方を有している。

調査区北西寄りから検出された39号土坑は、人骨や遺物の出土はないものの、炭化物の出土及び壁面が焼土化していることから、火葬坑である可能性が考えられる。時期は不明である。

一方、調査区の中央、南寄りから検出された1号土坑

からは、1人分の人骨と寛永通宝(古寛永)が4点出土しており、天明3年以前の近世のものと考えられる。出土遺物から見て墓壙であることは間違いない。上面には川原石大の礫を何層にも重ねて埋葬している。

両墓壙とも、調査区東側から検出された方形区画とは時期が異なるものと考えられ、関連は考えにくい。

土坑・ピット 先述した通り、遺跡では、前記2基の墓壙を除くと38基の土坑が検出されたが、2重の堀と自然の谷によって画された中世の方形区画の西の外側からは4基が検出されたに過ぎない。また、本遺跡で検出された43基のピットのうち、方形区画の外側から検出されたのは、僅かに6基であった。

先述した、調査区東半部から検出された方形区画内から検出された土坑・ピットと同様、区画外から検出されたこれらの土坑・ピットについても、位置も、形状も、大きさも、主軸方位もそれぞれまちまちで一定ではなく、また、同様に、年代を明確に示すような遺物などの出土もない。これらの土坑・ピットについても、天明泥流の下から検出されたということで、天明3(1783)年以前のものと言うしかない。

まとめ

以上、本遺跡における発掘調査の成果を簡単に纏めてみたが、第1面では、江戸時代後期の天明3年に起きた浅間山噴火に伴う天明泥流に被災した耕地と復旧坑が、第2面では、調査区東半のエリアから検出された2重の堀や自然の谷地形によって周囲を区画した防御性の高い方形区画施設を中心とした遺構群とが検出され、調査された訳である。

とくに、第2面からは、年代決定の根拠となるような遺物の出土が非常に少なく、各遺構の正確な年代を決定するのが難しい事例が少なくてはなかったが、第1面では、攪乱を受け、遺構が全く検出出来ないエリアも存在していたものの、概ね、天明泥流被災後、即ち18世紀末以降と以前の遺構が、また、第2面からは中世後期(戦国期頃か)～近世前期頃の遺構が検出された。

江戸時代中・後期にかけては、調査対象地のほぼ全面が畑作地であったこと、また、中世後期(戦国期頃)には、調査対象地の東側には、2重の堀と自然の谷によって方

形に区画された居館か砦のような施設が營まれ、その施設に関わる人々の動きが存在していたような場所であったことが判明した。

14世紀末、この地域では秀郷流藤原氏の齊藤氏が台頭、永禄4(1561)年の上杉輝虎の関東出兵時の「関東幕主注文」には、齊藤氏が、本遺跡の南東約2.3kmに位置する岩下城を中心に勢力を張ったことが窺える。

16世紀前半には、温川上流の手子丸城に拠った大戸氏が勢力を伸ばし、本遺跡の南東約1.75kmに位置する根小屋城に入っている。この根小屋城からは、堅穴状遺構、土坑、ピットなどの遺構が検出されている。同時に、本遺跡の南東約2.1kmに位置し、根小屋川を挟んだ対岸に所在する根小屋B遺跡や、根小屋城跡の東側に位置する根小屋遺跡等も、本遺跡と同様、上信自動車道吾妻西バイパス建設工事に伴って当事業団によって発掘調査されており、根小屋城に関連するような中世の遺構が検出されている。

その後、永禄6(1563)年の甲斐・信濃を支配する武田晴信の上野国侵攻によって、大戸氏は武田氏に従属し、武田氏の部将である真田幸隆によって、齊藤氏の居城である岩下城は落城せられ、本遺跡の南東約5.2kmに位置する岩槻城が武田氏の拠点となり、永禄8(1565)年に吾妻郡域は武田氏の支配下となった。その後、岩槻城は天正10(1582)年の武田氏滅亡後に独立した真田氏の支配下となり、元和元(1615)年に江戸幕府によって発せられた「一国一城令」により破却された。

本遺跡周辺には、この他に、本遺跡の南東約5kmに位置する郷原城や、本遺跡の南東約4.5kmに位置する潜龍院など、16世紀の中世城砦の遺跡が点在している。

このように、吾妻川流域は、中世の城館・城砦が多く分布する地域として知られている。砦や烽火を置くのに適した山間部であることに加え、この地域の山間が、古くから信濃國方面、上野国碓氷郡方面、上野国群馬郡方面、上野国利根郡方面へとそれれ繋がる陸上交通路上の要衝の地であり、また、吾妻川から利根川を利用した水上交通路も利用可能であったため、中世・戦国期においては、頻繁に霸権争いの地となり、支配者の交替・転変が激しい地域であった。

本遺跡の第2面から検出された2条の並走する堀と、吾妻川と小河川の沢による自然地形を巧みに利用して構

第4章 調査成果の整理とまとめ

築された、防御施設を備えた城砦、館跡についても、このような当地における歴史的な経緯の中に位置付けることが出来よう。

第6表 遺物観察表

1号層

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第25回 PL.36	1	石製品 五輪塔火輪	埋土 ほぼ完形	長さ 幅	18.9 18.8	厚 重量	8.6 2333.3	粗粒輝石安山岩	軸口に比べ肩部が低く、隔壁は直線的。火輪正面には斜向する点状の工具痕があり、他邊には点状工具痕が複数に残る。延石として転用された各面が研磨摩耗しており、特に左側面の研ぎめりが著しい。また、裏面側中央には漏斗状の溝(深さ1.4cm)がある。	中世

1号土坑

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第28回 PL.36	1	銅質 賣永通宝 (古寛永)	底面より1.7cm上 完形	外径 内径	2.443 2.054	厚 重量	0.133 2.8	青銅色/銅	面の形は深く文字は一部跡跡まりが見られるが、輪、郭は明瞭。背の形も深く対称性があり確認できる。	近世
第28回 PL.36	2	銅質 賣永通宝 (古寛永)	底面より2.4cm上 完形	外径 内径	2.353 1.938	厚 重量	0.096 1.9	青銅色/銅	面の形は深く文字、輪、郭が明瞭。一部に跡跡まり足りないが見られる。背はやや形が丸く、郭の一部がずれている。	近世
第28回 PL.36	3	銅質 賣永通宝 (古寛永)	底面より18.9cm上 完形	外径 内径	2.383 1.866	厚 重量	0.124 3.1	青銅色/銅	面、背とともに輪、郭は明瞭。文字は僅かに一部跡跡まりしている。背の郭が左にずれる。	近世
第28回 PL.36	4	銅質 賣永通宝 (古寛永)	底面より1.4cm上 完形	外径 内径	2.440 1.998	厚 重量	0.136 2.6	青銅色/銅	面、背ともに文字、輪、郭が明瞭。	近世
	5	人骨	底部 1体分	長さ 幅		厚 重量		頭蓋骨と大顎骨部分が遺るが、残存状態が悪く、辛うじて土と一体化して遺っているような状態である。	近世	

25号土坑

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第32回 PL.36	1	磁文土器 深鉢	埋土 体部上半破片				粗石英・輝石・白色粒 /良好・純い褐色	幅狭の連續爪形文数条を横位に配す。以下横位LRとRLによる羽状縞文構成。内面平滑な撫で調整。	磁文時代前期後葉、諸磯b式	
第32回 PL.36	2	磁文土器 深鉢	埋土 体部破片				粗石英・輝石・白色粒 /良好・純い褐色	3・4と同一個体か? 直立気味の体部器形を呈し、横位結節縞文を施す。内面平滑な撫で調整。	磁文時代前期後葉、諸磯b式	
第32回 PL.36	3	磁文土器 深鉢	埋土 体部破片				粗石英・輝石・白色粒 /良好・純い褐色	2・4と同一個体か? 直立気味の体部器形を呈し、横位結節縞文を施す。内面平滑な撫で調整。	磁文時代前期後葉、諸磯b式	
第32回 PL.36	4	磁文土器 深鉢	埋土 体部破片				粗石英・輝石・白色粒 /良好・純い褐色	2・3と同一個体か? 直立気味の体部器形を呈し、横位結節縞文を施す。内面平滑な撫で調整。	磁文時代前期後葉、諸磯b式	
第32回 PL.36	5	銅質 開元通寶 完形	底面から8cm上 完形	外径 内径	2.435 2.082	厚 重量	0.180 2.9	青銅色/銅	全体にやや劣化が見られる。	5・6・7は着出土 中世か
第32回 PL.36	6	銅質 符祥通寶 完形	底面から8cm上 完形	外径 内径	2.426 1.884	厚 重量	0.174 2.8	青銅色/銅	全体的に劣化が見られる。面の輪、郭は明瞭だが跡跡まりと劣化の影響で文字は見えづらい。背は輪、郭はがきりとしない。	5・6・7は着出土 中世か
第32回 PL.36	7	銅質 元祐通寶 ほぼ完形	底面から8cm上 内径	2.371 1.804	厚 重量	0.128 2.3	青銅色/銅	篆書体。面の輪、郭は明瞭。文字は跡跡まりが見られ不鮮明。背の形は浅く、輪、郭が不明瞭。	5・6・7は着出土 中世か	
第32回 PL.36	8	銅質 鍊輪不明	底面から8cm上 完形	外径 内径	2.333 1.975	厚 重量	0.145 2.6	青銅色/銅	上の文字が「元」であることはからうとして確認できるが、その他の文字も跡跡まりになっており、不明瞭。面の輪、郭は明瞭。背の輪、郭は左上に付いている。	中世か
第32回 PL.36	9	銅質 元祐通寶か 完形	底面から8cm上 完形	外径 内径	2.436 2.115	厚 重量	0.175 3.4	青銅色/銅	文字は跡跡まりしており、右の文字が不明瞭。偏が見えない事から「召」の可能性を考えたが、詳細不明。面、背ともに輪、郭は確認できる。	中世か

1・2区遺構外

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第38回 PL.37	1	磁文土器 深鉢	1区1面表土 体部破片				粗纖維・輝石・片岩・ 白色粒/良好・明瞭色	横位沈線以下に内皮平行沈線による縦位沈線群が施される。内面研磨。	磁文時代前期前葉、黒浜式併行
第38回 PL.37	2	磁文土器 深鉢	1区1面表土 体部破片				粗纖維・輝石・白色粒 /良好・褐色	LRとRLによる羽状縞文構成。やや乱れた施文。内面撫で調整。	磁文時代前期前葉、黒浜式
第38回 PL.37	3	磁文土器 深鉢	1区2面堆積土 口縁部破片				粗纖維多・白色粒/良 好・純い褐色	小波状突起を付す。幅狭の連續爪形文による三 角形状の区画意匠を配す。内面平滑な撫で調整。 頭部外側に横位平行沈線を設ける。上位は斜位 平行沈線を充填する。体部は横位結節部を施す。 内面弱い研磨。	磁文時代前期後葉、諸磯b式
第38回 PL.37	4	磁文土器 深鉢	1区2面堆積土 頭部~体部破片				粗石英・輝石・白色粒 /良好・黒褐色	粗糸縞文と粗による羽状縞文構成。結節施文 も加わる。内面上半弱い研磨、下半平滑な撫で 調整。	磁文時代前期後葉、諸磯b式
第38回 PL.37	5	磁文土器 深鉢	1区2面堆積土 体部破片				粗石英・輝石・白色粒 /良好・明赤褐色	結束縞文と粗による羽状縞文構成。結節施文 も加わる。内面上半弱い研磨、下半平滑な撫で 調整。	磁文時代前期後葉、諸磯b式

第4章 調査成果の整理とまとめ

補 図 PL.No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値		胎内/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
			外径	厚			
第38図 PL.37	6-1 縄文土器 深鉢	1区2面堆積土 体部破片			細:石英・白色粒/良好/稍色	6-2と同一個体。外反する体部、幅状の結節浮線による弧状・環状意匠が配される。内面平滑な撫で。	縄文時代前期末 葉、十三音提 式?
第38図 PL.37	6-2 縄文土器 深鉢	1区2面堆積土 体部破片			細:石英・白色粒/良好/稍色	6-1と同一個体。外反する体部、幅状の結節浮線による弧状・環状意匠が配される。内面平滑な撫で。	縄文時代前期末 葉、十三音提 式?
第38図 PL.37	7-1 縄文土器 深鉢	1区2面 X-63365・Y- -96945Gr.遺構 確認面 口縁部破片2点			粗:石英・褐色粒・白色 粒/良好/明黄褐色	7-1~5は同一個体。口縁部は小波状突起を連続するが等間隔ではなく、単位は不明である。口縁~頭部は無文。頸部の屈曲部に横位沈線1条を設ける。以下体部は沈継による弧状意匠が配され、縱位無節しを充填する。口縁部内面は横位沈継を施す。内外面とも平滑な撫で調整。	縄文時代後期前 葉、瓶之内1式
第38図 PL.37	7-2 縄文土器 深鉢	1区2面 X-63365・Y- -96945Gr.遺構 確認面 口縁部破片			粗:石英・褐色粒・白色 粒/良好/純い黄褐色	7-1~5は同一個体。口縁部は小波状突起を連続するが等間隔ではなく、単位は不明である。口縁~頭部は無文。頸部の屈曲部に横位沈線1条を設ける。以下体部は沈継による弧状意匠が配され、縱位無節しを充填する。口縁部内面は横位沈継を施す。内外面とも平滑な撫で調整。	縄文時代後期前 葉、瓶之内1式
第38図 PL.37	7-3 縄文土器 深鉢	1区2面 X-63365・Y- -96945Gr.遺構 確認面 頭部破片			粗:石英・褐色粒・白色 粒/良好/純い黄褐色	7-1~5は同一個体。口縁部は小波状突起を連続するが等間隔ではなく、単位は不明である。口縁~頭部は無文。頸部の屈曲部に横位沈線1条を設ける。以下体部は沈継による弧状意匠が配され、縱位無節しを充填する。口縁部内面は横位沈継を施す。内外面とも平滑な撫で調整。	縄文時代後期前 葉、瓶之内1式
第38図 PL.37	7-4 縄文土器 深鉢	1区2面 X-63365・Y- -96945Gr.遺構 確認面 頭部~体部破片			粗:石英・褐色粒・白色 粒/良好/純い黄褐色	7-1~5は同一個体。口縁部は小波状突起を連続するが等間隔ではなく、単位は不明である。口縁~頭部は無文。頸部の屈曲部に横位沈線1条を設ける。以下体部は沈継による弧状意匠が配され、縱位無節しを充填する。口縁部内面は横位沈継を施す。内外面とも平滑な撫で調整。	縄文時代後期前 葉、瓶之内1式
第38図 PL.37	7-5 縄文土器 深鉢	1区2面 X-63365・Y- -96945Gr.遺構 確認面 頭部~体部破片			粗:石英・褐色粒・白色 粒/良好/黄色	7-1~5は同一個体。口縁部は小波状突起を連続するが等間隔ではなく、単位は不明である。口縁~頭部は無文。頸部の屈曲部に横位沈線1条を設ける。以下体部は沈継による弧状意匠が配され、縱位無節しを充填する。口縁部内面は横位沈継を施す。内外面とも平滑な撫で調整。	縄文時代後期前 葉、瓶之内1式
第38図 PL.37	8 縄文土器 深鉢	1区2面 X-63375・Y- -96950Gr.遺構 確認面 体部破片			細:石英・輝石・白色粒 /良好/純い黄褐色	体部下端に沈継で画された横位弧線文と上位に沈継に両側に配されるLRを充填する。内面撫で。	縄文時代後期中 葉、加曾利B 2 式
第38図 PL.37	9 縄文土器 深鉢	1区1面表土 体部破片			細:石英・輝石・白色粒 /良好/灰黃色	沈継に両側に施された施文部と磨削部による横位弧状意匠。細縦文LRを充填する。内面平滑な撫で調整。	縄文時代後期中 葉、加曾利B 2 式
第38図 PL.37	10 縄文土器 深鉢	1区1面表土 体部破片	底	(10.0)	粗:石英・輝石・白色粒 /良好/純い黄褐色	薄手の胎厚を呈す。底部直立し、体部は強く開く。外面部、内面部弱い撫で調整。	縄文時代後期中 葉、加曾利B 2 式
第38図 PL.37	11 践質 新窓水 完形	1区1面表土	外径	2.242	厚	0.127	面の文子、輪、郭は明瞭。背は一部盛り上がりおり崩れれている。輪、郭は不明瞭。
			内径	1.844	重量	2.2	
第38図 PL.37	12 践質 古窓水 完形	1区2面堆積土	外径	2.446	厚	0.137	面、背ともに崩れやすく、文子、輪、郭は明瞭。背の部分が崩れています。
			内径	1.953	重量	2.8	
第38図 PL.37	13 縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片			粗:石英多・雲母多/ 良好/純い黄褐色	隆線で画された口縁部区画。口唇部及び側縫に單列の結節沈継を施す。内面平滑な撫で調整。	縄文時代中期中 葉、阿玉台1 b 式
第38図 PL.37	14 縄文土器 深鉢	2区表土 頭部~体部破片			粗:石英・雲母/良好/ 灰褐色	横位隆線で画し横位波状沈継を配す。側縫は單列の結節沈継。外器面はヒダ状疣痕が複数。内面平滑な撫で調整。	縄文時代中期中 葉、阿玉台1 b 式

写 真 図 版



1 1区1面調査区南半全景(北西から、右に吾妻川)



2 1区1面調査区北半全景(南東から)



1 1区1面復旧坑・畠南半検出状況(北から)



2 1区1面復旧坑・畠北半検出状況(北西から)



1 1区1面1・2号復旧坑全景(北から)



2 1区1面3～13号復旧坑全景(東から)



1 1区1面13~18号復旧坑全景(北西から)



2 1区1面1号復旧坑断面(北東から)



3 1区1面2号復旧坑断面(北東から)



4 1区1面3~13号復旧坑断面(北から)



5 1区1面3号復旧坑断面(東から)



1 1区1面4号復旧坑断面(東から)



2 1区1面5号復旧坑断面(東から)



3 1区1面6号復旧坑断面(東から)



4 1区1面7号復旧坑断面(東から)



5 1区1面8号復旧坑断面(東から)



6 1区1面9号復旧坑断面(東から)



7 1区1面10号復旧坑断面(東から)



8 1区1面11号復旧坑断面(東から)



1 1区1面12号復旧坑断面(東から)



2 1区1面13~18号復旧坑断面(南東から)



3 1区1面13号復旧坑断面(南東から)



4 1区1面14号復旧坑断面(南東から)



5 1区1面15号復旧坑断面(南東から)



6 1区1面16号復旧坑断面(南東から)



7 1区1面17号復旧坑断面(南東から)



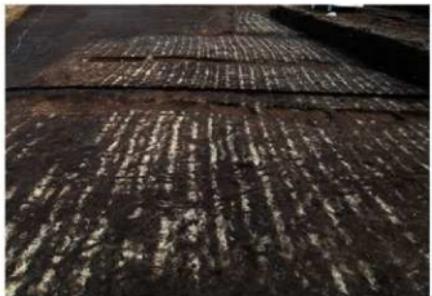
8 1区1面18号復旧坑断面(南東から)



1 1区1面1号畑南半全景(南から)



2 1区1面1号畑北半全景(南東から)



1 1区1面1号烟A-A'断面(北西から)



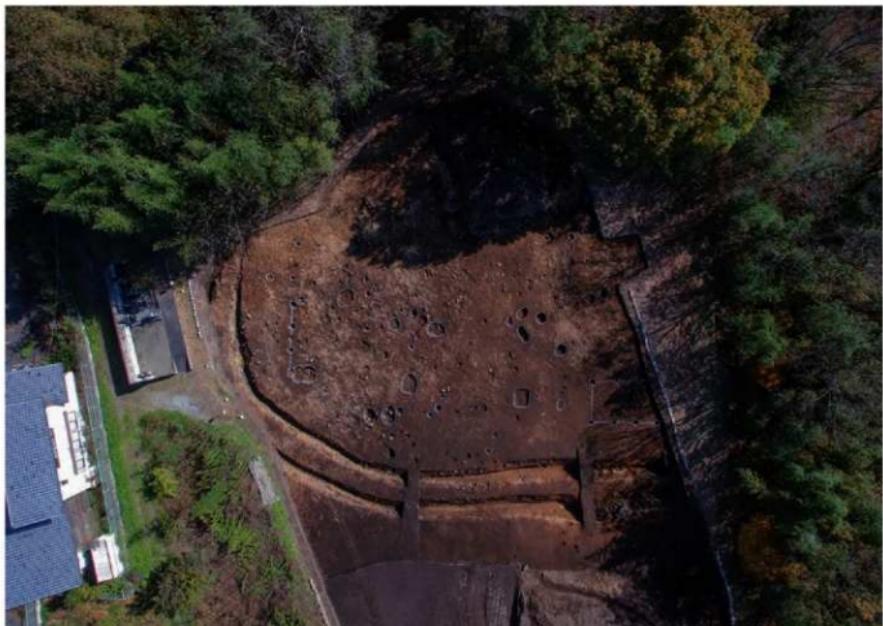
2 1区1面1号烟A-A'断面(北西から)



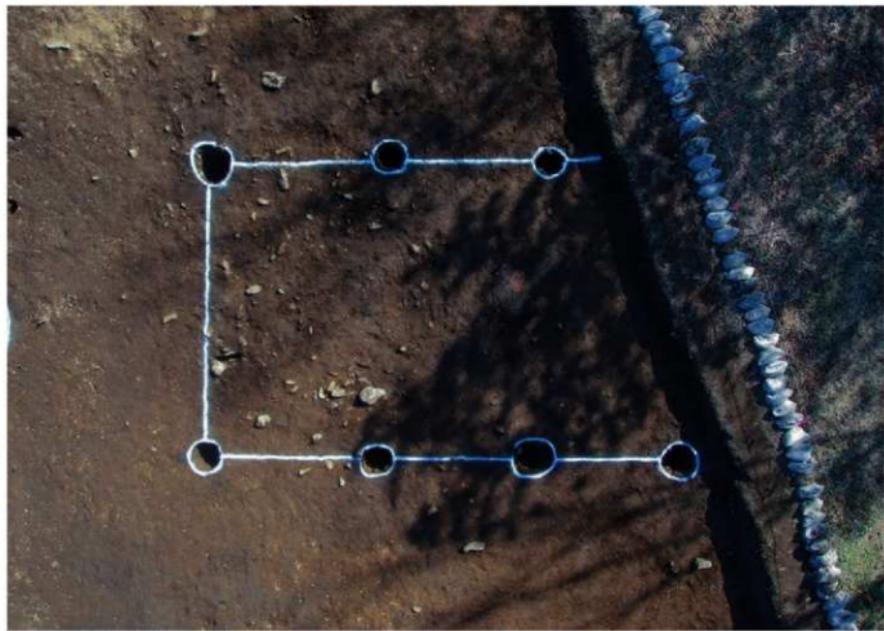
3 1区1面1号烟3群平坦面1(南から)



4 1区1面1号烟4群平坦面4(南から)



5 1区2面東側全景(北西から)



1 1区2面1号掘立柱建物全景(北西から)



2 1区2面1号掘立柱建物P 1全景
(北西から)



3 1区2面1号掘立柱建物P 1断面
(西から)



4 1区2面1号掘立柱建物P 2全景
(北西から)



5 1区2面1号掘立柱建物P 2断面
(西から)



6 1区2面1号掘立柱建物P 3全景
(西から)



7 1区2面1号掘立柱建物P 3断面
(北西から)



1 1区2面1号掘立柱建物P 4 全景
(北西から)



2 1区2面1号掘立柱建物P 4 断面
(北西から)



3 1区2面1号掘立柱建物P 5 全景
(南東から)



4 1区2面1号掘立柱建物P 5 断面
(南東から)



5 1区2面1号掘立柱建物P 6 全景
(南東から)



6 1区2面1号掘立柱建物P 7 全景
(南東から)



7 1区2面2号掘立柱建物、3号柵全景(北西から)

1 1区2面2号掘立柱建物P 1全景
(南から)2 1区2面2号掘立柱建物P 1断面
(南西から)3 1区2面2号掘立柱建物P 2全景
(南西から)4 1区2面2号掘立柱建物P 2全景
(南西から)5 1区2面2号掘立柱建物P 3全景
(南西から)6 1区2面2号掘立柱建物P 3断面
(南西から)7 1区2面2号掘立柱建物P 4全景
(南から)8 1区2面2号掘立柱建物P 4断面
(南から)9 1区2面2号掘立柱建物P 5全景
(南から)10 1区2面2号掘立柱建物P 5断面
(南から)11 1区2面2号掘立柱建物P 6全景
(北から)12 1区2面2号掘立柱建物P 7全景
(南から)13 1区2面2号掘立柱建物P 7断面
(南から)14 1区2面2号掘立柱建物P 8全景
(西から)15 1区2面2号掘立柱建物P 8断面
(南から)



1 1区2面3号柵P9全景（西から）



2 1区2面3号柵P10全景（西から）



3 1区2面3号柵P11全景（西から）



4 1区2面3号柵P12全景（南から）



5 1区2面3号柵P13全景（西から）



6 1区2面1・2号柵全景（北西から）



1 1区2面1号柵P 1全景 (北から)



2 1区2面1号柵P 2全景 (南西から)



3 1区2面1号柵P 2断面 (南西から)



4 1区2面1号柵P 3全景 (西から)



5 1区2面1号柵P 3断面 (南から)



6 1区2面1号柵P 4全景 (西から)



7 1区2面2号柵P 5全景 (南から)



8 1区2面2号柵P 6全景 (南から)



9 1区2面2号柵P 7全景 (南西から)



10 1区2面2号柵P 8全景 (西から)



11 1区2面2号柵P 9全景 (南西から)



1 1区2面1・2号塹全景(西から)



2 1区2面1・2号塹南半全景(南西から)



3 1区2面1・2号塹北半全景(北東から)



1 1区2面1・2号堤東端全景(東から)



2 1区2面1号堤A-A'断面(西から)



3 1区2面2号堤B-B'断面(西から)



4 1区2面1・2号堤C-C'断面(南西から)



5 1区2面1号堤C-C'断面(南西から)



6 1区2面2号堤C-C'断面(南西から)



7 1区2面1・2号堤D-D'断面(南から)



8 1区2面1号堤D-D'断面(南から)



1 1区2面2号堀D-D'断面(南から)



2 1区2面1・2号堀作業状況(南から)



3 1区2面1号溝全景(南東から)



4 1区2面1号溝全景(北西から)



5 1区2面1号溝断面(北西から)



6 1区2面1号土坑縄出土状況(南から)



7 1区2面1号土坑人骨出土状況(南東から)



1 1区2面1号土坑全景(南西から)



2 1区2面39号土坑炭化物検出状況(北東から)



3 1区2面39号土坑全景(北東から)



4 1区2面39号土坑断面(西から)



5 1区2面39号土坑作業状況(東から)



6 1区2面2号土坑全景(南から)



7 1区2面3号土坑全景(南から)



8 1区2面3号土坑断面(北東から)



1 1区2面4号土坑全景(南西から)



2 1区2面4号土坑断面(南西から)



3 1区2面5号土坑全景(北から)



4 1区2面5号土坑断面(北から)



5 1区2面6号土坑全景(南から)



6 1区2面6号土坑断面(南西から)



7 1区2面7号土坑全景(南から)



8 1区2面7号土坑断面(西から)



1 1区2面8号土坑全景(東から)



2 1区2面8号土坑断面(西から)



3 1区2面9号土坑全景(西から)



4 1区2面9号土坑断面(西から)



5 1区2面10号土坑全景(南から)



6 1区2面10号土坑断面(北から)



7 1区2面11号土坑全景(西から)



8 1区2面11号土坑断面(西から)



1 1区2面12号土坑全景(東から)



2 1区2面12号土坑断面(西から)



3 1区2面13号土坑全景(北西から)



4 1区2面13号土坑断面(北西から)



5 1区2面14号土坑全景(南西から)



6 1区2面14号土坑断面(南西から)



7 1区2面15号土坑全景(北から)



8 1区2面15号土坑断面(南から)



1 1区2面16号土坑全景(北西から)



2 1区2面17号土坑全景(南西から)



3 1区2面18号土坑全景(南から)



4 1区2面18号土坑断面(南から)



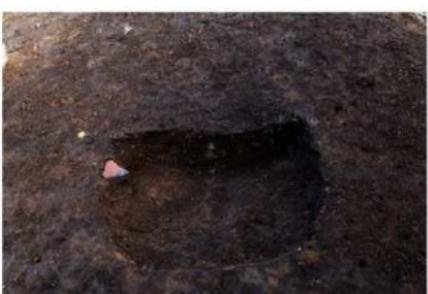
5 1区2面19号土坑全景(南西から)



6 1区2面19号土坑断面(南西から)



7 1区2面20号土坑全景(西から)



8 1区2面20号土坑断面(南西から)



1 1区2面21号土坑全景(西から)



2 1区2面21号土坑断面(西から)



3 1区2面22号土坑全景(西から)



4 1区2面22号土坑断面(西から)



5 1区2面23号土坑全景(南西から)



6 1区2面23号土坑断面(南西から)



7 1区2面24号土坑全景(南西から)



8 1区2面24号土坑断面(南西から)



1 1区2面25号土坑全景(南西から)



2 1区2面25号土坑断面(北東から)



3 1区2面26号土坑全景(南西から)



4 1区2面26号土坑断面(南西から)



5 1区2面27号土坑全景(南西から)



6 1区2面27号土坑断面(南西から)



7 1区2面28号土坑全景(南から)



8 1区2面28号土坑断面(南から)



1 1区2面29号土坑全景(西から)



2 1区2面29号土坑断面(西から)



3 1区2面30号土坑全景(西から)



4 1区2面30号土坑断面(西から)



5 1区2面31号土坑全景(南西から)



6 1区2面31号土坑断面(南西から)



7 1区2面32号土坑全景(南から)



8 1区2面32号土坑断面(南から)



1 1区2面33号土坑全景(西から)



2 1区2面33号土坑断面(北西から)



3 1区2面34号土坑全景(北西から)



4 1区2面34号土坑断面(北西から)



5 1区2面35号土坑全景(北西から)



6 1区2面35号土坑断面(北西から)



7 1区2面36号土坑全景(南西から)



8 1区2面36号土坑断面(南西から)



1 1区2面37号土坑全景(南西から)



2 1区2面37号土坑断面(南西から)



3 1区2面38号土坑全景(南から)



4 1区2面38号土坑断面(南から)



5 1区2面40号土坑燒土検出状況(南西から)



6 1区2面40号土坑全景(南西から)



7 1区2面40号土坑断面(南西から)



1 1区2面1号ピット全景(北から)



2 1区2面1号ピット断面(北東から)



3 1区2面2号ピット全景(南から)



4 1区2面2号ピット断面(南から)



5 1区2面6号ピット全景(西から)



6 1区2面8号ピット全景(南西から)



7 1区2面10号ピット全景(南西から)



8 1区2面10号ピット断面(南西から)



9 1区2面12号ピット全景(南から)



10 1区2面12号ピット断面(南西から)



11 1区2面22号ピット全景(南から)



12 1区2面22号ピット断面(南から)



13 1区2面23号ピット全景(西から)



14 1区2面23号ピット断面(南東から)



15 1区2面24号ピット全景(南から)



1 1区2面24号ピット断面(南西から)



2 1区2面25号ピット全景(南から)



3 1区2面25号ピット断面(南から)



4 1区2面26号ピット全景(西から)



5 1区2面26号ピット断面(南から)



6 1区2面29号ピット全景(北から)



7 1区2面29号ピット断面(北西から)



8 1区2面31号ピット全景(南西から)



9 1区2面31号ピット断面(南西から)



10 1区2面32号ピット全景(南西から)



11 1区2面32号ピット断面(南西から)



12 1区2面33号ピット全景(南西から)



13 1区2面33号ピット断面(南西から)



14 1区2面34号ピット全景(西から)



15 1区2面35号ピット全景(西から)



1 1区2面40号ピット全景(南西から)



2 1区2面40号ピット断面(南西から)



3 1区2面41号ピット全景(南西から)



4 1区2面41号ピット断面(南西から)



5 1区2面42号ピット全景(南西から)



6 1区2面42号ピット断面(南西から)



7 1区2面43号ピット全景(南西から)



8 1区2面43号ピット断面(南西から)



9 1区2面44号ピット全景(南西から)



10 1区2面44号ピット断面(南西から)



11 1区2面45号ピット全景(南西から)



12 1区2面45号ピット断面(南西から)



13 1区2面46号ピット全景(南西から)



14 1区2面46号ピット断面(南西から)



15 1区2面47号ピット全景(南西から)



1 1区2面47号ピット断面(南西から)



2 1区2面48号ピット全景(南西から)



3 1区2面48号ピット断面(南西から)



4 1区2面49号ピット全景(南西から)



5 1区2面49号ピット断面(南西から)



6 1区2面50号ピット全景(南西から)



7 1区2面50号ピット断面(南西から)



8 1区2面51号ピット全景(西から)



9 1区2面51号ピット断面(西から)



10 1区2面52号ピット全景(南西から)



11 1区2面52号ピット断面(北から)



12 1区2面53号ピット全景(南西から)



13 1区2面53号ピット断面(南西から)



14 1区2面54号ピット全景(北西から)



15 1区2面54号ピット断面(北西から)



1 1区2面55号ピット全景(東から)



2 1区2面55号ピット断面(南西から)



3 1区2面56号ピット全景(南西から)



4 1区2面56号ピット断面(南西から)



5 1区2面57号ピット全景(南から)



6 1区2面57号ピット断面(南西から)



7 1区2面58号ピット全景(南西から)



8 1区2面58号ピット断面(南西から)



9 1区2面59号ピット全景(北東から)



10 1区2面59号ピット断面(北東から)



11 1区2面60号ピット全景(南西から)



12 1区2面60号ピット断面(南西から)



13 1区2面61号ピット全景(南西から)



14 1区2面61号ピット断面(南西から)



15 1区2面62号ピット全景(西から)



1 1区2面62号ピット断面(北西から)



2 1区2面63号ピット全景(南西から)



3 1区2面63号ピット断面(南西から)



4 1区2面64号ピット全景(南西から)



5 1区2面64号ピット断面(南西から)



6 1区2面65号ピット全景(南西から)



7 1区2面65号ピット断面(南西から)



8 1区1面1号トレンチ全景(西から)



9 1区1面1号トレンチ断面(南から)



1 1区1面2号トレンチ全景(西から)



2 1区1面2号トレンチ断面(北から)



3 1区2面1号旧石器確認トレンチ全景(北から)



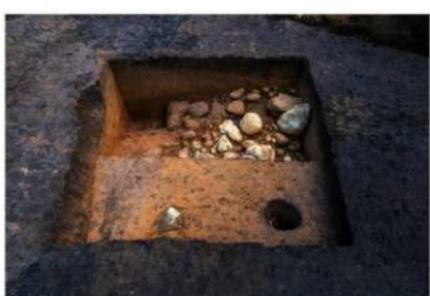
4 1区2面1号旧石器確認トレンチ断面(西から)



5 1区2面2号旧石器確認トレンチ全景(北から)



6 1区2面2号旧石器確認トレンチ断面(西から)



7 1区2面3号旧石器確認トレンチ全景(西から)



8 1区2面3号旧石器確認トレンチ断面(西から)



1 1区2面4号旧石器確認トレンチ全景(北から)



2 1区2面4号旧石器確認トレンチ断面(西から)



3 1区2面5号旧石器確認トレンチ全景(北から)



4 1区2面5号旧石器確認トレンチ断面(西から)



5 1区2面6号旧石器確認トレンチ全景(北から)



6 1区2面6号旧石器確認トレンチ断面(西から)



7 1区2面3号旧石器確認トレンチ作業状況(南西から)



1 2区調査区全景(北西から)



2 2区調査区南壁A-A'断面東側(西から)



3 2区調査区南壁A-A'断面西側(西から)



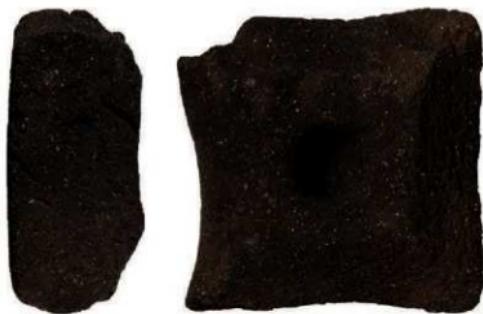
4 1区基本土層(南東から)



5 2区基本土層(北東から)

PL.36

1区2面1号掘



1



1区2面1号土坑



1

2

3



4

1区2面25号土坑



1

2

3

4



5

6

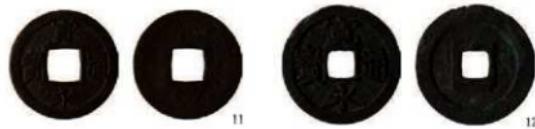
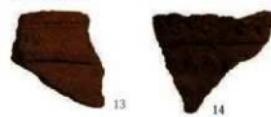
7

(癒着状態)

1区遗物外



2区遗物外



報告書抄録

書名ふりがな	まつやまつしもにいせき
書名	松谷松下2遺跡
副書名	上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	702
編著者名	高島英之
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20220314
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	まつやまつしもにいせき
遺跡名	松谷松下2遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんひがしあがつまちおおあざまつやあざくくど
遺跡所在地	吾妻東吾妻町大字松谷字久々戸
市町村コード	10429
遺跡番号	116
北緯(世界測地系)	36.5665
東経(世界測地系)	138.75811
調査期間	20191001～20191130
調査面積	3,890.000
調査原因	道路建設
種別	集落、烟
主な時代	绳文/古墳/奈良/平安/中世
遺跡概要	中世後期-掘立柱建物2+柵3+堀2+溝1+ピット22/近世前期-墓壙2/近世中～後期-復旧坑18+烟1/時期不明-土坑38+ピット21
特記事項	近世中～後期の耕地、中世後期の城砦・居館 吾妻川の左岸側の河岸段丘上に所在し、北側には吾嬬山の山麓が広がり、南側は吾妻川が東西方向に流走し、東側は、吾嬬山中腹から発した小河川が形成した深い谷に接している。 天明泥流堆積物直下を1面とし、江戸時代後期の天明3年に起った浅間山噴火に伴う天明泥流に被災した耕地とその復旧坑が検出され、江戸時代天明年間は、調査対象地のほぼ全面が耕作地であったことが判明した。 その下層、ローム漸移層上の2面では、調査区東半のエリアから、規矩状に囲繞する2重の堀と自然の谷地形を利用して区画した約1500mの方形状の防御性の高い方形区画の内側から2棟の掘立柱建物、3条の柵などを中心とした遺構群が検出された。 中世後期(戦国期頃)のものと考えられ、居館か砦のような施設が営まれ、その施設に関わる人々の動きが存在してた場所であったことが判明した。 吾妻川流域は、砦や烽火を置くのに適した山間部であり、古くから信濃国方面、上野国碓氷郡方面、上野国群馬郡方面、上野国利根郡方面へとそれぞれ繋がる陸上交通路上の要衝の地であり、また、吾妻川から利根川を利用した水上交通路も利用可能であったため、中世・戦国期においては、頻繁に開拓争いの地となり、支配者の交替・転変が激しい地域であった。東吾妻町一帯にも多くの城砦や居館の遺跡が分布している。本遺跡の第2面から検出された2条の並走する堀と、吾妻川と小河川の沢による自然地形を巧みに利用して構築された、防御施設を備えた城砦、居館についても、このような当地における歴史的な経緯の中に位置付けることが出来よう。
要約	

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第702集

松谷松下2遺跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和4(2022)年3月10日 発行

令和4(2022)年3月14日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県伊勢崎市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／ジャーナル印刷株式会社

